

新しい防災気象情報

令和8年5月29日開始
気象の警報などが大きく変化

2026年6月12日
沖縄気象台

1 背景

2 防災気象情報の改善(概要)

- 情報体系と名称
- 河川氾濫・大雨に関する情報
- 土砂災害に関する情報
- キキクル
- 高潮に関する情報
- 早期注意情報
- 時系列情報
- 気象防災速報・気象解説情報
- 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組

平成30年7月豪雨では、台風や梅雨前線の影響により西日本を中心に200名を超える多くの死者を出した。気象庁や関係機関からの**防災気象情報**や**自治体からの避難の呼びかけ**が、必ずしも**住民の避難行動に繋がっていない**かった。

＜平成30年に被災した市町村でアンケートを実施＞

課題

・防災気象情報が必ずしも避難行動につながっていない

課題1 気象庁(気象台)が伝えたい危機感等が、住民等に十分に感じてもらえていない

- ① 防災気象情報の持つ意味や使い方が十分に理解されていない
- ② 大雨時に気象庁(気象台)の危機感が十分に伝えきれていない

課題2 防災気象情報を活用しようとしても、使いにくい

- ① 土砂災害の「危険度分布」のメッシュは分解能が粗くて避難勧告等の対象エリアの絞り込みに使いにくい
- ② 市町村等が避難判断に活用する際には、危険度分布に加えて、災害危険箇所等の情報も参照する必要があるが、これらの情報が様々な場所にあって、一覧性に乏しい
- ③ 危険度分布の危険度(色)が変わっても、市町村等ではすぐに気付くことができないので使いづらい
- ④ 危険度分布等の防災気象情報が、災害発生状況と対応していない場合が多い印象があり、どの程度信用してよいかわからない

課題3 気象庁の発表情報の他にも防災情報が数多くあって、それぞれの関連が分かりにくい (例えばどの情報が避難勧告に相当するかが分かりにくい)

- ▶ 住民が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう避難情報等を5段階の警戒レベルに整理。
(平成30年7月豪雨の教訓を踏まえ、令和元年出水期から運用開始。)
- ▶ その後、令和3年の災害対策基本法改正により、警戒レベル4にあたる避難勧告と避難指示が避難指示に一本化。

令和3年5月20日から

避難指示で必ず避難
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確視したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

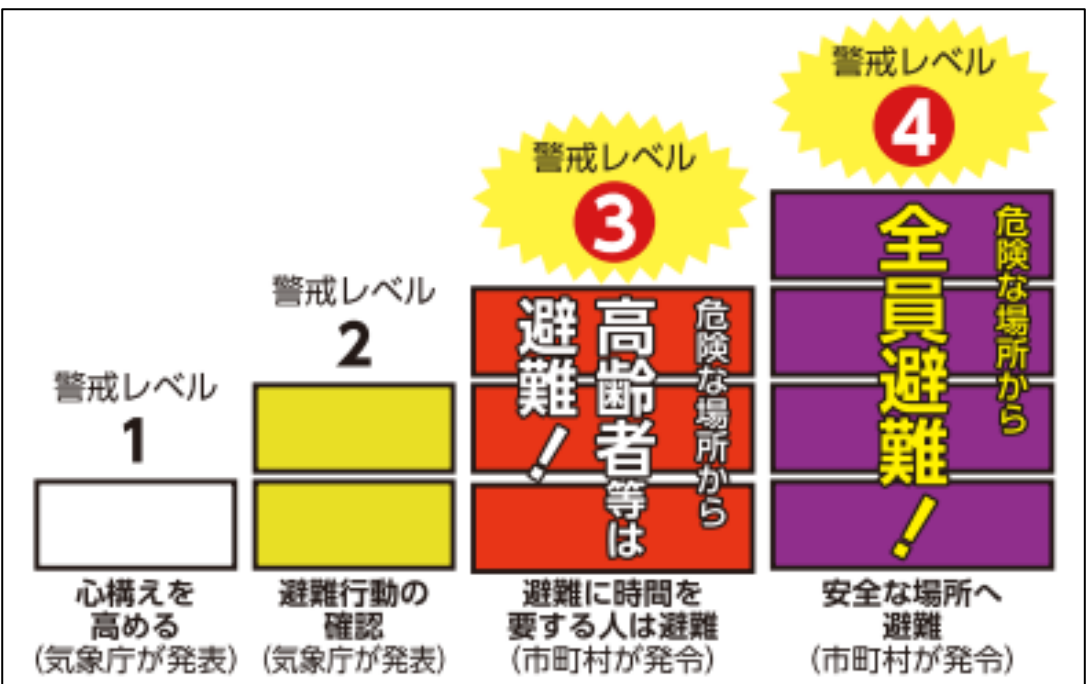
※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて自発的な行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません!

避難勧告は廃止されます。これからは、**警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難**しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、**警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難**しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁



! 警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。

「避難行動判定フロー・避難情報のポイント」(内閣府(防災担当))より

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府(防災担当))より

現在の主な防災気象情報と警戒レベルとの関係

- **警戒レベル**は、住民が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、**避難情報等を5段階に整理**したもの。（例：レベル4 = 避難指示、レベル3 = 高齢者等避難）
- **防災気象情報**は、**避難情報の発令や住民の自主避難の参考となる「警戒レベル相当情報」という位置づけ**ですが、警戒レベルとの関係が分かりづらかったため、その改善を図りました。

警戒レベル				現在の防災気象情報（警戒レベル相当情報）				
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報（避難情報等）	防災気象情報				
				洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害
			指定河川洪水予報（河川毎）	洪水害（市町村毎）	大雨浸水害（市町村毎）			
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保！	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報（浸水害）	大雨特別警報（土砂災害）	高潮氾濫発生情報
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報（土砂災害）	警報に切り替える可能性が高い高潮注意報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する	洪水、大雨、高潮注意報	2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報	高潮注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当				

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、避難指示等の発令を判断する

<警戒レベル4までに必ず避難！>

防災気象情報と警戒レベルとの関係が分かりづらいという課題があり、「防災気象情報に関する検討会」において2年半かけて検討。その最終とりまとめ（令和6年6月）に沿って防災気象情報を改善。

2 防災気象情報の改善(概要)

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。**（例：レベル4大雨危険警報等）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとに) 住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

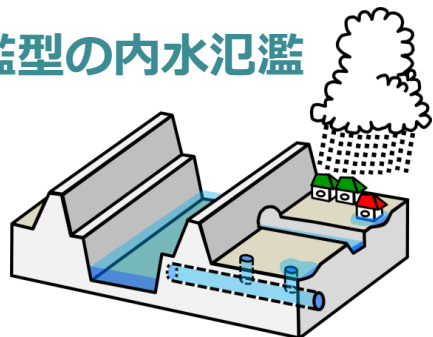
- 河川氾濫に関する情報は、**洪水予報河川を対象として河川ごとに発表**。また、**氾濫の発生または切迫している場合に発表する情報は「特別警報」**に位置づけます。
- **それ以外の河川の氾濫については、大雨に関する情報で、内水氾濫（浸水害）と一緒に扱う**。なお、気象台による**市町村ごとの洪水警報・注意報の発表は行いません**。

河川氾濫・大雨に関する情報体系と名称

河川氾濫に関する情報				沖繩県の河川を含む
分類	洪水予報河川	水位周知河川	左記以外の河川	
発表主体	河川事務所または都道府県と気象台	当面は、大雨に関する情報で扱う* (洪水予報河川への移行を促進)	大雨に関する情報で扱う	気象台
発表単位	河川ごと			市町村ごと
対象とする主な現象	外水氾濫			内水氾濫及び 洪水予報河川以外の外水氾濫
発表指標	水位（実測・予測）			表面雨量指数・流域雨量指数 (解析・予測)
情報名称	5			レベル5 氾濫特別警報
	4	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	
	3	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	
	1	早期注意情報	早期注意情報	

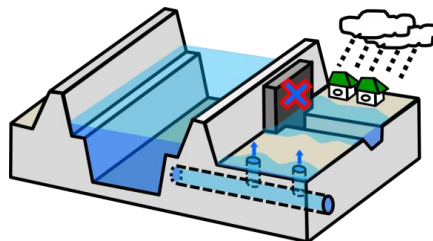
※このほか、河川事務所・都道府県により水位（実測）に基づく情報（例：氾濫危険情報）が発表される。

氾濫型の内水氾濫



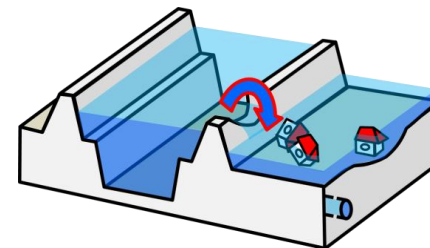
- ✓ 短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
- ✓ 河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。

湛水型の内水氾濫



- ✓ 河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できずに発生。
- ✓ 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。

その他河川の外水氾濫



- ✓ 河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。

現在は、洪水警報・注意報として発表

情報発表に
利用する指数

表面雨量指数

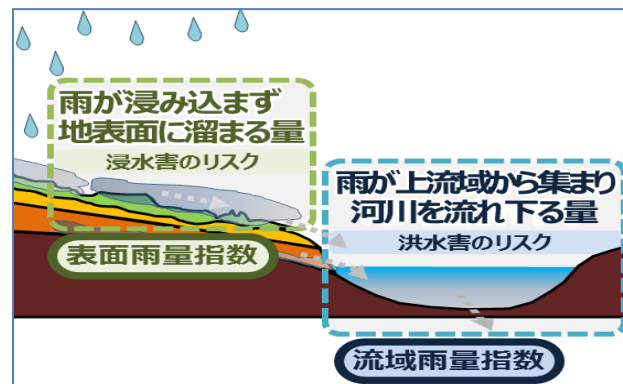
表面雨量指数 + 流域雨量指数

流域雨量指数

上記3つの現象のうち、いずれかの指数が発表基準を満たす場合に、市町村単位で情報発表

<指数の概要>

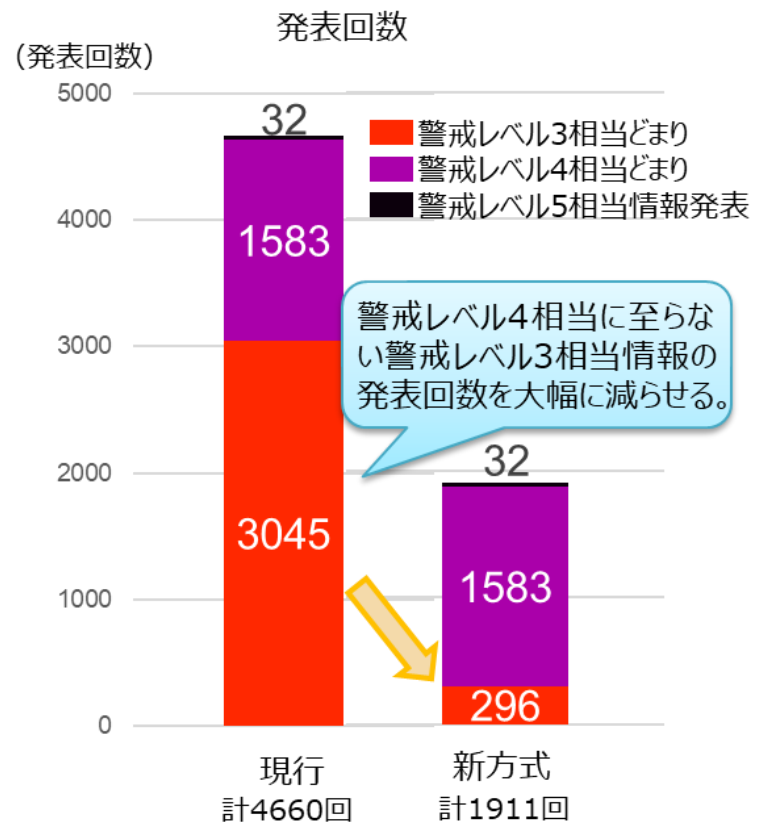
- **流域雨量指数**：河川の上流域に降った雨により、どれだけ下流の対象地点の洪水危険度が高まるかを把握するための指標
- **表面雨量指数**：短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標



- 警戒レベル4相当は、現在の土砂災害警戒情報から**レベル4土砂災害危険警報**に変更。
 - **レベル3土砂災害警報**は、3時間先※にレベル4土砂災害危険警報の基準に達すると予想される場合に発表します。
- 現在の大雨警報（土砂災害）に比べ、警戒レベル4相当に至らない**情報発表が大幅減**。
- ※4～6時間先までにレベル4基準に到達すると予想が可能な場合にも発表

土砂災害に関する情報体系と名称

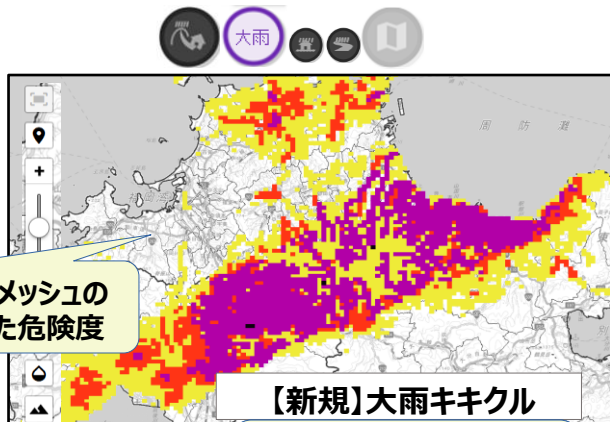
発表者		気象台
発表指標		60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）
情報名称	5	レベル5土砂災害特別警報
	4	レベル4土砂災害危険警報
	3	レベル3土砂災害警報
	2	レベル2土砂災害注意報
	1	早期注意情報



土砂災害に関する警戒レベル3相当情報の発表回数の比較
(令和3年のデータに基づく)

- 大雨や土砂災害に関する情報が発表された際に、**危険度が高まっている地域を確認**することができます。
- 大雨に関する情報が対象としている**河川の氾濫の危険度（洪水キキクル）**や**短時間強雨による浸水害の危険度（浸水キキクル）**を重ねて**大雨キキクル**として**新規表示**します。
- 洪水キキクルと浸水キキクルについて切替え表示**で、洪水災害・浸水害それぞれの危険度の確認が可能です。
- 土砂キキクルについては、判定基準の変更に伴い、**現行に比べて警戒（赤）が絞り込まれる**とともに、**注意（黄）から危険（紫）になることが多くなる**傾向がありますので、表示の特性の変化にご留意ください。

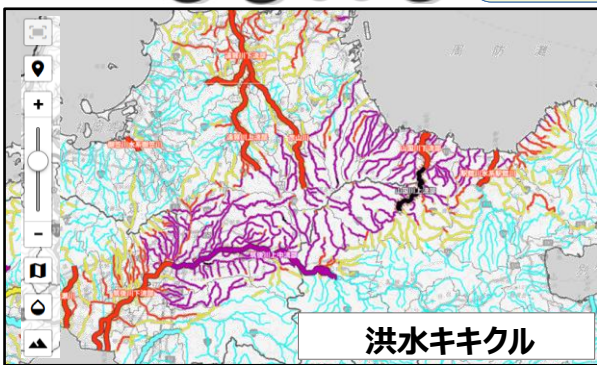
大雨キキクル（イメージ）



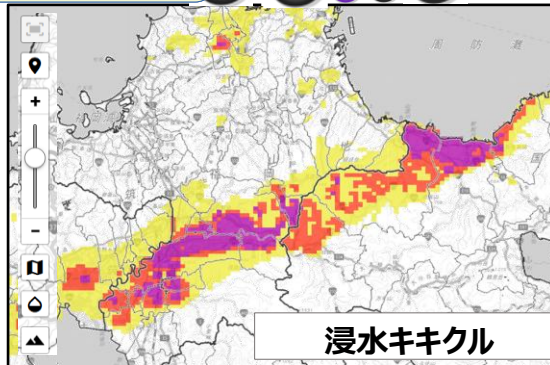
現行の浸水と洪水メッシュの危険度を重ね合せた危険度

【新規】大雨キキクル

ボタンにより大雨キキクル、浸水キキクル、洪水キキクルを切替え表示

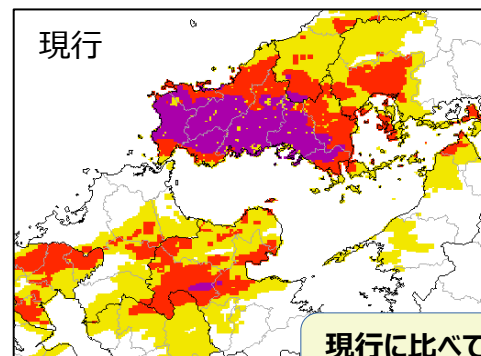


洪水キキクル



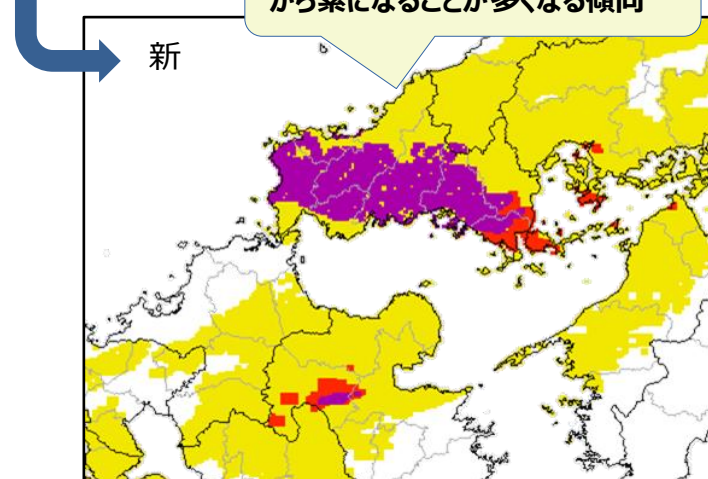
浸水キキクル

土砂キキクルの特性変化（イメージ）



現行

現行に比べて赤が絞り込まれ、黄から紫になることが多くなる傾向



新

- 国土交通大臣が指定する海岸（**高潮予報海岸**）では、国土交通省・気象台・都道府県が共同で、「**波の打上げ高**」を加味した、より精度の高い高潮の予報・警報を実施します。
- **レベル5 高潮特別警報は、氾濫が発生または切迫している場合に発表します。**（台風等を要因とした高潮特別警報から移行）

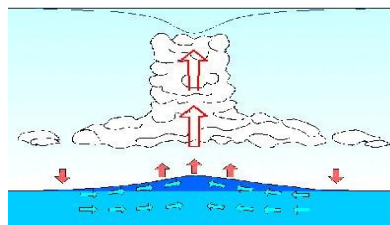
高潮に関する情報体系と名称

分類	高潮予報海岸	その他の海岸
発表主体	国土交通省・気象台・都道府県	気象台
発表指標	波による打上げ高を考慮した水位・潮位	潮位
情報名称	5	レベル5 高潮特別警報
	4	レベル4 高潮危険警報
	3	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 高潮注意報
	1	早期注意情報

■ 現在の高潮予報・警報

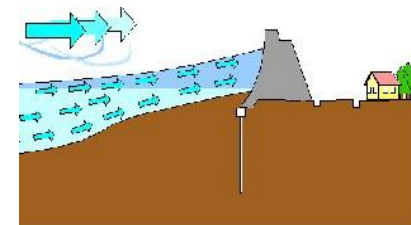
【吸い上げ】

気圧低下による潮位上昇



【吹き寄せ】

海岸に吹く風による潮位上昇

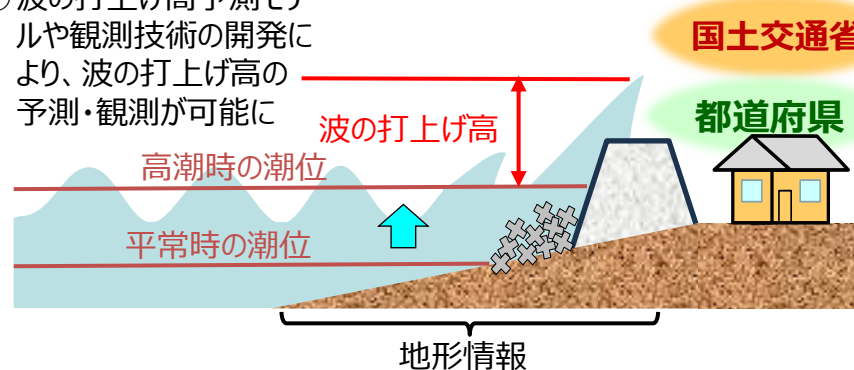


気象庁



■ 波の打上げ高を予報・警報に反映

- 波の打上げ高予測モデルや観測技術の開発により、波の打上げ高の予測・観測が可能に



打ち上げ高を加味して発表する地域は、準備ができ次第、順次追加（沖縄は、令和8年は潮位のみで発表）

- 警戒レベル相当情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）以外の特別警報・警報・注意報は、**これまでと変わりません。**
- これら情報について、気象庁ホームページ等では、特別警報は黒、警報は赤を用いるが、**警戒レベルには相当しない**ことに留意してください。

警戒レベル相当情報以外の特別警報・警報・注意報

現在は、濃い紫色

特別警報	暴風、波浪、大雪、暴風雪
警報	暴風、波浪、大雪、暴風雪
注意報	強風、波浪、大雪、風雪、濃霧、雷、乾燥、なだれ、着氷、着雪、霜、低温、融雪

※これらの特別警報や警報は、レベル5（緊急安全確保）やレベル3（高齢者等避難）には相当しないことに留意してください。

令和8年出水期からは、早期注意情報(警報級の可能性)を以下のように変更します。

- 令和8年出水期からは、これまで大雨に含めていた**土砂災害の警報級の可能性を切り分けて**発表します。
- さらに、明後日までを対象とした情報の時間幅を次のとおり変更します。
 - **明日までは**、12時間または18時間の時間幅で発表していたものを**6時間の幅で発表**
 - **明後日**については、1日の時間幅であったものを**午前・午後に分けて発表**

(現行)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	[中]	[高]				[中]	-	-	-



(新体系)

	1日	2日				3日		4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24			
大雨	-	[中]	[高]	[中]	-	-	-	-	-	-
土砂災害	-	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	-	-	-	-

早期注意情報をうまく活用して災害への心構えを！

- 令和8年度の新たな防災気象情報の運用開始に合わせ、新たに「時系列情報（明日までの警報等の見通し）」を提供します。現在の「危険度を色分けした時系列」（警報・注意報発表時に24時間先まで）は廃止。
- 時系列情報は、警報・注意報に先立って気象の見通しを二次細分区単位(+山地等の分割地域)で提供する予測情報です。
 - **警報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象とする全要素※について、翌日までの3時間毎または日毎の気象状況の見通しを、毎日4回（05時、11時、17時、23時）提供**
 ※対象要素：
 大雨、土砂災害、風、波、高潮、雷、乾燥、大雪、融雪、濃霧、着氷、着雪、なだれ、低温、霜
 （下線部の要素は日毎の見通しを提示）
 - 気象庁ホームページでは常時表示、定期的に更新（上記の4回）
 - 定期的な更新以外にも、当初の想定から今後の見通しが大きく変わった場合などには、必要に応じて臨時に修正情報を発表（気象庁ホームページの時系列情報も更新）

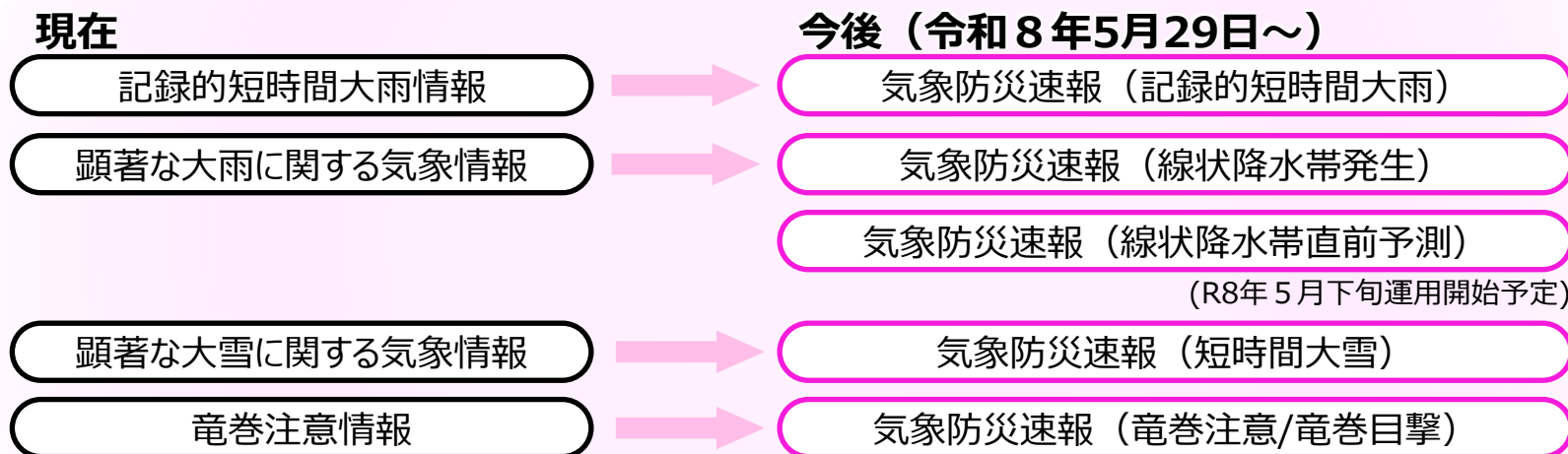
時系列情報のイメージ

全国の時系列情報（明日までの警報等の見通し）												
2025年02月17日17時00分発表												
北海道地方	17日				18日						19日	備考・関連する現象
	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24		
1時間最大雨量 (mm)	100	100	50	50	30	30	10	10	10	10		
24時間最大雨量 (mm)	100											
大雨	■	■	■	■	■	■						
土砂災害	■	■	■	■	■	■						
暴風 (m/s)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
6時間最大降雪量 (cm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
24時間最大降雪量 (cm)	0											
大雪	■	■	■	■	■	■						
波浪 (m)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
高潮 潮位 (m)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
雷												
融雪												
濃霧												
着氷												
着雪												
乾燥 最小湿度 (%)	35				35						35	
なだれ												
低温												
霜												

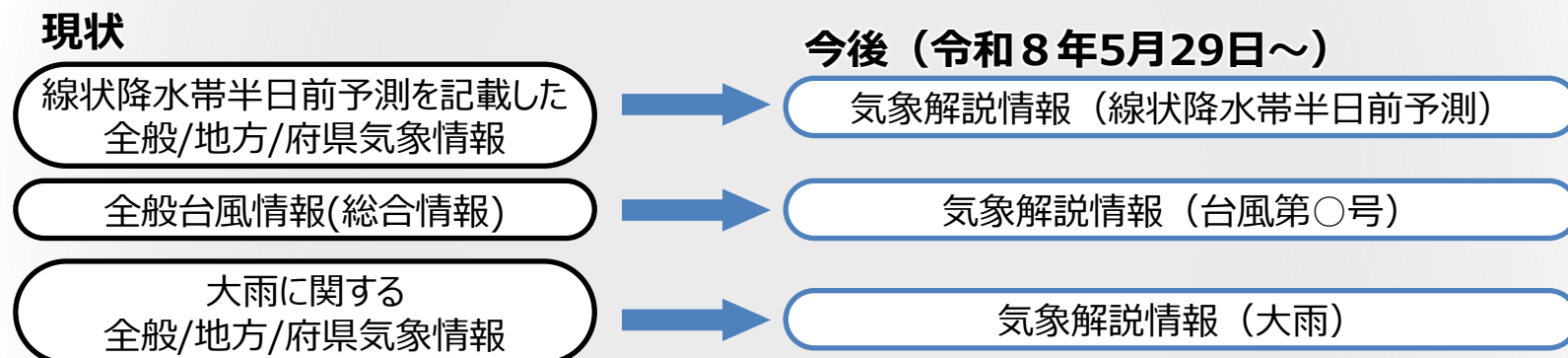
- 特別警報基準を超えると予想される時間帯
- 危険警報基準を超えると予想される時間帯
 （土砂災害、高潮については、危険警報発表の可能性のある時間帯）
- 警報基準を超えると予想される時間帯
 （土砂災害、高潮については、警報発表の可能性のある時間帯）
- 注意報基準を超えると予想される時間帯
 （高潮については、注意報発表の可能性のある時間帯）

- 警戒レベル相当情報やそれ以外の警報等を補足する情報として、線状降水帯など**顕著現象が発生または発生しつつある場合に「気象防災速報」を発表。**
- 現在・今後の気象状況や災害発生の危険度の見通しなどを網羅的に解説する情報として、「気象解説情報」も適宜に発表。

気象防災速報 … 極端な現象を速報的に伝える情報 (府県単位でのみ発表)



気象解説情報 … 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報 (全国・地方・府県単位で発表)



線状降水帯に関する情報

観測強化や予測精度の改善により、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施しています。

- **令和8年5月29日から、2～3時間前**を目標にした予測情報を提供
 - **令和11年から、半日前に市町村単位**で線状降水帯発生の可能性が把握可能な分布形式の情報を提供予定
- 情報のリードタイムを伸ばし、また、情報の発表の対象地域を狭めることで、国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていきます。

「迫りくる危険から直ちに避難」→情報のリードタイムをのばす

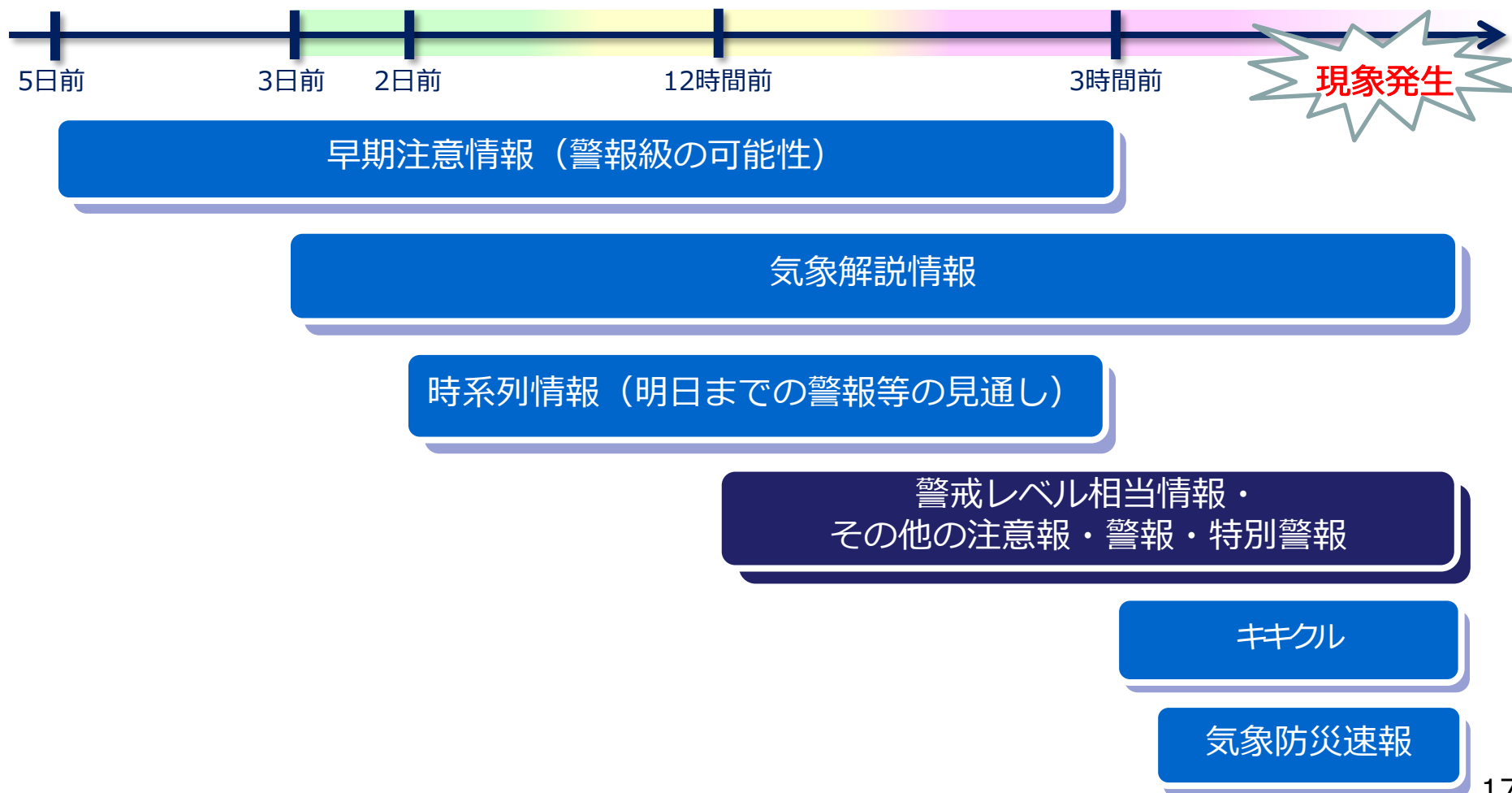
文章情報	半日前予測 半日程度前からの呼びかけ 令和4年 地方単位で予測 ↓ 令和6年 府県単位 で 発生の日程度前に予測 ○○県では、○○から○○にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。	直前予測 確度の高い直前の予測 令和8年 ○○県北部などの 一次細分区域単位 で 線状降水帯となる 2～3時間前 を目標に予測 ○○県北部では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害の危険度が非常に高まるおそれがあります。	発生情報 令和3年 ○○県北部などの 一次細分区域単位で 線状降水帯の発生をお知らせ + 追加 令和5年 最大30分程度前倒し ○○県北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まっています。
	図情報 計画 令和11年 線状降水帯発生による大雨の 可能性が高い 市町村 を把握 できる格子形式の分布図を表示※1  イメージ	線状降水帯予測マップ 令和8年 線状降水帯となり、災害をもたらす 大雨のおそれがある 大まかな領域 を 2～3時間前 を目標に 図情報で表示 	令和3年 線状降水帯の雨域を 楕円で表示 最大30分程度前倒して解析した結果も 楕円で表示 (令和5年～)  「雨雲の動き」・「今後の雨」 に楕円を表示

※ 従前の計画通り令和11年に提供開始予定。令和12年度運用開始予定の次期静止気象衛星により更なる予測精度向上を目指す。

新しい情報体系に合わせて令和8年5月29日から新たに開始

- 警戒レベル相当情報とあわせて、**段階的に発表される様々な防災気象情報を防災対応の判断に活用**することが重要です。

- 早期注意情報や時系列情報等は、心構えを高め、事前の体制確保の検討に活用。
- キキクルや気象防災速報は、避難の判断や後押しに活用してください。





- 新たな防災気象情報についての広報資料等入手できる**特設サイトを公開**しています。
- 掲載された資料等を是非ご活用ください。

【特設サイトの構成】

- ・新たな防災気象情報の概要
- ・チラシ・リーフレット等の広報資料
- ・新たな防災気象情報の説明資料
- ・関連サイトへのリンク

※順次資料を充実していきます。

新たな防災気象情報について(令和8年～)

令和8年5月下旬(予定)より 気象の警報などが大きく変わります

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

- 👉 警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます
- 👉 河川の氾濫の危険度の伝え方が変わります（特別警報の新設など）
- 👉 「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます





新たな防災気象情報 ～気象の警報などが大きく変わる～

開始時期 令和8年5月29日

- 警報・注意報等の情報名に「レベル」が付記される。
- 「警戒レベル4相当」情報は「危険警報」として発表される。
- 河川の氾濫の危険度の伝え方が変わる。

運輸事業者の防災情報活用を促すワークショップ

沖縄地方における防災関連情報

内閣府沖縄総合事務局
開発建設部防災課



本日の項目

- ①事前に災害リスクの把握
- ②リアルタイムで災害情報の入手
- ③緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

事前に災害リスクを把握する

- ① ハザードマップポータルサイト
- ② 沖縄県地図情報システム
- ③ 地点別浸水シミュレーションシステム（浸水ナビ）
- ④ 直轄国道冠水想定箇所

事前に災害リスクを把握する

① ハザードマップポータルサイト

URL : <https://disaportal.gsi.go.jp>

全国の市町村が公開しているハザードマップが確認できる

ハザードマップポータルサイト

身のまわりの災害リスクを調べる

使い方

よくある質問

利用規約/オープンデータ配信

寝屋川流域の浸水継続時間（想定最大規模）については[大阪府のページ](#)をご確認ください。

2025年3月17日 重ねるハザードマップの改良を行いました。詳細は、[こちら](#)をご覧ください。
2024年12月9日 利用規約を更新しました。ご利用の際は、[新しい利用規約](#)のご確認をお願いいたします。

身のまわりの災害リスクを調べる

重ねるハザードマップ

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。

地域のハザードマップを閲覧する

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。


住所から探す

住所を入力することで、その地点の災害リスクを調べることができます

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院



現在地から探す

 現在地から探す

[新機能（災害リスク情報のテキスト表示）](#) について

地図から探す



災害の種類から選ぶ



洪水



土砂災害



高潮



津波



都道府県



市町村



ハザードマップの種類



この内容で閲覧

那覇市の例

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。



都道府県



都道府県をクリック

市町村



ハザードマップの種類



この内容で閲覧

那覇市の例

兵庫県
奈良県
和歌山県
鳥取県
島根県
岡山県
広島県
山口県
徳島県
香川県
愛媛県
高知県
福岡県
佐賀県
長崎県
熊本県
大分県
宮崎県
鹿児島県
沖縄県 沖縄県を選択

沖縄県

市町村

ハザードマップの種類

この内容で閲覧

那覇市の例

地域のハザードマップを閲覧する

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。



沖縄県



沖縄県になっている事を確認

市町村



市町村を選択

ハザードマップの種類



この内容で閲覧

那覇市の例

市町村

那覇市

宜野湾市

石垣市

浦添市

名護市

糸満市

沖縄市

豊見城市

うるま市

宮古島市

南城市

国頭村

大宜味村

東村

今帰仁村

本部町

恩納村

宜野座村

金武町

市町村

ハザードマップの種類

この内容で閲覧

那覇市を選択

那覇市の例

地域のハザードマップを閲覧する

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。



沖縄県



那覇市



那覇市になっている事を確認

ハザードマップの種類



ハザードマップの種類を選択

この内容で閲覧

那覇市の例

地域のハザードマップを閲覧する

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。



ハザードマップの種類

洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップを選択

内水ハザードマップ

ため池ハザードマップ

高潮ハザードマップ

津波ハザードマップ

土砂災害ハザードマップ

火山ハザードマップ

ハザードマップ公表状況

地震防災・危険度マップ

地震防災・危険度マップの公表状況

ハザードマップの種類



この内容で閲覧

那覇市の例

地域のハザードマップを閲覧する

わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。



沖縄県



沖縄県になっている
事を確認

那覇市



那覇市になっている
事を確認

洪水ハザードマップ



洪水ハザードマップに
なっている事を確認

この内容で閲覧

上記3つ選択後この内容で閲覧
をクリック



行政情報検索

検索語句



検索



住所



施設

住所から探す

あ | か | さ | た | な | は | ま | や | わ



本サイトは、スマートフォンや携帯電話からも閲覧することができます。
次のURLまたはQRコードからアクセスしてください。

<https://www.sonicweb-asp.jp/naha/>

お知らせ

お知らせ一覧

お問い合わせ先

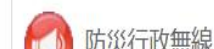
那覇市役所

〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号

文化財



防災



利用規約

ヘルプ

公共施設

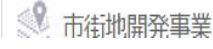


環境

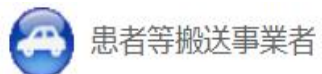
医療・福祉



都市計画



下にスクロール



患者等搬送事業者



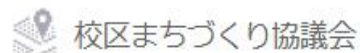
がん検診・特定検診
に関する医療機関

住居表示



住居表示

校区まちづくり協議会



校区まちづくり協議会



都市施設



市街地開発事業



景観計画地区



立地適正化区域



市町村界

道路種別マップ



道路種別マップ

水質汚濁防止法



市・特定施設台帳



県・特定施設台帳

選挙



ポスター掲示板



市役所



広域避難場所



指定緊急避難場所



指定避難所



自主避難所



津波緊急一時避難施設



公園



土砂災害警戒区域



土砂災害特別警戒区域



砂防三法指定区域



津波災害警戒区域



津波浸水予想図



高潮浸水予想図



安里川 想定最大規模



安里川 計画規模



安里川 浸水継続時間

環境



ガジュマル



デイゴ



アカギ



ハウオウボク



モモタマナ



ソウシジュ



トックリキワタ



ホルトノキ



トキワギョリュウ



ナンキンハゼ



トックリヤシモドキ



アコウ



コバノナンヨウスギ

安里川 想定最大規模をクリック

安里川 想定最大規模

例) 安里川最大想定規模

なはMAP!

表示テーマ 防災

行政情報検索 検索

レイヤ表示

- 津波浸水予想図
- 高潮浸水予想図
- 安里川 想定最大規模
- 安里川 計画規模

透過度

1/940 1/1875 1/3750 1/7500 1/15000 1/30000 1/60000

キーワード ショートカット 地図データ ©2026 100m 利用規約 地図の誤りを報告する

メニュー 文字サイズ ログイン

例) 安里川最大想定規模

レイヤ 住所 施設 情報一覧

レイヤ表示

- 公園
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 砂防三法指定区域
- 津波災害警戒区域
- 津波浸水予想図
- 確認したい項目を選択**
- 安里川 想定最大規模



例) 安里川最大想定規模



表示テーマ **防災** テーマ変更 ▶

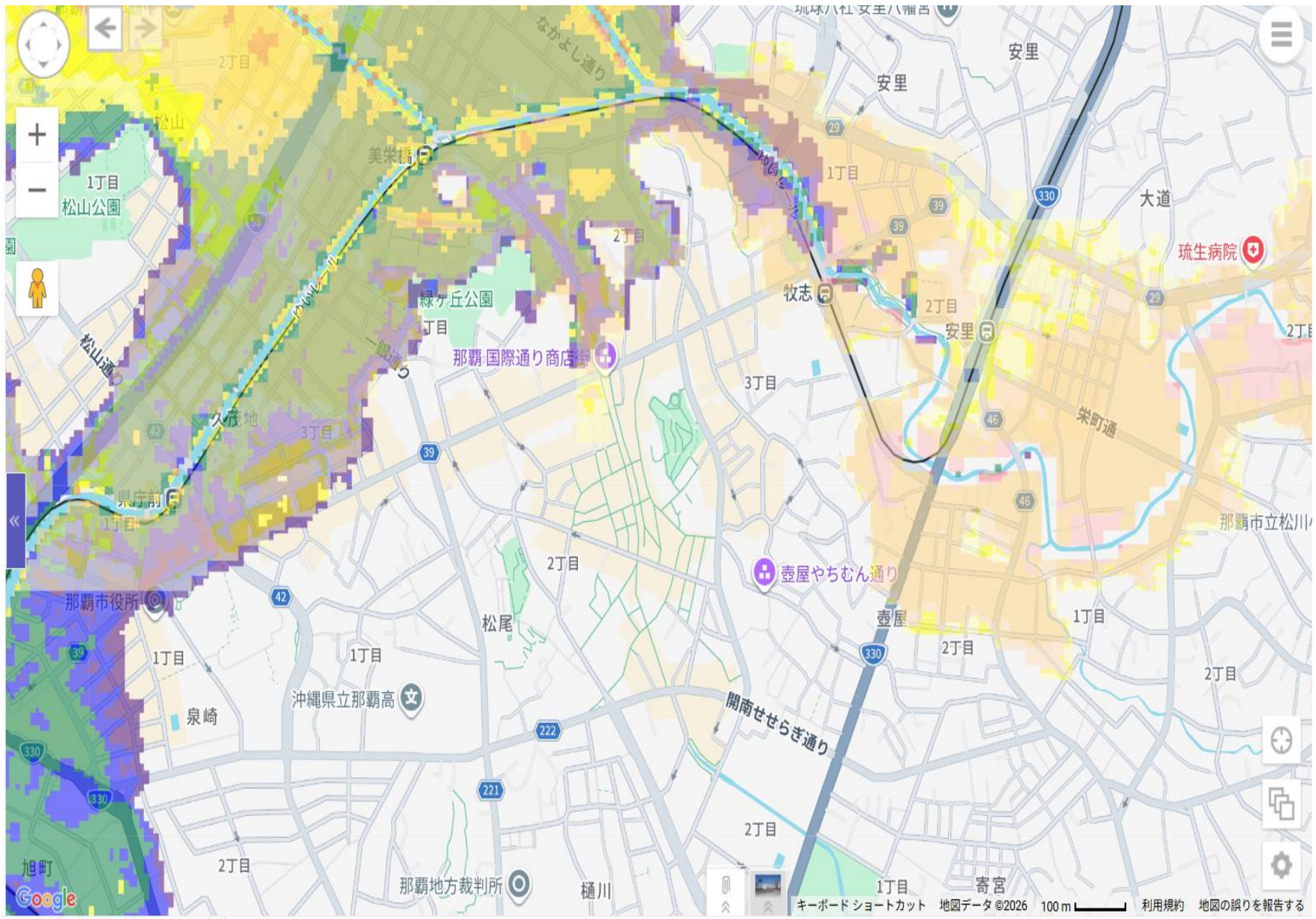
行政情報検索
検索語句 検索

-  レイヤ
-  住所
-  施設
-  情報一覧

レイヤ表示

- 津波災害警戒区域
- 津波浸水予想図**
 -  0.5m未満
 -  0.5m以上~1.0m未満
 -  1.0m以上~2.0m未満
 -  2.0m以上~3.0m未満
 -  3.0m以上~4.0m未満
 -  4.0m以上~5.0m未満
 -  5.0m以上
- 高潮浸水予想図

透過度



+ 1/940 1/1875 1/3750 **1/7500** 1/15000 1/30000 1/60000 -

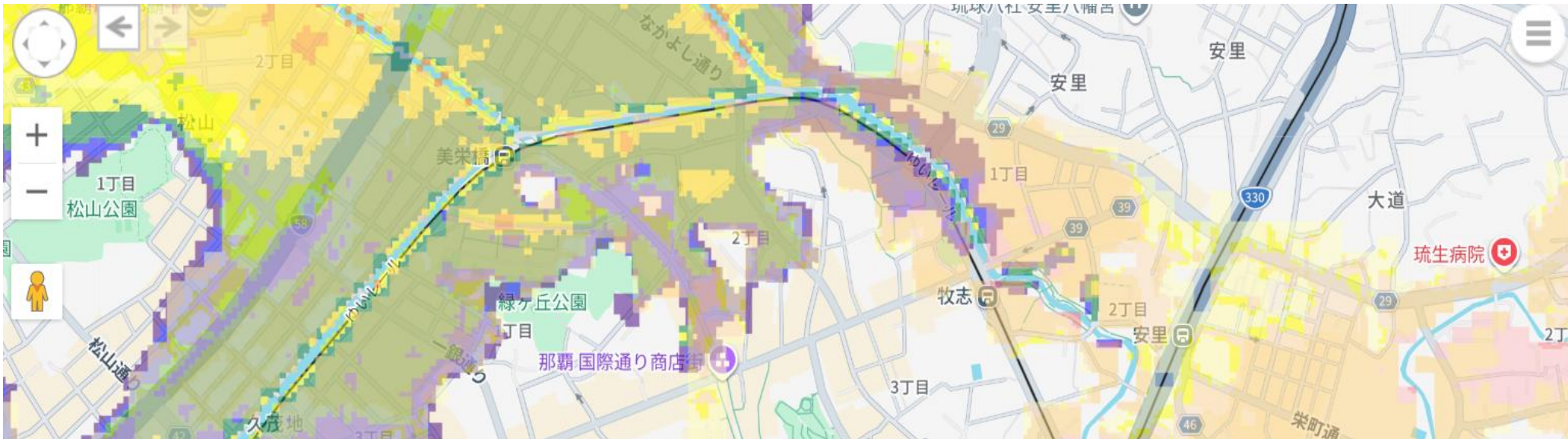
安里川想定最大規模



安里川想定最大規模

+

津波浸水予想図



事前に災害リスクを把握する

② 沖縄県地図情報システム

URL : <http://gis.pref.okinawa.jp/pref-okinawa/Portal>

沖縄県地図情報システム

沖縄県地理情報システムは、沖縄県が提供する地図情報システムです。

使い方ガイド

「沖縄県地図情報システム」とは…
沖縄県地図情報システムは、沖縄県が提供する地理情報システムです。

お知らせ

2026-5-13

土地利用・まちづくり>地価情報
>地価公示(R8.1.1)を追加しました。

2026-5-11

掲載マップ一覧

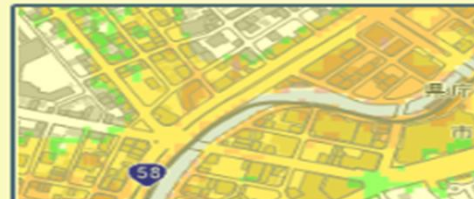


ご覧になりたい情報マップの地図検索をクリックすると、検索トップページに遷移します。



基本情報
基本情報

地図検索



防災
防災

地図検索



暮らし・環境
暮らし・環境

地図検索



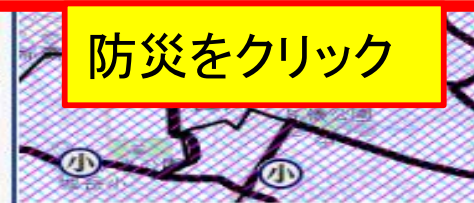
健康・福祉
健康・福祉

地図検索



土地利用・まちづくり
土地利用・まちづくり

地図検索



教育・文化
教育・文化

地図検索



しごと・産業
しごと・産業

地図検索

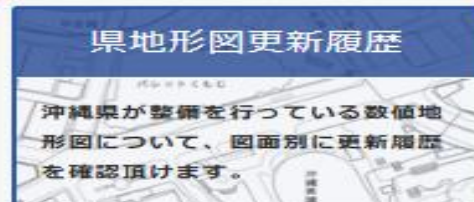


統計情報
統計情報(公開)

地図検索



オープンデータカタログ
沖縄県がオープンデータを実践していくために設置した試行サイトです。



県地形図更新履歴

沖縄県が整備を行っている数値地形図について、画面別に更新履歴を確認頂けます。

更新履歴を見る



スマートフォンサイトはこちら

二次元コードをお読みください。
(一部未対応の機種があります)

防災をクリック

沖縄県地図情報システム

沖縄県地理情報システムは、沖縄県が提供する地図情報システムです。

使い方ガイド

「沖縄県地図情報システム」とは…
沖縄県地図情報システムは、沖縄県が提供する地理情報システムです。

お知らせ

- 2026-5-13
土地利用・まちづくり>地価情報
>地価公示(R8.1.1)を追加しました。
- 2026-5-11
...

マップ選択

那覇市役所本庁舎
開南こども園
開南小学校
避難所・避難場所関係

避難所・避難場所関係をクリック



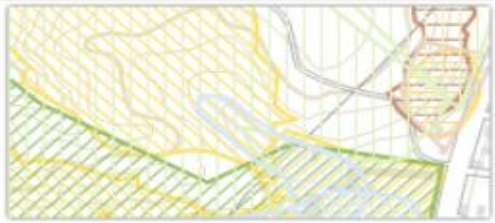
津波災害警戒区域図 (H30・H31年度)



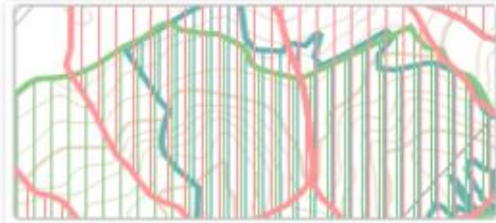
津波浸水想定図 (H26年度)



津波浸水予測図 (H24年度)



土砂災害危険箇所



山地災害危険地区

閉じる

沖縄県地図情報システム

沖縄県地理情報システムは、沖縄県が提供する地図情報システムです。

使い方ガイド

ホーム > トップページ > 利用許諾 > 位置選択

表示マップ: 避難所・避難場所関係

郵便番号・住所から探す

郵便番号・住所またはその一部を入力してください。

入力例: 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

検索

住所一覧から選択する場合はこちら

目標物から探す

目標物施設の名称やその一部を入力してください。

入力例: 市役所、ホール

検索

施設 店舗

避難所・避難場所関係から探す

入力例: 市役所、ホール

検索

検索対象: 名称を検索 全体を検索

津波避難ビル

津波避難ビル

津波避難タワー

津波避難タワー

指定緊急避難場所

指定緊急避難場所

指定一般避難所

指定一般避難所

主要施設から探す

- 沖縄県庁
- 那覇市役所
- 沖縄市役所
- 石垣市役所
- 浦添市役所
- 名護市役所
- うるま市役所
- 宜野湾市役所
- 糸満市役所
- 豊見城市役所
- 南城市役所

地図から探す

地図上でクリックすると、クリックした位置の地図を表示します。



地図上の那覇市をクリック

沖縄県地図情報システム

沖縄県地理情報システムは、沖縄県が提供する地図情報システムです。

- 全面面表示
- 2画面表示
- 属性一覧
- リンク
- 画像保存
- 印刷
- お問い合わせ
- 使い方がイ

避難所・避難場所関係

マップ切替

現在地 那覇市泉崎1丁目付近

入力例: 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

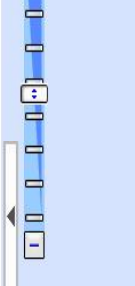
- 探す
- 測る
- 描く
- ルート

主題 レイヤ

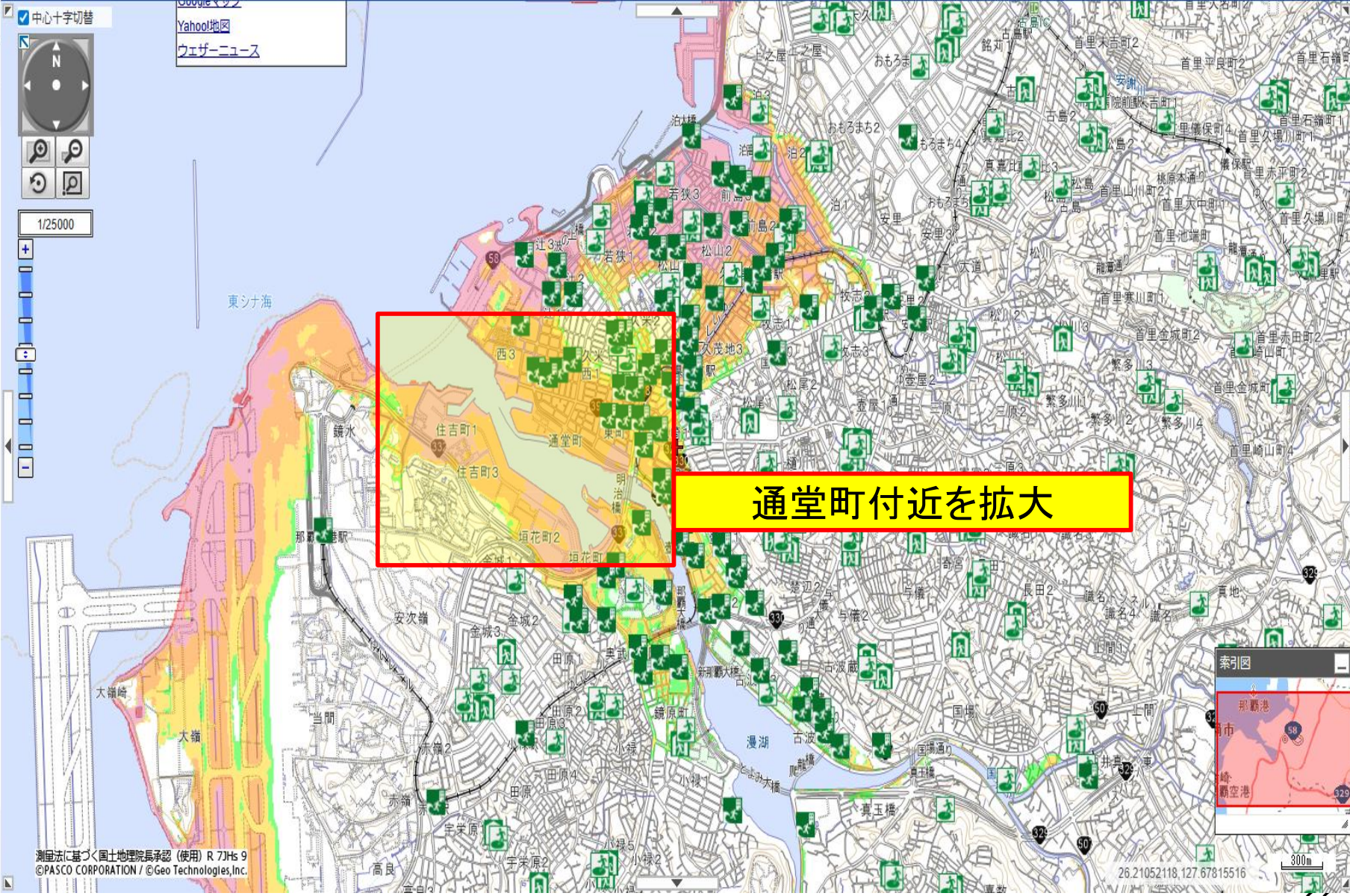
表示切替 全て選択 全てはずす

- 避難施設
 - 津波避難ビル
 - 津波避難ビル
 - 津波避難タワー
 - 津波避難タワー
 - 指定緊急避難場所
 - 指定緊急避難場所
 - 指定一般避難所
 - 指定一般避難所
 - 津波浸水想定図 (H26年度)
 - 津波浸水想定図 (H26年度)
- 0.01m以上0.3m未満
 - 0.3m以上1.0m未満
 - 1.0m以上2.0m未満
 - 2.0m以上5.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 10.0m以上20.0m未満
 - 20.0m以上

- 住所一覧から検索
- 目録物・施設一覧から検索



測量法に基づく国土院院長承認 (使用) R 7JHs 9
©PASCO CORPORATION / ©Geo Technologies, Inc.



26.21052118, 127.67815516

300m

沖縄県地図情報システム

沖縄県地理情報システムは、沖縄県が提供する地図情報システムです。

- 全画面表示
- 2画面表示
- 属性一覧
- リンク
- 画像保存
- 印刷
- お問い合わせ
- 使い方がガイド

避難所・避難場所関係

現在地 那覇市通堂町 付近

数値地図

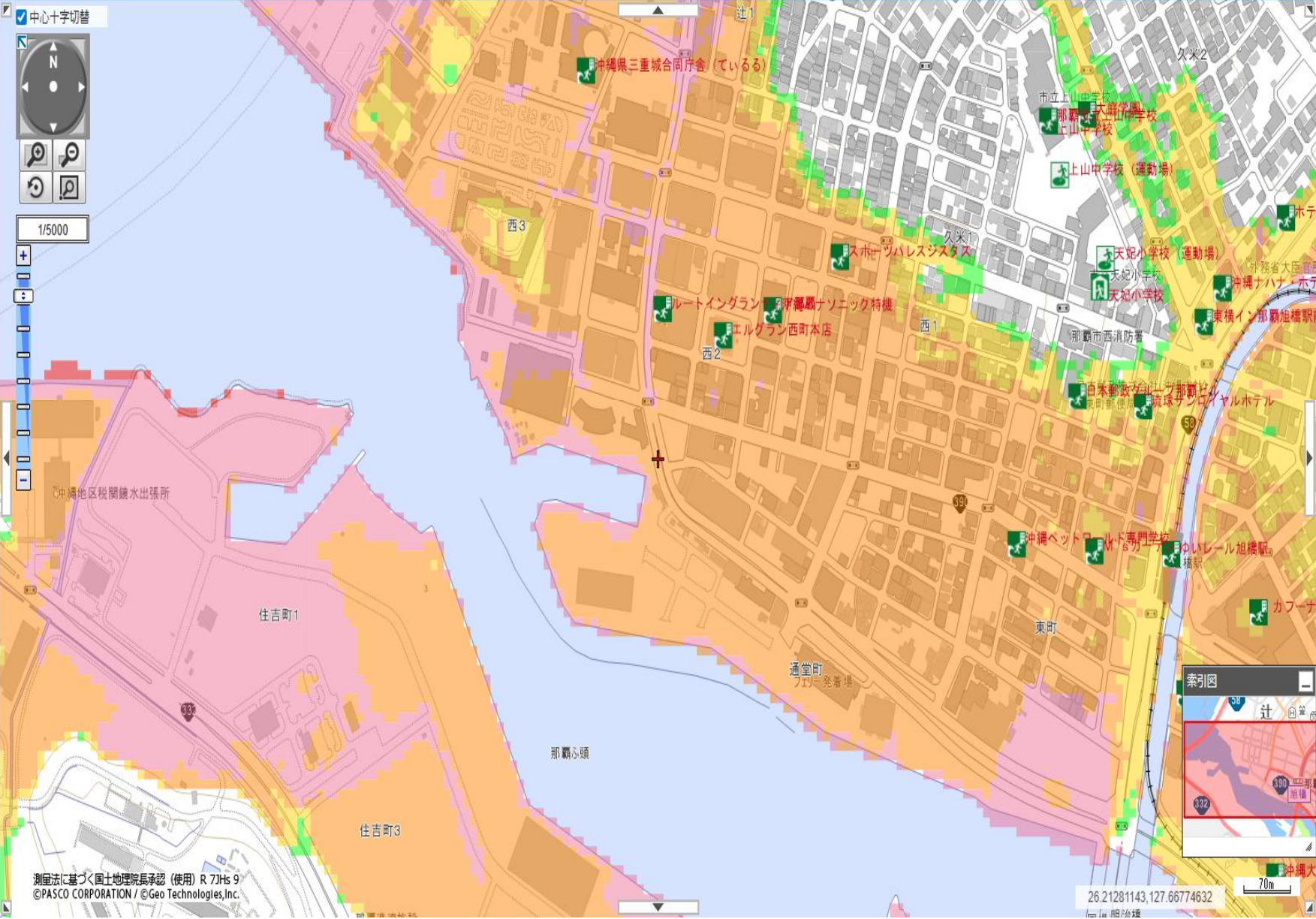
入力例: 沖縄県那覇市景崎1-2-2

- 探す
- 測る
- 描く
- ルート

主題 レイヤー

表示切替 全て選択 全てはずす

- 避難施設
 - 津波避難ビル
 - 津波避難タワー
 - 指定緊急避難場所
 - 指定一般避難所
- 津波浸水想定図 (H26年度)
 - 0.01m以上0.3m未満
 - 0.3m以上1.0m未満
 - 1.0m以上2.0m未満
 - 2.0m以上5.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 10.0m以上20.0m未満
 - 20.0m以上



- 住所一覧から検索
- 目標物・施設一覧から検索

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 7JHs 9
©PASCO CORPORATION / ©Geo Technologies, Inc.

26.21281143, 127.66774632

事前に災害リスクを把握する

- ③ 地点別浸水シミュレーションシステム（浸水ナビ）
URL: <https://suiboumap.gsi.go.jp>



浸水ナビ (検索した地点の浸水シミュレーションを確認できます)



「浸水ナビ」は、浸水想定区域図を電子地図上に表示するウェブサイトです。

お知らせ

2023年3月30日から掲載していた淀川水系寝屋川に誤りがあり、データを修正中のため、掲載を一時停止しています。

浸水ナビ (検索した地点の浸水シミュレーションを確認できます)

現在、浸水シミュレーションデータ収集中につき一部の地域のデータのみ検索可能です。
今後、順次拡大していきます。現在検索可能な河川は [こちらをご覧ください。](#)



「浸水シミュレーションを確認する」
をクリック

浸水シミュレーションを確認する



浸水ナビ 中心緯度 26.233994 経度 127.736492 移動 度分秒 住所 沖縄県那覇市首里石嶺町四丁目 (付近の住所。正確な所属を示すとは限らない。)

河川から 地点から

河川検索


河川名 河川名を入力

または

河川選択 河川選択をクリック

規模指定

- 想定最大規模
- 計画規模
- 計画規模 (旧凡例)



1 km 1 mi 26.307571, 127.570326

国土地理院 | 地図凡例 | 利用規約


浸水ナビ 中心緯度 26.233994 経度 127.736492 移動 度分秒 住所 沖縄県那覇市首里石嶺町四丁目 (付近の住所。正確な所属を示すとは限らない。)

河川から 地点から

河川検索
河川名 河川名を入力
または

河川選択
地域 **地域をクリック**
事務所
河川名

規模指定
 想定最大規模
 計画規模
 計画規模 (旧凡例)



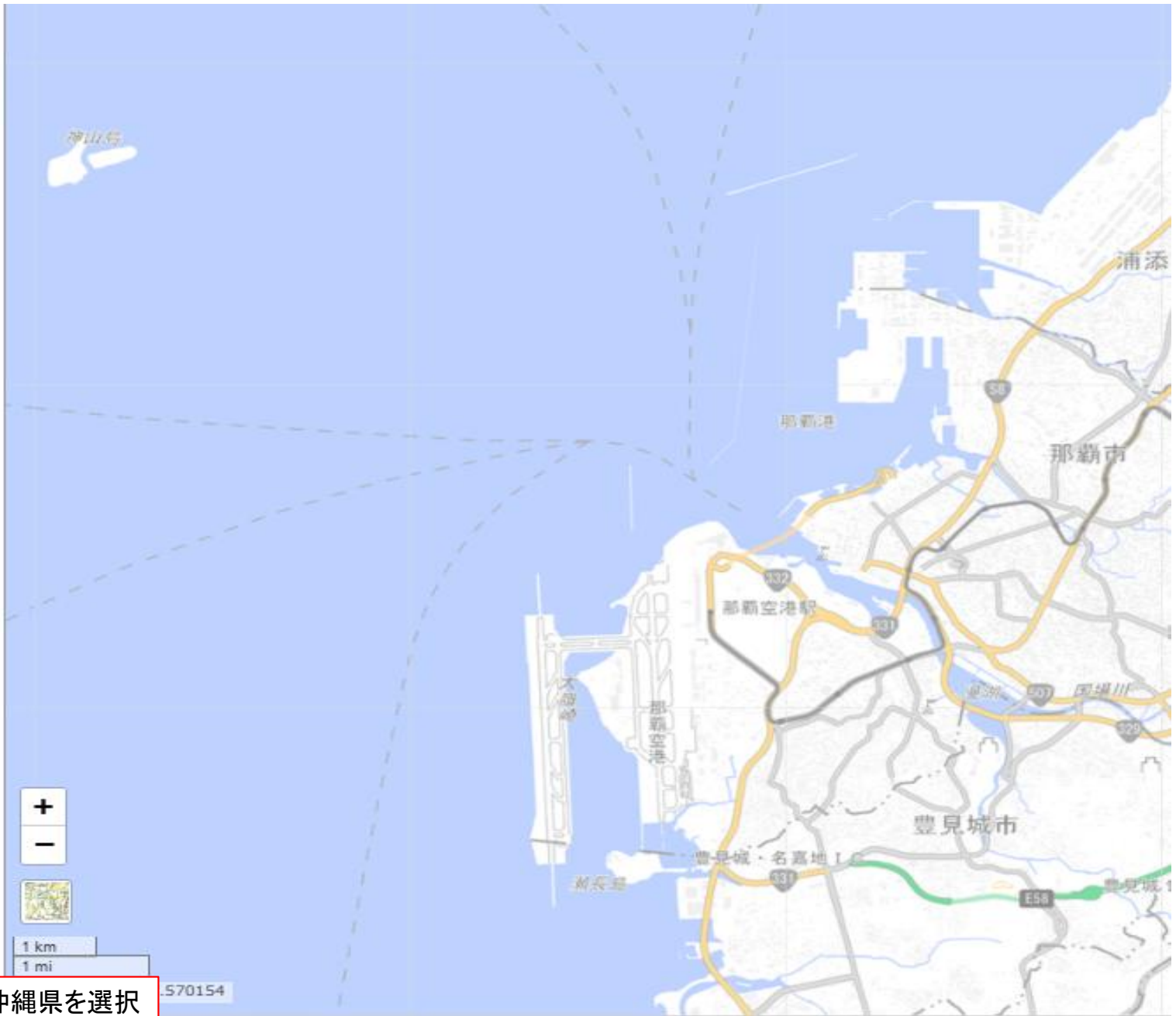
操作方法 3D 機能

1 km
1 mi
26.215205, 127.571871

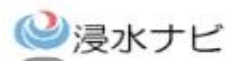
国土地理院 | 地図凡例 | 利用規約

河川選択

地域	沖縄県
事務所	兵庫県
河川名	奈良県
	和歌山県
	鳥取県
	島根県
	岡山県
規模指	広島県
<input checked="" type="checkbox"/> 想定	山口県
<input type="checkbox"/> 計画	徳島県
<input type="checkbox"/> 計画	香川県
	愛媛県
	高知県
	福岡県
	佐賀県
	長崎県
	熊本県
	大分県
	宮崎県
	鹿児島県
	沖縄県



沖縄県を選択



中心緯度 26.233994 経度 127.736492 移動 度分秒

住所 沖縄県那覇市首里石嶺町四丁目 (付近の住所。正確な所属を示すとは限らない。)

河川から 地点から

河川検索

河川名

または

河川選択

地域 ▼

事務所 ▼

河川名 ▼

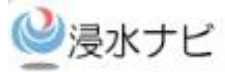
地域で沖縄県を選択すると自動で事務所に沖縄県と記載される

河川名をクリック

規模指定

- 想定最大規模
- 計画規模
- 計画規模 (旧凡例)





中心緯度 26.233994 経度 127.736492 移動 度分秒 住所 沖縄県那覇市首里石嶺町四丁目 (付近の住所。正確な所属を示すとは限らない。)

河川から 地点から

河川検索

河川名 河川名を入力

または

河川選択

地域 沖縄県

事務所 沖縄県

河川名

規模指

- 想定最大規模
- 計画規模
- 計画規模

- 天願川【想定最大規模】
- 国場川【想定最大規模】
- 安里川【想定最大規模】
- 比謝川【想定最大規模】
- 小波津川【想定最大規模】

天願川
国場川
安里川
比謝川
小波津川
から選択



河川検索

河川名

または

河川選択

地域

事務所

河川名

安里川を選択

データ表示をクリック

規模指定

想定最大規模

計画規模

計画規模 (旧凡例)



破堤点リスト

破堤点番号	河川区域名	河口からの距離
<input checked="" type="checkbox"/> BP001	安里川	破堤なし (越水のみ)

凡例・追加情報

- なし
- 氾濫水到達時間
- 浸水継続時間

凡例

浸水範囲の表示

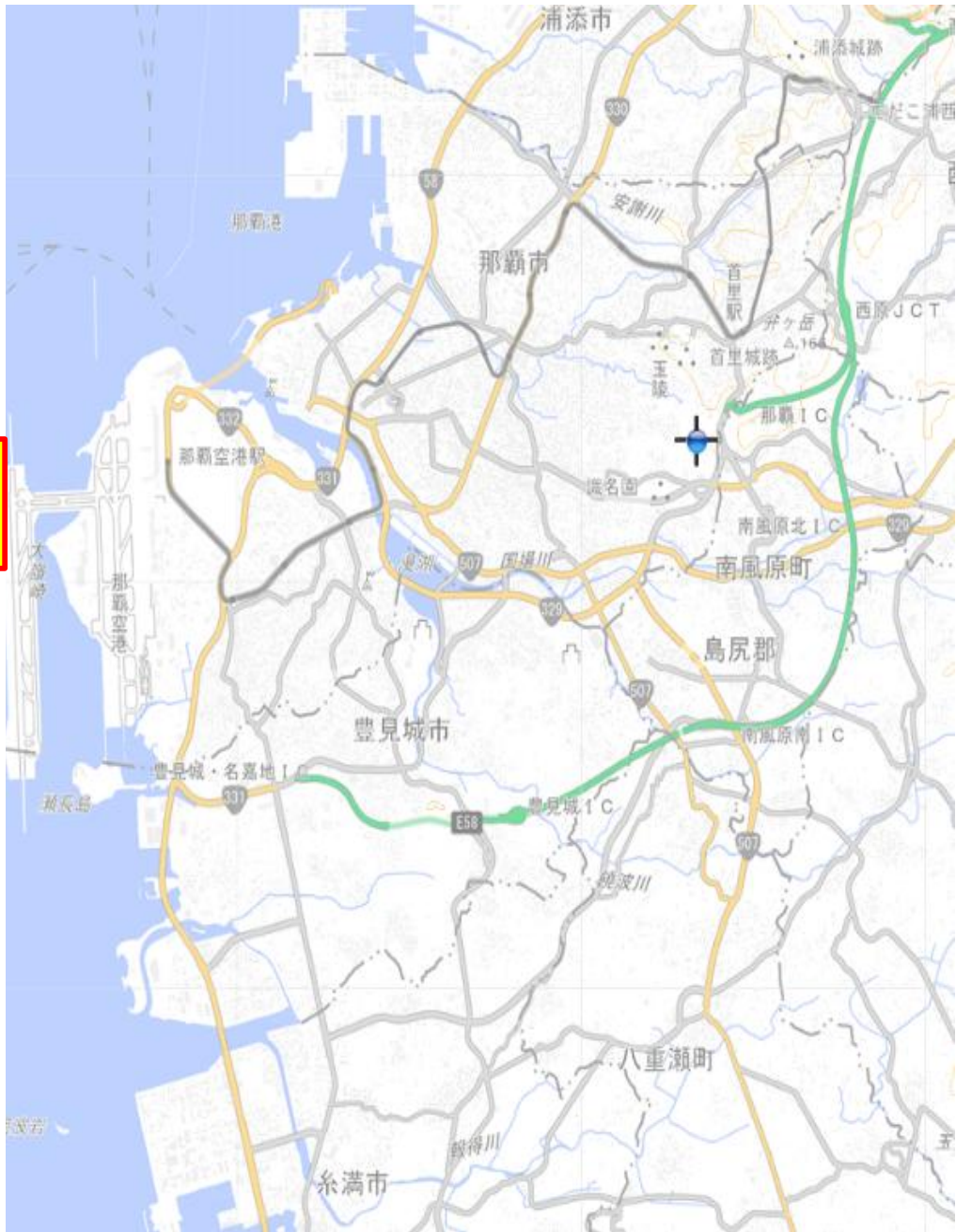
- 浸水範囲を重ねて表示する

透過率

河川情報

登録名 安里川 情報

☑をいれます



浸水シミュレーショングラフ表示

破堤点リスト

破堤点番号	河川区域名	河口からの距離
<input checked="" type="checkbox"/> BP001	安里川	破堤なし (越水のみ)

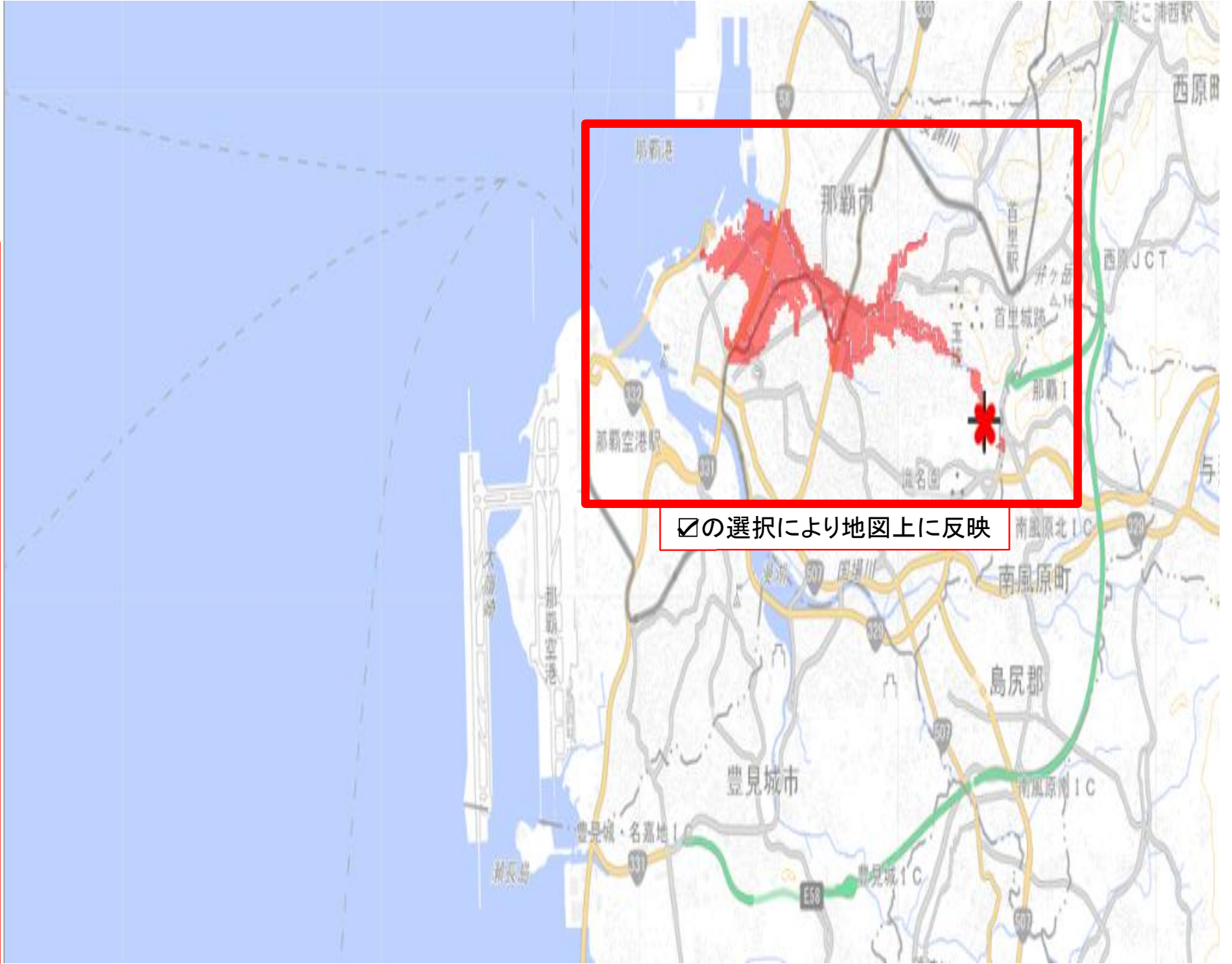
凡例・追加情報

- なし
- 氾濫水到達時間
- 浸水継続時間

凡例

浸水範囲の表示

浸水範囲を重ねて表示する



浸水ナビ 中心緯度 26.220212 経度

河川から 地点から

アニメーション表示

■終了 ▶開始 ◀前へ ||停止 ▶次へ

アニメーションダイアログ表示

元に戻す

浸水シミュレーショングラフ表示

浸水シミュレーショングラフ表示

破堤点リスト

破堤点番号	河川区域名	河口からの距離
<input checked="" type="checkbox"/> BP001	安里川	破堤なし (越水のみ)

凡例・追加情報

- なし
- 犯洪水到達時間
- 浸水継続時間

浸水範囲の表示

浸水範囲を重ねて表示する

透過率

河川情報

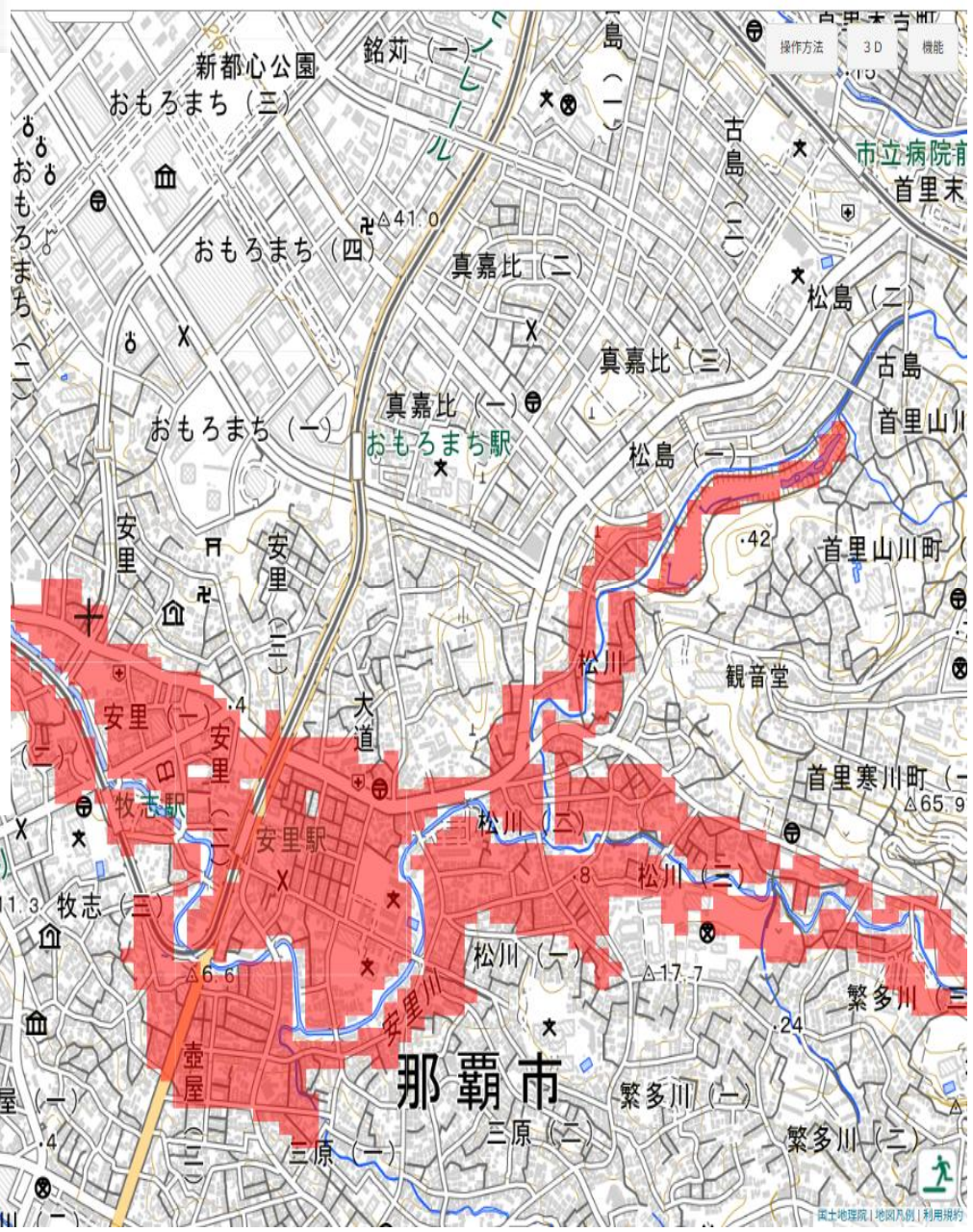
登録名 安里川 情報

凡例

地図記号	浸水ランク
	破堤点
	最大浸水を もたらす破堤点
	最速浸水到達を もたらす破堤点
	最長時間浸水を もたらす破堤点
	選択破堤点
	水位観測所
	破堤点に対応する 水位観測所
	指定地点
	選択した地点
	検査可能範囲
	最大浸水領域

浸水ランク	浸水ランク(旧式)
	～ 0.5m未満
	0.5m～ 3.0m未満
	3.0m～ 5.0m未満
	5.0m～ 10.0m未満
	10.0m～ 20.0m未満
	20.0m以上

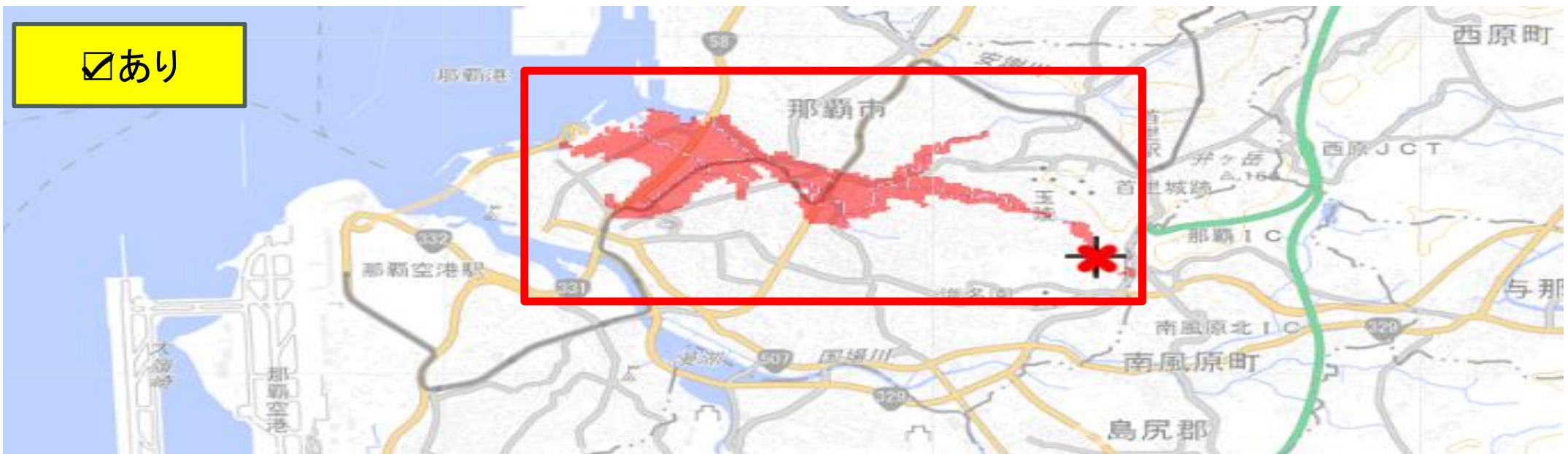
凡例をクリック



なし



あり



事前に災害リスクを把握する

④ 直轄国道冠水想定箇所

URL: <http://www.dc.ogb.go.jp/road/index.html>

災害リスクの把握 (道路冠水想定箇所)

沖縄総合事務局 道路部門ポータルサイト

道路部門ポータルサイト
 沖縄総合事務局 開発建設部

ホーム サイトマップ サイト内キーワード検索

Google 検索

道路情報提供システム 道路IR みちのあれこれ 観光・気象・公共交通 ご意見 ダウンロード リンク

- 道路情報提供システム
- 道路IR
- みちのあれこれ
- 道の駅
 - くらしのみち
 - 道路雑学コーナー
 - 道路施設現況紹介コーナー
 - 道路案内標識について
 - 情報BOXの整備について
 - 道路時刻表
 - ボランティアサポートプログラム
 - 電線類地中化事業管理規定・細則
- みちの景観
 - 沿道植栽等
 - ランドマーク紹介
- ITSの取り組み
 - ITSあれこれ
 - 導入されているアプリケーション
 - 情報の収集・処理・提供のしくみ
- 許可・申請について
 - 車両制限令について
 - 道路占用許可について
 - 請願工事について
 - 申請窓口のご案内
- 観光・気象・公共

📄 新着情報

<2026/3/10>
 沖縄県における特定外来生物ハヤトゲフシアリの根絶について一産学官連携の取組により成功

<2025/1/10>
 名護市の新たな交通ターミナル整備の具体化を図ります～第3回名護市総合交通ターミナル検討部会の開催について～

<2025/1/10>
 伊差川IC交差点の改良により、渋滞が大幅に改善しました！<名護東道路の交通状況>

<2024/12/27>
 沖縄における道路啓開計画(第3版)(案)「沖縄における道路啓開計画(第3版)(案)」について

📄 お役立ち情報

沖縄における道路啓開計画
 「沖縄における道路啓開計画(第3版)」が策定されましたので、お知らせいたします

道路情報提供システム
 沖縄本島内の道路に関する情報をリアルタイムにご覧いただけます。

道路の走りやすさマップ
 道路幅員・カーブの大きさ・カーブの多さなど、「走りやすさ」が一目でわかる、新しいタイプの地図です。

沖縄都市モノレール株式会社 ゆいレール
 環境に優しく快適な沖縄都市モノレール「ゆいレール」のご案内です。

防災情報提供センター
 国土交通省保有の防災情報を集約して、わかりやすく提供しています。

直轄国道冠水想定箇所 「直轄国道冠水想定箇所」をクリック

📄 道路行政の取組

内閣府 沖縄総合事務局
 道路行政評価サイト
道路IR サイト

那覇都市圏交通円滑化総合計画
 くるま世
 うつろい
 パンフレット 美ら街じゅくい

ハシゴ道路
 ネットワーク
 「使える」ハイウェイ
 を目指して!

📄 わったー島の渋滞

道路図面情報提供サービス

こんなにお得!!
 ETC割引

沖縄道路の現状を発見したるー
 道路緊急ダイヤル
 緊急通報 #9910

📄 募集中

日本風景街道
 ～シーニック・ハイウェイ・ジャパン～

道路協力団体

ボランティアサポートプログラム

📄 事業者向

特殊車両通行申請

道路占用許可申請

請願工事について

申請窓口のご案内

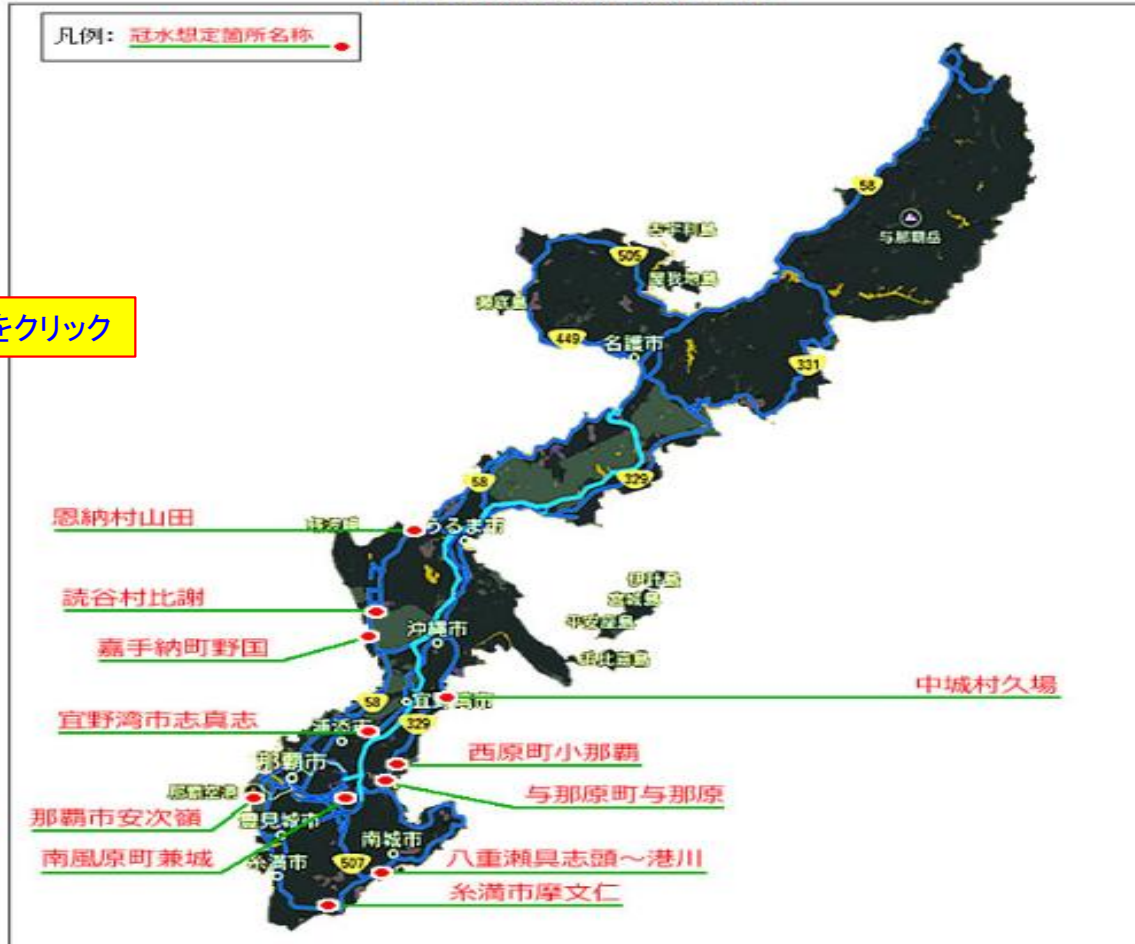
直轄国道冠水想定箇所

冠水想定箇所の詳細については、左表「路線ごと冠水想定箇所詳細」からご覧になりたい箇所をクリックして下さい。
 ※PDFファイルが開きます。

路線ごと冠水想定箇所詳細
国道58号
恩納村山田
読谷村比謝
嘉手納町野国
国道329号
中城村久場
西原町小那覇
与那原町与那原
南風原町兼城
国道330号
宜野湾市志真志
国道331号
糸満市摩文仁
八重瀬町具志頭～港川
国道332号
那覇市安次嶺

西原町小那覇をクリック

直轄国道冠水想定箇所位置図



沖縄総合事務局 道路部門ポータルサイト

冠水想定箇所 説明表					
管理番号	箇所名称		アンダーパス等名称	種別	
	西原町小那覇			国道	
住所					
都道府県名	市町村	字丁目	番地		
沖縄県	西原町	小那覇			
管理者		警察署		消防署	
名称	南部国道事務所	名称	浦添警察署	名称	東部消防本部
TEL	098-861-2336	TEL	098-875-0110	TEL	098-945-2200
備考					
注意喚起看板:設置済み					
位置図					
					
写真①			写真②		
					

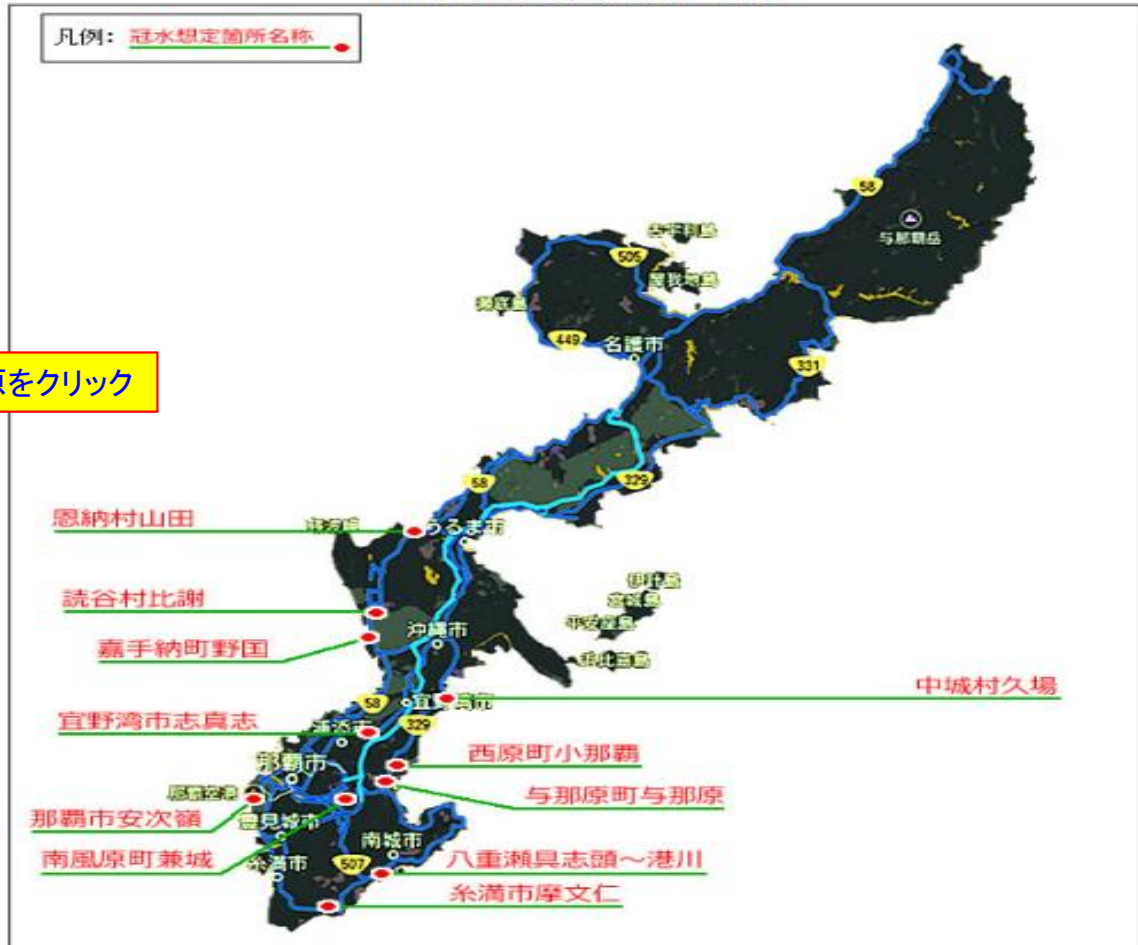
直轄国道冠水想定箇所

冠水想定箇所の詳細については、左表「路線ごと冠水想定箇所詳細」からご覧になりたい箇所をクリックして下さい。
 ※PDFファイルが開きます。

路線ごと冠水想定箇所詳細
国道58号
恩納村山田
読谷村比謝
嘉手納町野国
国道329号
中城村久場
西原町小那覇
与那原町与那原
与那原町与那原
国道330号
宜野湾市志真志
国道331号
糸満市摩文仁
八重瀬町具志頭～港川
国道332号
那覇市安次嶺

与那原町与那原をクリック

直轄国道冠水想定箇所位置図



沖縄総合事務局 道路部門ポータルサイト

冠水想定箇所 説明表					
管理番号	箇所名称		アンダーパス等名称	種別	
	与那原町与那原			国道	
住所					
都道府県名	市町村	字丁目	番地		
沖縄県	与那原町	与那原			
管理者		警察署		消防署	
名称	南部国道事務所	名称	与那原警察署	名称	東部消防本部
TEL	098-861-2336	TEL	098-945-0110	TEL	098-945-2200
備考					
位置図					
					
写真①			写真②		
					

リアルタイムで災害情報入手

- ① 沖縄防災情報ポータル
- ② 川の防災情報
- ③ 道路ライブカメラ
- ④ 道路交通情報

リアルタイムで災害情報入手

- ① 沖縄防災情報ポータル ハイサイ！防災で～びる
URL : <https://bousai-okinawa.my.salesforce-sites.com>

The screenshot shows the Okinawa Disaster Information Portal interface. At the top, there is a header with the site name and utility buttons for font size and language. Below this is a red emergency information banner. The main content area features a search box for regional information, with a blue callout box pointing to the dropdown menus. Below the search box are buttons for weather, volcanoes, and evacuation information. A large white callout box with a yellow header highlights the selected region and city in the dropdown menus. At the bottom, there is a map section with a scale bar and a button to enlarge the map.

沖縄防災情報ポータル ハイサイ! 防災で~びる

文字の大きさ 小 中 大

Language 言語を選択

緊急情報 緊急情報はあります。 情報一覧 >

お住まいの地域の最新情報を表示します。

地域を選択 地域 ▼ 市町村 ▼

地域と市町村を選択

地域が設定されておらず

気象(大雨) 火山 避難情報 避難所情報

南部地方と那覇市を選択

地域を選択 南部地方 ▼ 那覇市 ▼

50 km 注意報 発表なし

地図を拡大して見る

那覇市の最新情報 詳細へ

地域を選択 南部地方 ▼ 那覇市 ▼

注意報・警報	濃霧注意報	現在発表されている注意報や警報等が表示される	
地震	情報はありません。	地震情報	土砂災害警戒情報 情報はありません。
			土砂災害警戒情報
避難情報	情報はありません。	避難所情報	情報はありません。
本部情報	情報はありません。		

⚠ 気象(大雨)
台風
⚠ 地震
火山
避難情報
避難所情報

気象(大雨)

気象注警報

2026年05月19日 17時44分更新

地図の種類 気象注警報 ▼

地図を拡大して見る

気象注警報

2026年05月19日 17時44分更新

一覧表示切替 気象注警報 ▼

北部地方 ▼

中部地方 ▼

南部地方 ▲

那覇市	雷注意報	洪水注意報	糸満市	雷注意報	濃霧注意報
					濃霧注意報
豊見城市	雷注意報	濃霧注意報	南城市	雷注意報	濃霧注意報
与那原町	雷注意報	濃霧注意報	南風原町	雷注意報	濃霧注意報
渡嘉敷村	雷注意報	濃霧注意報	座間味村	雷注意報	濃霧注意報
粟国村	雷注意報	濃霧注意報	渡名喜村	雷注意報	濃霧注意報
久米島町	濃霧注意報		八重瀬町	雷注意報	濃霧注意報

大東... ▼

宮古... ▼

八重山地方 ▼

気象庁：気象警報・注意報 >

地図上で確認できる

南部地方の気象注意報等が確認できる

リアルタイムで災害情報入手

② 川の防災情報

URL : <https://www.river.go.jp/index>

発表されている全国の洪水の危険度（洪水予報等） 2026年05月19日19:10更新

氾濫発生情報発表（警戒レベル5相当）	発表情報はありません
氾濫危険情報発表（警戒レベル4相当）	発表情報はありません
氾濫警戒情報発表（警戒レベル3相当）	発表情報はありません
氾濫注意情報発表（警戒レベル2相当）	発表情報はありません

※発表されている都道府県をクリックすることで対応する都道府県の発表情報に移動します。
※同じ都道府県内に複数の情報が発表されている場合は、最も高い警戒レベルの情報に基づき表示しています。

情報を探す

フリーワード検索 ▼ キーワードは最大3つまで入力できます

検索する

地点登録

自宅や勤め先など、よく見る地点を最大5箇所まで登録して、警戒情報や浸水想定などのリスクを簡単に確認することができます。

地点を登録

地図から探す

エリア地図を見る
見たいエリアを
クリックしてください。



全国地図を見るをクリック

全国地図を見る

市町村から探す

市町村内の各種情報をまとめて確認できます。
都道府県を選択して、市町村を選んで「確認する」のボタンを押してください。※都道府県を選んだだけでも確認できます。

都道府県を選ぶ ▼

市町村を選ぶ ▼

確認する

国土交通省
川の防災情報

沖縄県那覇市

2026/05/19 19:36

○で囲んだアイコンをクリックする

発表情報概況

洪水予報等 ダム放流通知

表示範囲内に発表情報がありません

基準値超過観測所一覧

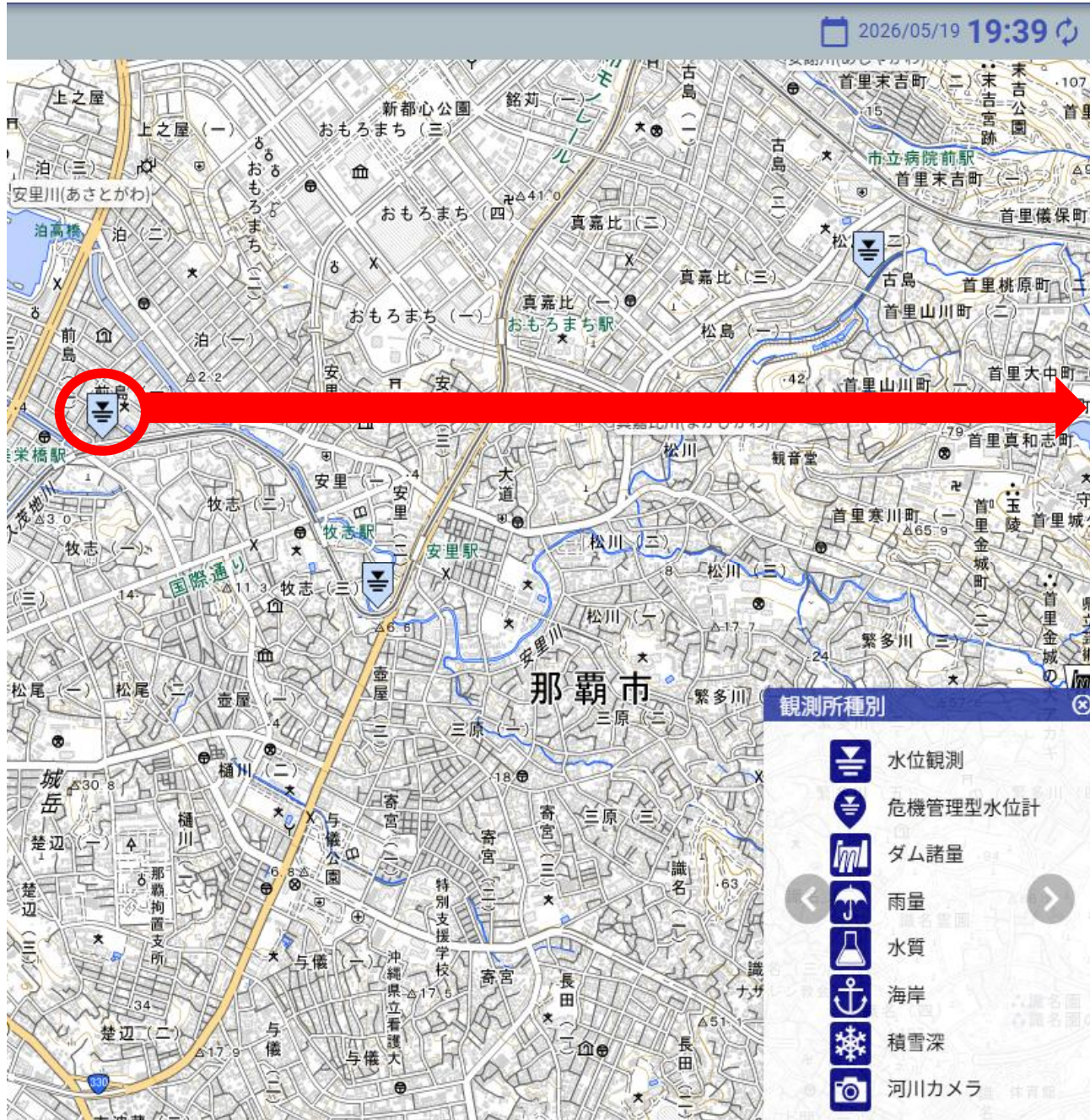
水位観測 雨量 危機管理型水位計 水位計

表示範囲内に基準値を超過している観測所はありません


観測所種別

- 水位観測
- 危機管理型水位計
- ダム諸量
- 雨量
- 水質
- 海岸
- 積雪深
- 河川カメラ

1/10



2026/05/19 19:39



観測所情報 ?

みえばし あさとがわすいけい くもじがわ
美栄橋 安里川水系 久茂地川

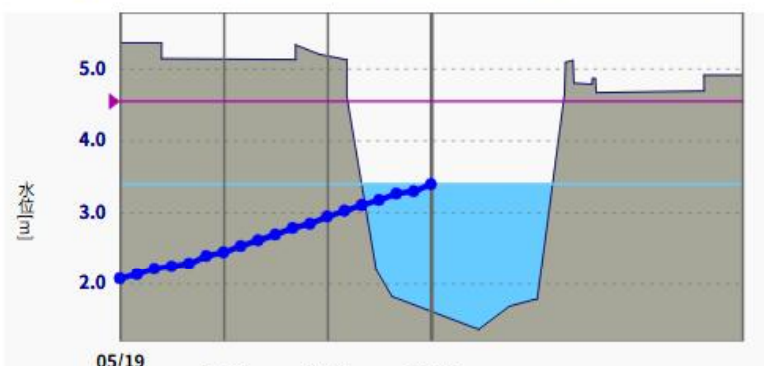
最新観測値 2026/05/19 19:30

水位状況

河川横断面図


水位グラフ

詳細情報



水位 (m)

05/19 16:30 17:30 18:30 19:30 [最新]



時間毎 10分毎 凡例

水位









3.40m↑

下流観測所▶

水位

1.70m↑

観測所種別

-  水位観測
-  危機管理型水位計
-  ダム諸量
-  雨量
-  水質
-  海岸
-  積雪深
-  河川カメラ



観測所情報

はねじだむ はねじおおかわすいけい はねじおおかわ
羽地ダム 羽地大川水系 羽地大川
最新観測値 2026/05/19 19:30

ダム模式図 **ダム諸量** 詳細情報

羽地ダム(流域平均)
10分雨量: 0.0mm
降り始めからの雨量: 11.2mm
全流入量: 0.37m³/s

現在の貯水位: 59.98m
洪水時最高水位: 68.70m
平常時最高貯水位: 65.00m
最低水位: 33.00m

全放流量: 0.35m³/s
貯水率(利水容量): 71.2%

この図は模式図であり、実際のダムの形状とは異なります

時間毎 10分毎

下流の水位 貯水関連 貯水率関連

貯水位	貯水量
59.98 m	11530.00 千m ³

「気象 × 水害・土砂災害」情報マルチモニタ

気象や水害・土砂災害に関する、12もの今の情報を一覧で確認できる「情報マルチモニタ」です。

今の状況を確認する

今の状況を確認するをクリック

今の状況を確認する

国土交通省 川の防災情報 "気象"×"水害・土砂災害" 情報マルチモニター

全国 北海道 東北 関東 北

沖縄の状況

レーダ雨量 (XRAIN)

19:50

レーダ雨量をク 気象警

- 大雨特別警報
- 特別警報(大雨以外)・高潮警報
土砂災害警戒情報
- 警報(高潮以外)・高潮注意報(*1)
- 注意報(高潮以外)・高潮注意報(*2)
- 発表なし

*1 高潮警報に切り替える可能性が高い
*2 上記以外の高潮注意報

10/10

19:50

※「気象警報・注意報、土砂災害警戒情報」「洪水キ
※「Lアラート」は、市町村等が発令した避難指示など
※掲載の情報には、無人観測所から送られてくるデー
他の水位情報、気象情報も併せて確認してください。

リアルタイムで災害情報入手

- ③ 道路ライブカメラ URL:
<http://www.dc.ogb.go.jp/nankoku/>



TOP

 google検索 サイト内検索



国道 331号
小禄道路工事に伴い
終日車線規制実施中



南部国道事務所
50年の歩み
パンフレットはこちら



交通結節点
(沖縄市胡屋・中央地区)
について
クリック



災害・緊急時
重要規制情報



道路
ライブカメラ

【なんこくのご紹介】
[事業概要 \(パンフレットなど\)](#) | [事務所のアクセス](#)

【アクセスの多いコンテンツ】
[入札・契約情報](#) | [道路規制情報](#) | [道路台帳調書](#)
[トピックス・記者発表資料](#) | [路上工事抑制カレンダー](#)

【キッズコーナー】
[道路なるほど! ものがたり](#) | [沖縄の道路のピクトグラム](#)

【その他】
[道路工事完成図等作成要領の説明資料\(PDF-4.8MB\)](#)
[那覇都市圏交通円滑化総合計画パンフレット](#)
[沖縄の「道の駅」紹介](#)

「道路ライブカメラ」をクリック



道路のライブカメラ箇所詳細マップ

南部国道事務所が管理する国道のライブ画像を提供しています。

■ ご覧になりたいライブカメラを選択して下さい。

- ① [国道58号 読谷村比謝](#)
- ② [国道329号 中城村久場](#)
- ③ [国道329号 西原町小那覇](#)
- ④ [国道331号 糸満市摩文仁](#)
- ⑤ [国道332号 那覇市安次嶺](#)

確認したいライブカメラをクリック

道路ライブカメラ(③国道329号 西原町小那覇)

このページ(画像)は自動的に10分毎に更新されます。



リアルタイムで災害情報入手

④ 道路交通情報

URL : <https://www.jartic.or.jp/>

JARTIC

公益財団法人日本道路交通情報センター



高速・都市高速・一般道路の情報を
24時間(5分更新)提供しています。

放送時刻表一覧

全国共通ダイヤル
ガイダンス番号による案内

050-3369-6666

JARTICのサービス →

情報提供事業者サービス

JARTICについて →

サイトのご利用について →

一部情報停止のお知らせ

2027年度採用 職員募集中

【公式】YouTube



JARTIC

公益財団法人日本道路交通情報センター



高速・都市高速・一般道路の情報を
24時間(5分更新)提供しています。

[\(\(⊙\)\) 放送時刻表一覧](#)

 全国共通ダイヤル
ガイダンス番号による案内
050-3369-6666

JARTICのサービス →

情報提供事業者サービス

JARTICについて →

サイトのご利用について →

九州・沖縄地方

高速(九州)全域

高速(沖縄)全域

福岡高速

北九州高速



 沖縄
沖縄をクリック

高速・都市高速・一般道路の情報を
24時間(5分更新)提供しています。

(Ⓜ) 放送時刻表一覧

全国共通ダイヤル
ガイダンス番号による案内
050-3369-6666

JARTICのサービス →

情報提供事業者サービス

JARTICについて →

サイトのご利用について →



Map showing traffic information for the Naha area. A popup window displays details for a road restriction on Route 82 (那覇糸満線 82号線). The popup includes fields for route name, direction, restricted section, reason, and content. A yellow box highlights the '○部分が規' (Restriction area) on the map. A legend at the bottom right shows checked options for restriction information, road image, event restriction, and parking information.

路線名称	那覇糸満線 82号線
方向	上下
規制区間	八重瀬町外間付近
規制原因	工事
規制内容	対面通行

○部分が規

ク

更新 05月19日20時35分現在

- 規制情報(通行止除く)
- 道路画像情報
- SA/PA情報
- イベント規制予告情報
- 駐車場情報
- 施設情報

沖縄総合事務局の防災対応 【TEC-FORCE活動の紹介】

TEC-FORCEとは

※TEC-FORCE(TEchnical Emergency Control FORCE):緊急災害対策派遣隊

- 大規模自然災害への備えとして、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、平成20年4月にTEC-FORCEを創設し、本省災害対策本部長等の指揮命令のもと、全国の地方整備局等の職員が活動。
- TEC-FORCEは、大規模な自然災害等に際し、被災自治体が行う被災状況の把握、被害の拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施。
- 南海トラフ巨大地震や首都直下地震をはじめ、大規模自然災害の発生が懸念されている中、令和6年4月には隊員数を約1万7千人に増強(創設当初約2,500人)。ドローン等のICT技術の活用や、装備品等の増強など、体制・機能を拡充・強化。

活動内容

災害対策用ヘリコプターによる被災状況調査



【令和6年 沖縄県北部豪雨】
(沖縄県国頭村比地川上空)

市町村へのリエゾン派遣



【H27.5 口永良部島の火山活動】
(鹿児島県屋久島町)

被災状況の把握



【令和2年7月豪雨】
(熊本県五木村)

被災映像の共有



【令和3年7月1日からの大雨】
(島根県飯南町)

自治体への技術的助言



【令和4年8月の大雨】
(山形県米沢市)

排水ポンプ車による緊急排水



【H30.7月豪雨】
(岡山県倉敷市真備町)

捜索活動への技術的助言



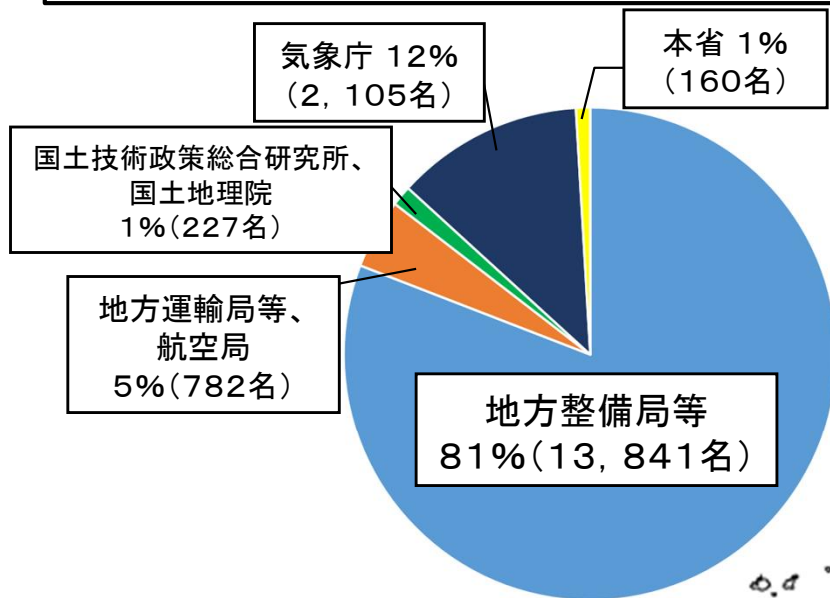
【H28.4 熊本地震】
(熊本県南阿蘇村)

給水機能付き散水車による給水支援

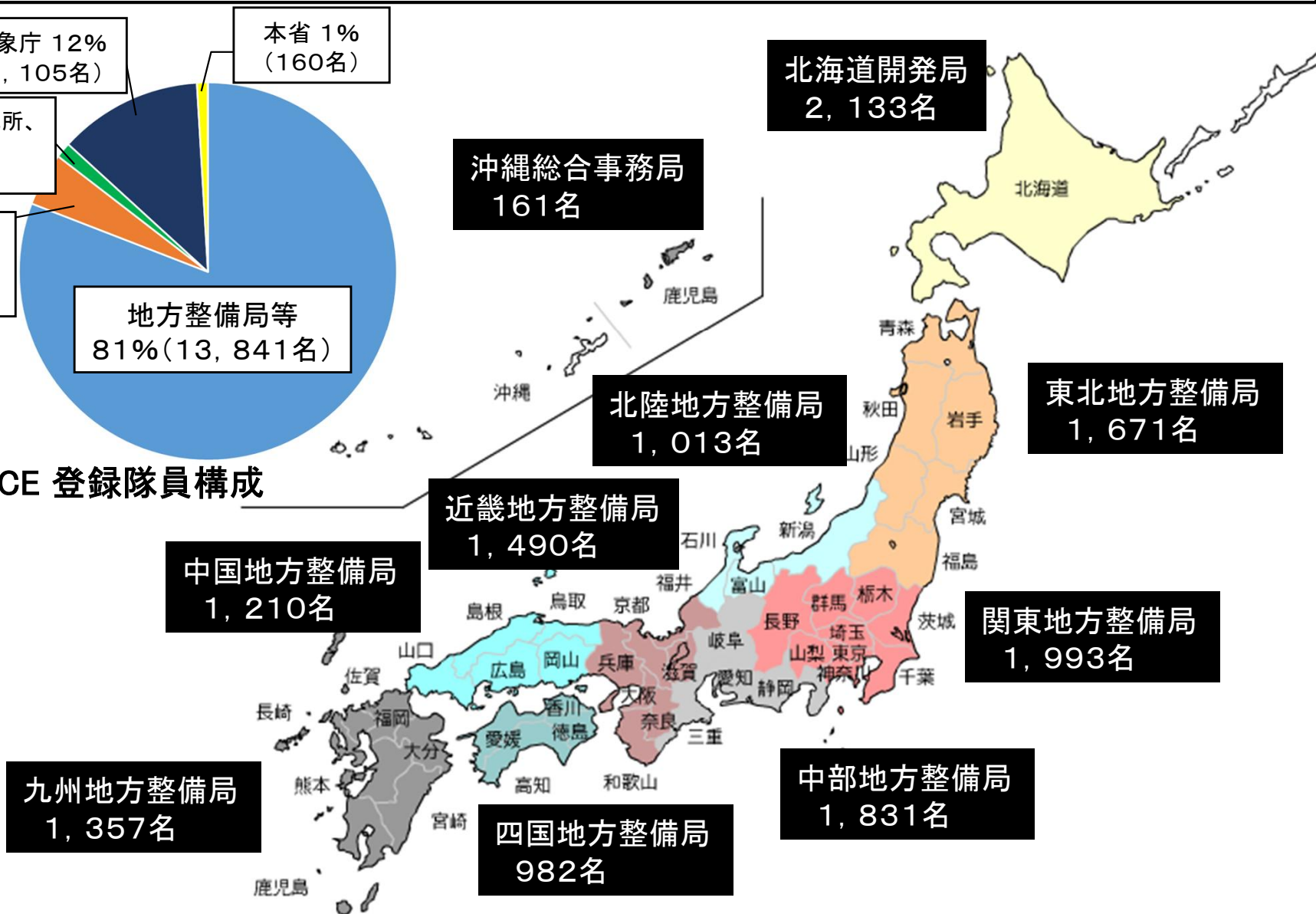


【R6.1能登半島地震】
(石川県かほく市)

○隊員は地方整備局等の職員を中心に**17,115名**が指名。災害の規模に応じて全国から被災地に出動
 (※令和6年4月時点)



TEC-FORCE 登録隊員構成



※ 令和6年3月31日時点 (速報値)

・TEC-FORCE派遣人数のべ 24,894人・日
・災害対策用機械等のべ 6,045台・日

- 令和6年1月1日(月) 石川県能登地方を震源とする最大震度7、5強の地震が連続して発生し、日本海側に大津波警報が発表された。
- 北陸地方を中心に43市16町4村と**ホットラインを構築**し、被災地支援のため各地(北陸、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州地整、北海道開発、沖縄総合、北陸信越、北海道、東北、関東、中部、近畿、神戸、中国、四国運輸、東京・大阪航空局、地理院、国総研、土研、建研、港空研、気象庁、国土交通本省)から**TEC-FORCEを派遣**。
- 被害全容の迅速な把握のため、国交省が所有する**防災ヘリ4機(ほくりく号、みちのく号、あおぞら号、きんき号)とCar-SAT3台による広域被災状況調査**を実施。
- 土砂崩れ等により通行不能となった県、市町管理道路に対して建設業者と連携した道路の**緊急復旧(道路啓開)**を実施。
- 断水となった地域へ**給水機能付散水車による給水支援**や(独)水資源機構が保有する**可搬式浄水装置を投入**。被災を受けた上下水道施設の復旧にあたっては、**厚生労働省と連携して復旧支援を実施**。また資材調達要請に応えた**物資支援**を実施。
- 停電が長期にわたる避難所等へ、**照明車を電源車として派遣し、被災者への電源支援**を実施。
- **被災状況調査**では**道路、河川、砂防、海岸、鉄道、港湾、空港**等の調査を実施。また、**建築物の応急危険度判定**を実施。
- **災害対策用機械(照明車、衛星通信車、対策本部車、待機支援車、排水ポンプ車、バックホウ、Ku-SAT)**を派遣し、各地の**被害に対する応急対策等**を実施。

■ リエゾン・JETTによる情報支援

○ リエゾンによる支援ニーズの聞き取り、被災情報の提供・収集等を実施

珠洲市長へ支援ニーズの確認
(石川県珠洲市)

■ 緊急復旧 (道路啓開)

○ 通行不能となった県市町管理道路の緊急復旧を行い、孤立解消や支援物資等の輸送路を確保

建設業者と連携した道路の緊急復旧
(石川県輪島市)

■ 給水機能付散水車、可搬式浄水装置による給水支援

○ 断水となった地域へ、給水機能付き散水車による給水支援を実施
○ 水資源機構所有の可搬式浄水装置2台を投入し浄水活動を実施

給水機能付散水車による給水支援
(石川県かほく市)

■ 照明車による電源支援

○ 国交省所有の照明車を停電中の避難所へ接続、給電する電源支援を実施

避難所へ照明車からの電源支援
(石川県輪島市)

■ 自治体が管理する公共施設の被災状況調査

○ 道路、河川、砂防、港湾等の公共施設等の被害調査を実施
○ 上空や車上から広域の被災状況調査を行い、調査映像を自治体と共有

道路の被災状況調査
(石川県内灘町)

■ 被災建築物の応急危険度判定

○ 国交省職員が現地で建築物の外観調査を実施し、倒壊の危険性を判定

被災建築物応急危険度判定
(石川県穴水市)

■ 上下水道施設の復旧支援

○ 国交省・厚労省職員が現地で連携し支援

七尾市長へ支援方針について説明
(石川県七尾市)

■ 待機支援車を活用した活動支援

○ 国交省所有の待機支援車を派遣し、宿泊場所として活用し復旧事業等への活動支援を実施

待機支援車による宿泊場所の確保
(石川県輪島市)

運輸防災マネジメントについて

令和8年6月12日

沖縄総合事務局運輸部 海事振興・防災危機管理調整官

VERSION	DATE	REMARKS
Ver1.0	01/05/2026	

目次

1. 自然災害の発生と被害状況
 - ✓ 自然災害の頻発化・激甚化
 - ✓ 被災経験事業者の課題認識と対応事例
2. 運輸防災マネジメントのポイント
 - ✓ 経営トップの責務
 - ✓ 安全方針と防災の基本方針
 - ✓ リスク評価
 - ✓ 事前の備え
 - ✓ 関係者との連携
3. その他のポイント
 - ✓ 他事例からの学び
 - ✓ 参考情報

1. 自然災害の発生と被害状況
 - ✓ 自然災害の頻発化・激甚化
 - ✓ 被災経験事業者の課題認識と対応事例
2. 運輸防災マネジメントのポイント
 - ✓ 経営トップの責務
 - ✓ 安全方針と防災の基本方針
 - ✓ リスク評価
 - ✓ 事前の備え
 - ✓ 関係者との連携
3. その他のポイント
 - ✓ 他事例からの学び
 - ✓ 参考情報

運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン 令和5年6月

検索



自然災害の頻発化・激甚化

1. 自然災害の頻発化・激甚化

近年、自然災害が頻発化・激甚化している。

① 地震

平成23年3月：東日本大震災、平成28年4月：熊本地震、平成30年6月：大阪府北部地震、平成30年9月：北海道胆振東部地震、令和4年3月：福島県沖地震、令和6年1月：能登半島地震、令和6年4月：豊後水道地震、令和6年8月：日向灘地震、令和7年7月：トカラ列島地震、令和7年12月：青森県東方沖地震といった震度6弱以上の地震が相次いで発生

② 風水害

平成30年7月の西日本豪雨、平成30年9月の台風21号、令和元年9月の房総半島台風（台風15号）、令和元年10月の東日本台風（台風19号）が、毎年のように発生して各地に甚大な被害

③ 洪水発生確率の上昇

地球温暖化により、気温上昇が最大のシナリオでは、今世紀末の洪水発生確率は1951年～2011年の平均と比較し約4倍と予測

④ 巨大災害

今後発生が予想される南海トラフ地震や首都直下地震といった巨大災害のリスクも懸念

自然災害の頻発化・激甚化

■平成30年7月豪雨（西日本等）

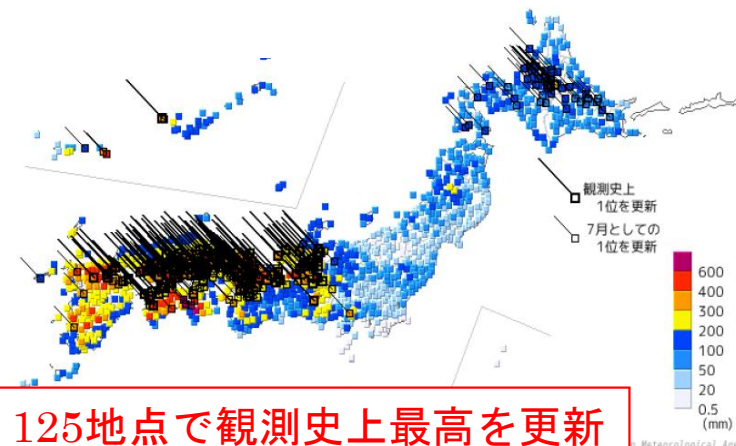
- ・全国125地点で48時間降水量が**観測史上最高**を更新
- ・西日本等で広域・同時多発的に河川氾濫、がけ崩れが発生

・**呉線崖崩れ被害で運休**

<被害状況>（11月1日時点）

死者：224名 行方不明者：8名

家屋：全半壊等21,121棟、浸水30,216棟



■台風第21号（平成30年9月）（大阪、神戸等）

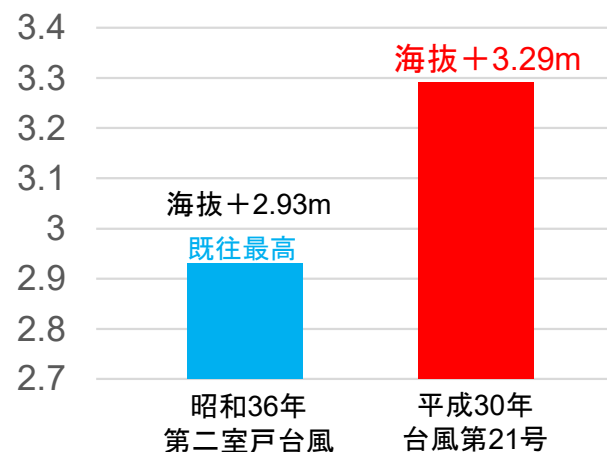
- ・台風の影響による高潮により、大阪湾では第二室戸台風（1961年）時を上回る**既往最高潮位**を記録

<被害状況>（11月1日時点）

死者：14名 家屋：全半壊等50,298棟、浸水571棟

関西国際空港：滑走路・ターミナル等の浸水、
船舶の走錨による**連絡橋損傷**

神戸港：港湾機能の停止



【大阪市の最高潮位】

令和2年7月6日に「**運輸防災マネジメント指針**」を策定・公表し、「**運輸安全マネジメント制度**」を「**自然災害対応**」に活用

自然災害の頻発化・激甚化

■政府等が災害対策本部を設置するような自然災害は、毎年のように発生

年月日	災害	緊急災害対策本部		非常災害対策本部		特定災害対策本部	
		政府	国交省	政府	国交省	政府	国交省
H23. 3. 11	東日本大震災(震度7)	○	○				
//	//						
H28. 4. 14	平成28年(2016年)熊本地震(震度7弱)			○	○		
//	//						
H30. 6. 18	大阪府北部を震源とする地震(震度6弱)					○	○
H30. 7. 8	平成30年7月豪雨			○	○		
H30. 9. 6	平成30年北海道胆振東部地震(震度7)					○	○
H31. 2. 21	北海道胆振地方中東部を震源とする地震(震度6弱)						○
R1. 6. 18	山形県沖を震源とする地震(震度6強)					○	○
R1. 7. 3	6月下旬からの大雨					○	○
R1. 7. 22	梅雨前線に伴う大雨及び令和元年台風第5号					○	○
R1. 8. 14	令和元年台風第10号					○	○
R1. 8. 28	令和元年8月の前線に伴う大雨					○	○
R1. 10. 13	令和元年東日本台風			○	○		
R2. 7. 4	令和2年7月豪雨			○	○		
R2. 9. 4	令和2年台風第10号					○	○
R2. 10. 9	令和2年台風第14号					○	※2
R2. 12. 17	豪雪					○	※2
R2. 12. 30	豪雪					○	※2
R3. 1. 6	豪雪					○	※2
R3. 2. 13	福島県沖を震源とする地震(震度6強)					○	○
R3. 7. 3	令和3年7月1日からの大雨			○	○		
R3. 8. 13	令和3年8月の大雨					○	○
R3. 10. 7	千葉県北西部を震源とする地震(震度5強)						○
R4. 3. 16	福島県沖を震源とする地震(震度6強)						○
R4. 6. 19	石川県能登地方を震源とする地震(震度6弱)						○
R4. 7. 19	令和4年7月14日からの大雨						○
R4. 7. 24	桜島の噴火(レベル5)						○
R4. 9. 17	令和4年台風第14号					○	○
R4. 12. 17	令和4年12月17日からの大雪						○
R4. 12. 22	令和4年12月22日からの大雪						○
R4. 12. 28	年末年始の大雪						※2
R5. 5. 5	石川県能登地方を震源とする地震(震度6強)						○
R6. 1. 1	石川県能登地方を震源とする地震(震度7)			○	○		
R6. 4. 17	豊後水道を震源とする地震(震度6弱)						○
R6. 8. 8	宮崎県日向灘を震源とする地震(震度6弱)						○
R6. 8. 28	令和6年台風10号					○	○
R7. 7. 3	トカラ列島近海を震源とする地震(震度6弱)						○
R7. 12. 8	青森県東方沖を震源とする地震(震度6強)						○

※1 R3. 5. 20以前は関係関係会議、災害対策本部。 ※2 警戒体制、注意体制下で幹部連絡会議を開催。 5

被災経験から得られた課題と対応

1. 課題の顕在化

近年、運輸事業者は、従前の被害想定を上回る自然災害により、安全・安定輸送に関わる多くの課題が顕在化。

- ① バス車両が水没した事例①
- ② バス車両を避難させた事例②
- ③ 令和6年能登半島地震における旅客船事業者の対応事例③

2. 課題の内容

これらの近年の事例からは、ハード面の強化だけではなく、自然災害発生の前後でのソフト面の対応の重要性が明確になった。

被災経験から得られた課題と対応（事例①）

概要 2019年10月 台風第19号

福島交通株式会社(福島県郡山市)雨水管破裂

◆ 営業所の状況

支社の建物1階部分が冠水、構内のタイヤやドラム缶等が付近一帯に散乱。

◆ 車両の被害状況等

郡山市との協定に基づき、近隣の工場敷地等の浸水区域外に避難させたものの、全ての車両の避難が間に合わず、全車両数165両のうち92両が浸水被害。

◆ 復旧状況

市内一般路線バスについては、発災後運休していたが、徐々に運行再開し、2020年4月1日から全面運行再開。 ➡ 復旧に費やした期間：**6か月**

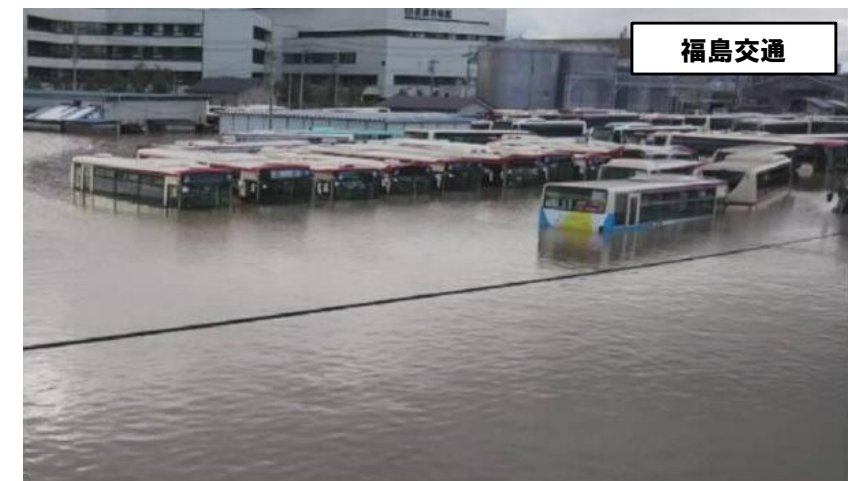


明らかになった課題

◆ 前回2011年9月の水害後に避難ルールを定め、対応していたが、水位が前回の水害の2倍となり、避難が間に合わなかった。

🔊 初動洪水警報システムの導入、避難判断基準の運用方針
及びチェックリストの作成

◆ 平時での訓練の重要性 🔊 現在定期的に避難訓練実施



被災経験から得られた課題と対応（事例②）

概要

2019年10月 台風19号

長電バス株式会社(長野市)千曲川左岸堤防決壊(10/13(日)発生)

- ◆ 本社及び長野営業所の状況
車庫敷地が車両出入口側より冠水。
地区停電発生で営業所施設の電源喪失。
- ◆ 営業所所属車両の状況
須坂駅前駐車場に28両、
協力を得られた長野運輸支局に72両の
全100両を浸水区域外に避難。

冠水し始めた車庫
より避難する車両



- ◆ 復旧状況
発災後の翌日(10/14)より一部の路線バス運行を再開、
翌々日(10/15)から全面運行再開。 → 復旧に費やした期間: **2日間**
- ◆ 事前の避難計画が未策定であったが、過去の千曲川右岸地区の営業所水没事案を
伝承していた管理層による速やかな初動開始。車両避難先・自家発電装置の急遽
協力による確保により、被害を最小化し早期に運行を再開。

明らかになった課題

- ◆ 事業継続計画・浸水被害時の避難ルールの策定の必要性
 - ☞ 初動対応できたが人と運に恵まれただけと整理。
 - ☞ 備えの必要性を痛感、BCP作成、車両避難先の検討中。
- ◆ 避難訓練・被災経験伝承の実施

急遽の協力を得られた
長野運輸支局での避難状況



福島交通の被災経験・教訓を踏まえた見直し・改善

①避難判断基準の運用方針、②洪水警報システム及び③チェックリストの作成について

留意点

判断

- ✓ 各営業所別に降雨量予測に基づき基準値を決める
- ✓ できるだけ余裕をもった避難判断
- ✓ 深夜時間帯の避難は避ける

避難

- ✓ 十分な避難場所の確保
- ✓ 所要時間は約3時間
- ✓ 翌日以降の運行を念頭に置いた避難準備
- ✓ 適切な情報発信
- ✓ 毎年避難訓練を実施

再開

- ✓ 道路状況等の安全確認
- ✓ 社員の安否確認
- ✓ スピーディな運行再開
- ✓ 適切な情報発信

対応策

①避難判断基準の決定

例 郡山支社の場合
基準雨量：150mm/24h
継続時間：3時間連続以上

②洪水警報システムの構築

- ①150mm以上/24hで警報
- ②3時間連続で避難判断

③簡潔なチェックリストの作成

「避難」⇒「再開」のフェーズにおいて、1.お客様、2.運行管理、3.事務所、4.整備、5.避難先の対応においてやること(To do list)を整理したチェックリストを策定し、「適切・的確な避難開始から完了」⇒「運行再開」の実施を図っている。

責任者の携帯電話へプッシュ通知

出典：福島交通(株)の資料を基に作成

被災経験から得られた課題と対応（事例③）

概要 能登半島地震(2024年1月1日16時10分発生)

佐渡汽船グループ

◆発生時の対応(新潟市、佐渡市、上越市 震度5強)

- ・カーフェリー(CF)2隻、ジェットフォイル(JF)2隻が運航

各船の船長判断と運航管理者の指示で沖合いに避難及び待機

(各船との無線や船舶電話は使用可能)

- ・非常対策本部を立ち上げ、情報の収集及び発信、関係機関との調整後、運航再開(旅客下船)等を実施

- ・翌日の運航再開の判断に関する経営トップの指示

◆旅客への対応

フェリーターミナル内に休憩所を設置し、毛布や飲食を提供

◆被害、復旧及び通常運航までの状況

直江津港(当時、CFは冬季運休中)で液状化や地割れ等の被害(応急措置完了)



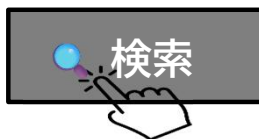
明らかになった課題と今後の対応

◆マニュアル及びフローチャートの見直し

- ① 非常対策本部の立ち上げや対応判断の体制(経営トップ等の不在)、② 各担当ごとのフローチャート作成(CF、JF、貨物船、運航管理部署等)、③ 様々な場面の想定とマニュアル及びフローチャートへの追加、④ 沖出し後の旅客の下船等の対応及び旅客への情報発信方法等の追加

◆より具体的な場面を想定した自然災害対応訓練の実施

1. 自然災害の発生と被害状況
 - ✓ 自然災害の頻発化・激甚化
 - ✓ 被災経験事業者の課題認識と対応事例
2. 運輸防災マネジメントのポイント
 - ✓ 経営トップの責務
 - ✓ 安全方針と防災の基本方針
 - ✓ リスク評価
 - ✓ 事前の備え
 - ✓ 関係者との連携
3. その他のポイント
 - ✓ 他事例からの学び
 - ✓ 参考情報



運輸防災マネジメント指針 令和5年6月

防災マネジメント指針の解説 令和5年6月



運輸防災マネジメントのポイント

(1) 経営トップの責務

(2) 防災の基本方針

(3) リスク評価

(4) 事前の備え

(5) 代替性の確保

(6) 平時と非常時の体制

(7) 自然災害の態様に応じた対応

(8) 楽観主義の排除 (思い込み (バイアス) の排除)

(9) 関係者との連携

(10) 利用者への情報発信

(11) 教育と訓練

(12) 見直し・改善 (他事例の学び)

赤字に絞って説明

(1) 経営トップの責務

1. トップダウン

- ① 経営トップの責務は、事故対応と同様に重要。特に、自然災害に対する備えや発災直後の対応は、危機管理そのものであり、トップダウンで対応する体制が必要。
- ② 災害発生時、経営トップはいち早く災害対策本部に参集し、自ら対策を指示。

2. 経営判断

- ① 事前の備えや事業継続のため経営資源（予算と要員等）の配分、優先的に再開する事業の事前策定等も求められるため、経営上重要な判断が必要。
- ② 例えば、鉄道の計画運休などのように一旦中止する経営判断が必要となるケースもあることから、経営トップの対応が必要。

3. 事業者全体での対応

「防災」も「安全」と同様、平時からマネジメント部門が経営課題として認識して、事業者全体が対応策を考え、実践することが重要。

【参考】被災した場合の保険料の増額について

【事例】

トラック(営業用普通貨物2t超)100台を所有する運輸事業者がフリート契約
(車両保険500万、対人・対物無制限、人身傷害3,000万)で保険契約している場合、下表の通り車両全損の台数に応じて保険料は増額。

	保険契約と損害の内容	割引率と保険料の変化
事例	保険料の割引率が0%、 6,000万円の事業者の トラック13台が水没全損 (支払額6,500万円以上) した場合	割引率:0% ➡ 割増率50% 保険料: 6,000万円 ➡ 約9,000万円

本モデル例から、前年度と次年度保険料の差額3,000万円について、

10年×300万円を投資して損害回避すれば、不稼働損と保険料増額を回避できる可能性あり。

【参考】建築基準法に基づく耐震基準

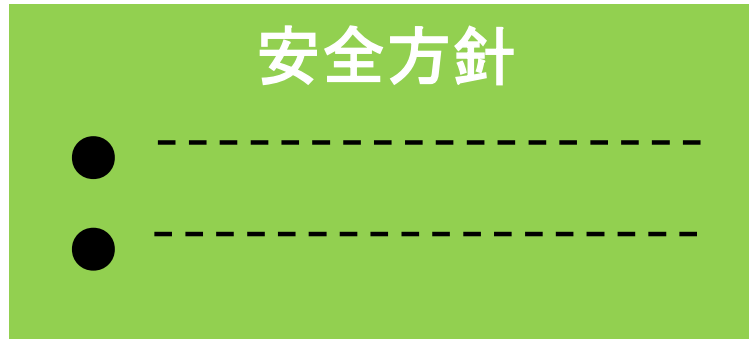
基準	時期	内容
新耐震基準	昭和56年(1981年)6月1日以降	震度5強程度の地震でほとんど損傷しないことに加えて、 震度6強～7 に達する程度の地震で倒壊・崩壊しないことを検証
旧耐震基準	昭和56年(1981年)5月31日まで	震度5強程度 の地震でほとんど損傷しないことを検証

日本全国で大地震発生が予測されている中、被害を最小限に食い止めるために住宅や建築物の**耐震化が重要**となっています。

まずは耐震診断を受け、耐震性が不足していると判定されたら**耐震改修工事**をしましょう。

(2) 安全方針と防災の基本方針

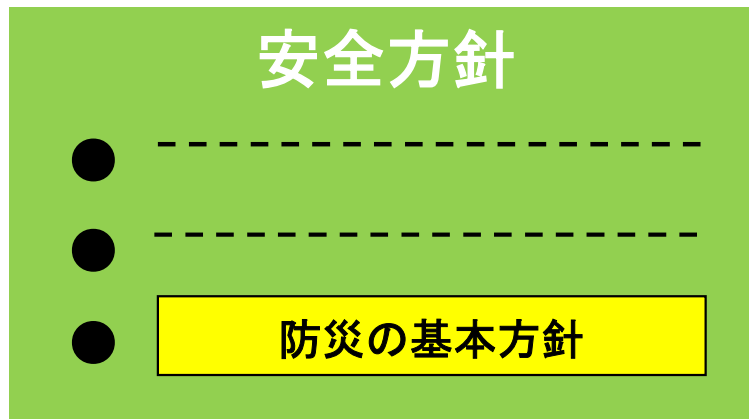
その1



防災対応マニュアル

- 防災の基本方針

その2



形式は事業者が判断して決定



社員・職員への浸透度合いを定期的に確認



★最終目標

社員・職員の一人ひとりが方針に則り行動できること

【参考】社内規則・ルールに盛り込む場合の例示

例1. 自然災害の発生時には、利用者、社員・職員、関係者の**安全確保を最優先**とし、〇〇駅、〇〇駅、〇〇駅発着の**主要路線の運行業務を維持**する。

例2. 自然災害による被害発生時には、**安全を最優先**とし、従業員の安全確保と事業資産の保護を図り、**事業の早期復旧とサプライチェーンへの影響の最小化**に取り組み、荷主及び関係企業との連携強化と信頼確保に努め、緊急救援物資輸送など社会的使命を果たすことを基本方針とする。そのため、事業継続のための体制、具体的な対策及び仕組みを事業継続計画(BCP)として策定して発災時の運用規定とする。

例3. 弊社の自然災害発生時の基本方針は、**安全最優先**とした上で、次に掲げるとおりとする。

- (1) 社員とその家族等の安全確保、航空機の安全確保を第一とする。
- (2) 国、地方等の機関と連携して共同対処により実効性を確保する。
- (3) 運航一時休止の場合、**早期再開に向け会社の重要機能・重要業務の維持・継続**を図り、**機能の損失等があった場合にはその早期復旧**に努める。

【参考】安全方針に盛り込む場合の例示

事例：JR東日本の安全綱領

(1) 安全綱領

安全に関わる社員の行動規範として安全綱領を、2012年3月に改正しました。これまでの多くの経験や東日本大震災での対応を踏まえ、「異常時は、まず冷静になってから選択肢を並べ、最善の行動を選択する」という趣旨と、JR東日本の安全推進の基本的な考えである「自ら考え行動する」という趣旨を反映することとし、第5項に「あわてず、自ら考えて、」という表現を加えました。

1. 安全は輸送業務の最大の使命である。
2. 安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
3. 確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
4. 安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
5. 疑わしいときは、あわてず、自ら考えて、最も安全と認められるみちを 採らなければならない。

【参考】津波避難行動心得

JR東日本は2012年1月、次の「津波避難行動心得」を策定しています。その(四)に避難したあとも、「ここなら大丈夫だろう」と油断せず、より高所へ逃げると言う項目が明記されています。

- (一)大地震が発生した場合は津波を想起し、自ら情報を取り、他と連絡がとれなければ自ら避難の判断をする。(避難した結果、津波が来なかったということになっても構わない。)
- (二)避難を決めたら、お客さまの状況等を見極めたうえで、速やかな避難誘導を行う。
- (三)降車・避難・情報収集にあたっては、お客さま・地域の方々に協力を求める。
- (四)避難したあとも、「ここなら大丈夫だろう」と油断せず、より高所へ逃げる。
- (五)自らもお客さまと共に避難し、津波警報が解除されるまで現地・現車に戻らない。

出典：JR東日本安全報告書2014



避難場所



避難所



津波避難場所



津波避難ビル

冷静な対応に向けた取組事例（トラック事業者）

自動車モード（トラック）＜西濃運輸株式会社＞

概要 取組事例 緊急時対応ボックスの作成

平成7年1月の阪神淡路大震災の経験から、災害発生時には即座に被害軽減のための対応を行わないと間に合わないこと、また既存の文書に対応を記載しても忘れてしまうことを学んでいる。

このため、災害発生時に行うべきことをわかりやすく記載したカードを収納する緊急時対応ボックス（通称**マル緊BOX**、下記画像を参照）を作成し、すぐに取り出しを可能とするため、店所長席の後方（キャビネットの上など）に保管している。

【マル緊BOXの内容】

（1）災害時対応項目カード

発災時の時に対応すべきことを時系列に「最優先確認事項」、「ライフラインの関係」、「事業継続関係」の順番にカード化し、災害時に各担当者にこのカードを渡して容易且つ迅速に対応する仕組みを構築

（2）災害用ベンダー（自販機）の鍵

発災時の飲料水確保のため、マル緊BOXに災害用ベンダー機能がある飲料用自販機を開錠するための鍵を保管。



マル緊BOX

取組の効果

平成30年7月の西日本豪雨の際、店所長がマル緊BOXから風水害に関係するカードを担当者に振り分け対応したが、落ちていて行動することができた。

(3) 自然災害リスク評価（一般的な手順）

STEP 1 自然災害の種類・規模を想定

事業者（本社、営業所等）の地理的位置、立地、運行（航）エリア等から自社が遭遇する恐れのある自然災害の種類・規模をハザードマップ等の情報を活用して特定

STEP 2 事業者及び社会インフラの被害を想定・**事業への影響度**を見積る

ハザードマップ、**耐震基準**等の情報を利用して事業者の本社、営業所、施設、車両・船舶・機材等に対するハザードを整理し、発生する被害（規模・程度・額）を想定し、**事業への影響度を見積る**。

- ・営業所、施設等の耐震基準、地盤の強さ、想定浸水深、海面の高さ、がけ崩れの恐れ等を確認。
- ・ハザードマップは、地方自治体、国土交通省等が公表しているものを活用。過去の被災経験の内容も再確認。
- ・事業者の被害としては、人的被害及び物的被害に分けて整理。

STEP 3 事前の備えから事後の対応までの対策検討（対応すべき課題を特定）

STEP2の結果に基づき**事前の備えから事後の対応まで対策**（内容・レベル、ハード面、ソフト面の両面）を検討。**事前の備えは、①計画的装備、②緊急連絡網、③防災マニュアル、④事業継続計画、⑤タイムライン**を検討・決定。**事後の対応は、初動対応と再開・復旧等**を検討・決定

- ・事業への影響度（重要度）、費用多効果等を考慮して短期的、中長期的な計画に分けて検討。

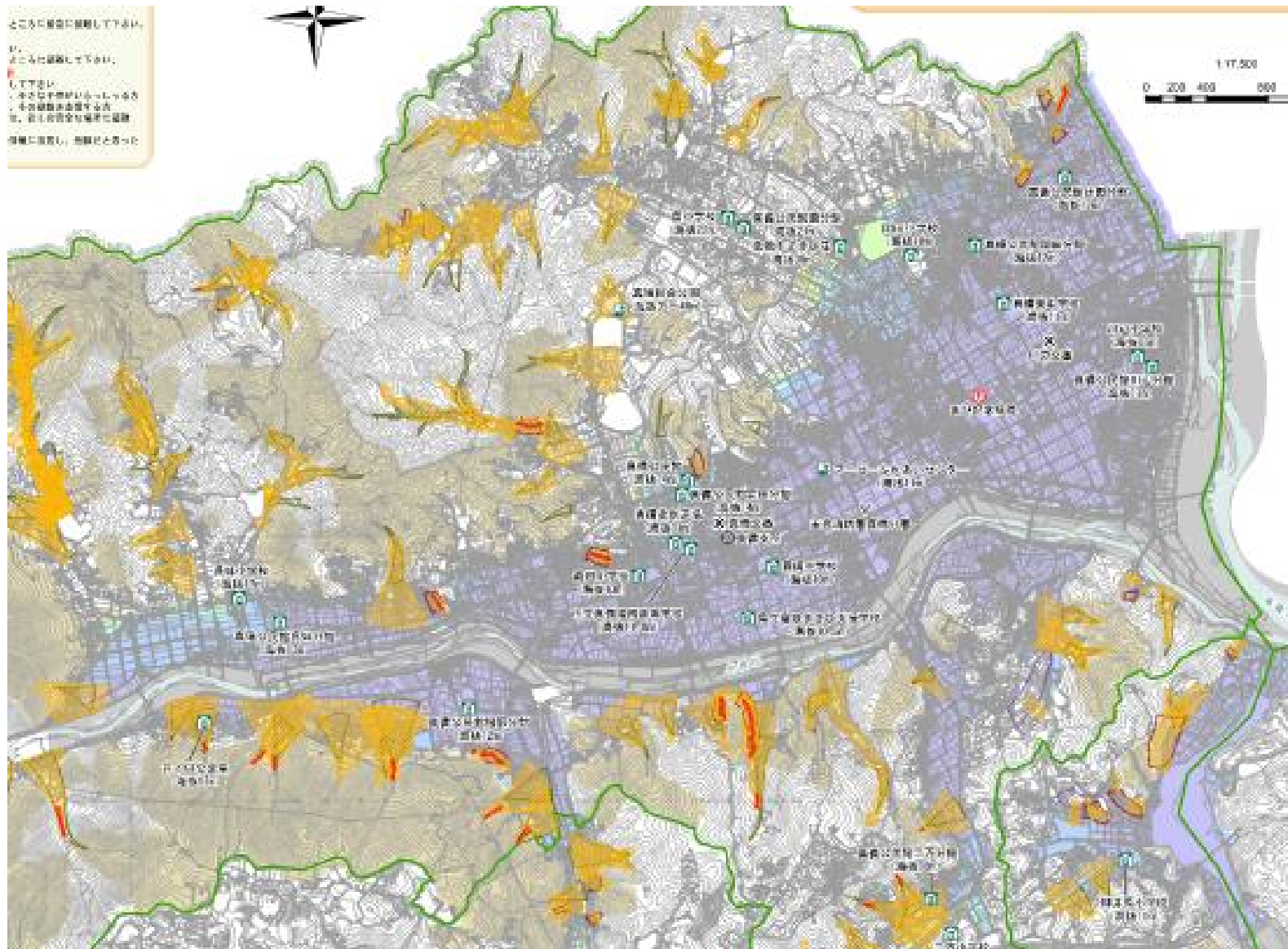
STEP 4 対策を実行

STEP3の結果に基づき事前の備え、事後の対応を実行 ➡ 訓練等を通して検証し見直し・改善

自社の現状を把握したうえで、必要な取組を検討し、優先度を勘案し取組計画へ反映。

ハザードマップの例示（予測浸水エリア）

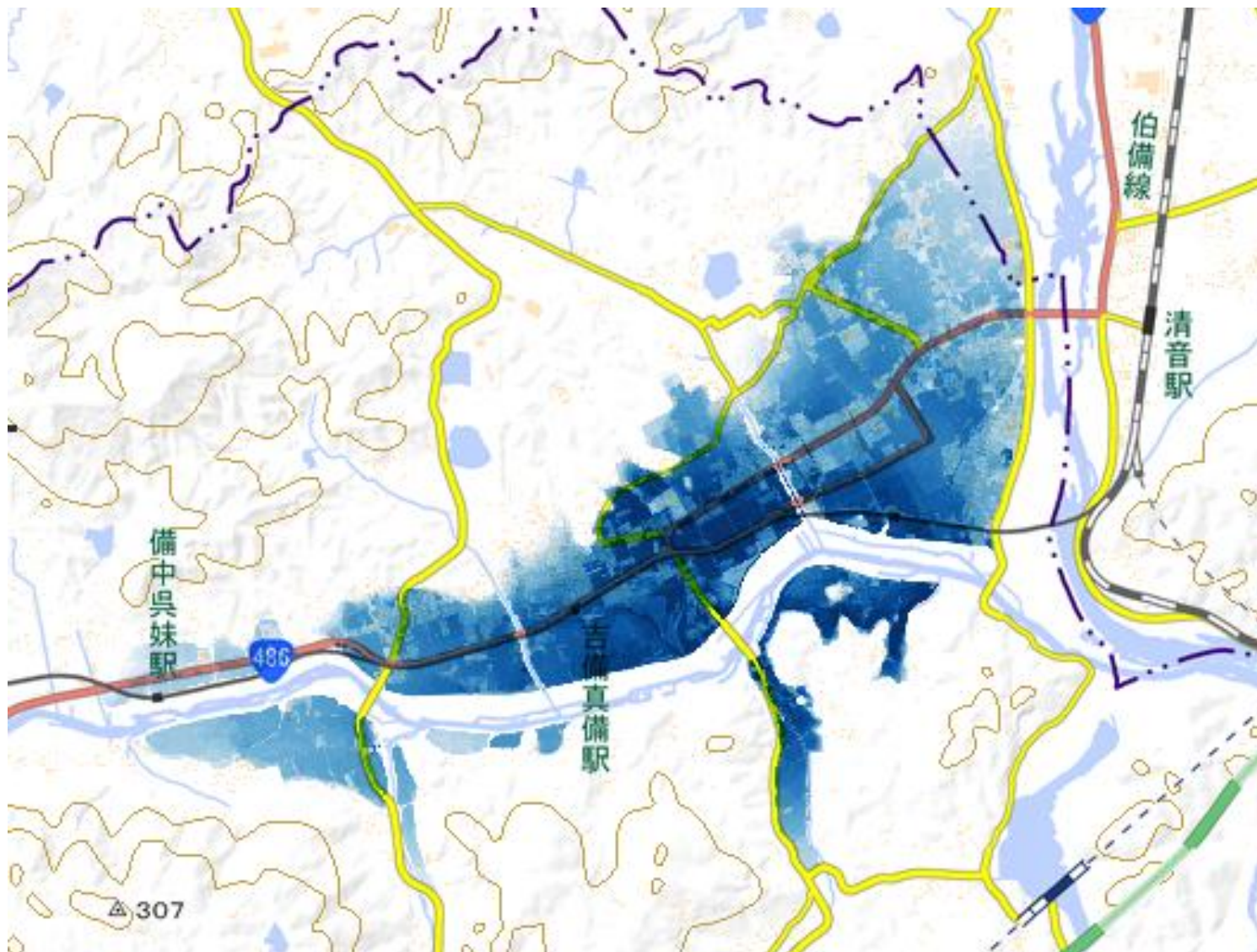
●倉敷市真備町周辺の予測浸水エリア（薄紫色）



出典：倉敷市「洪水・土砂災害ハザードマップ」（2016作成 2017年更新）

西日本豪雨による浸水エリア

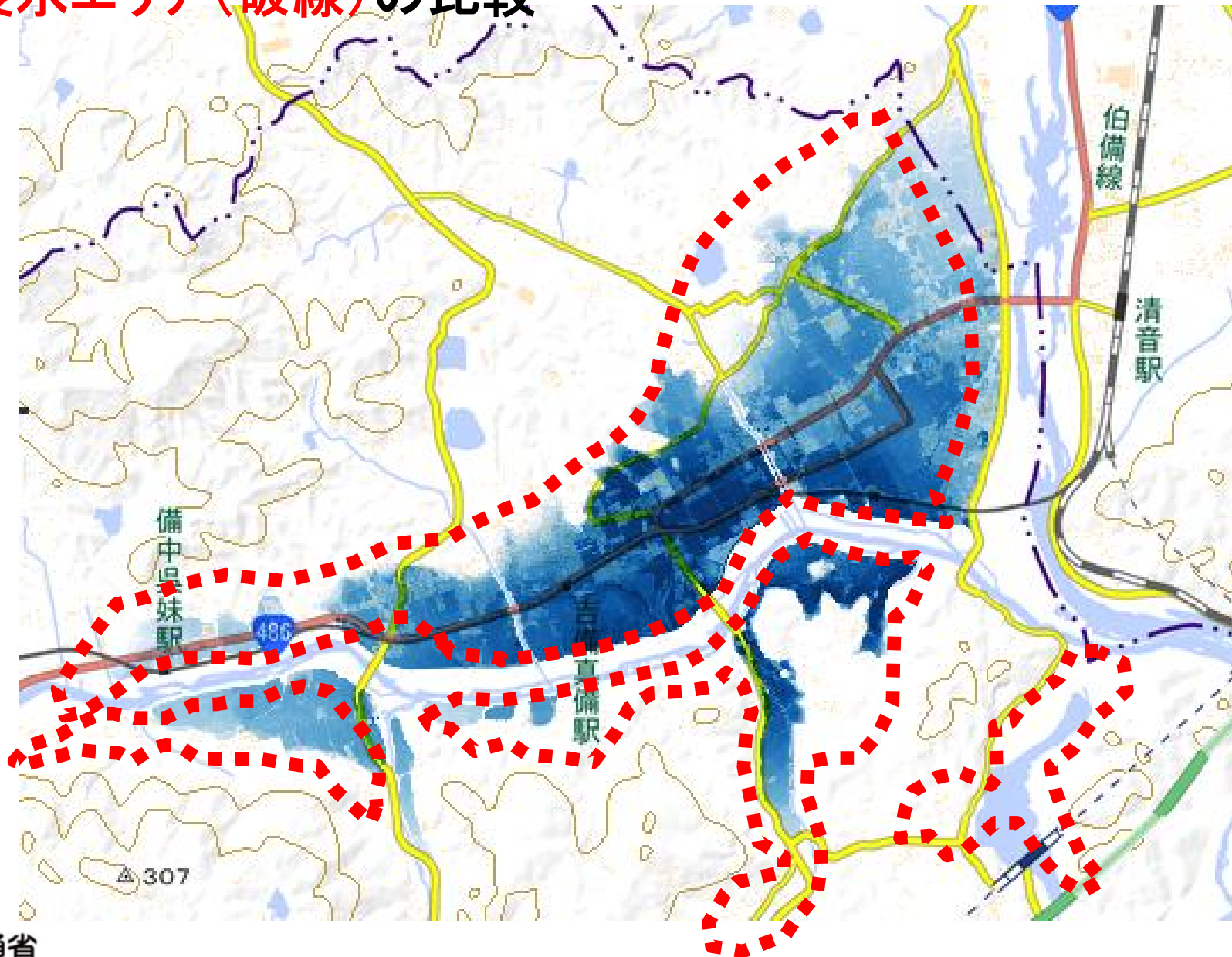
- 西日本豪雨による倉敷市真備町周辺の**浸水エリア**(青色部分)



出典：国土地理院「平成30年7月豪雨に関する情報_浸水推定段彩図」

予測浸水エリアと浸水エリアの比較

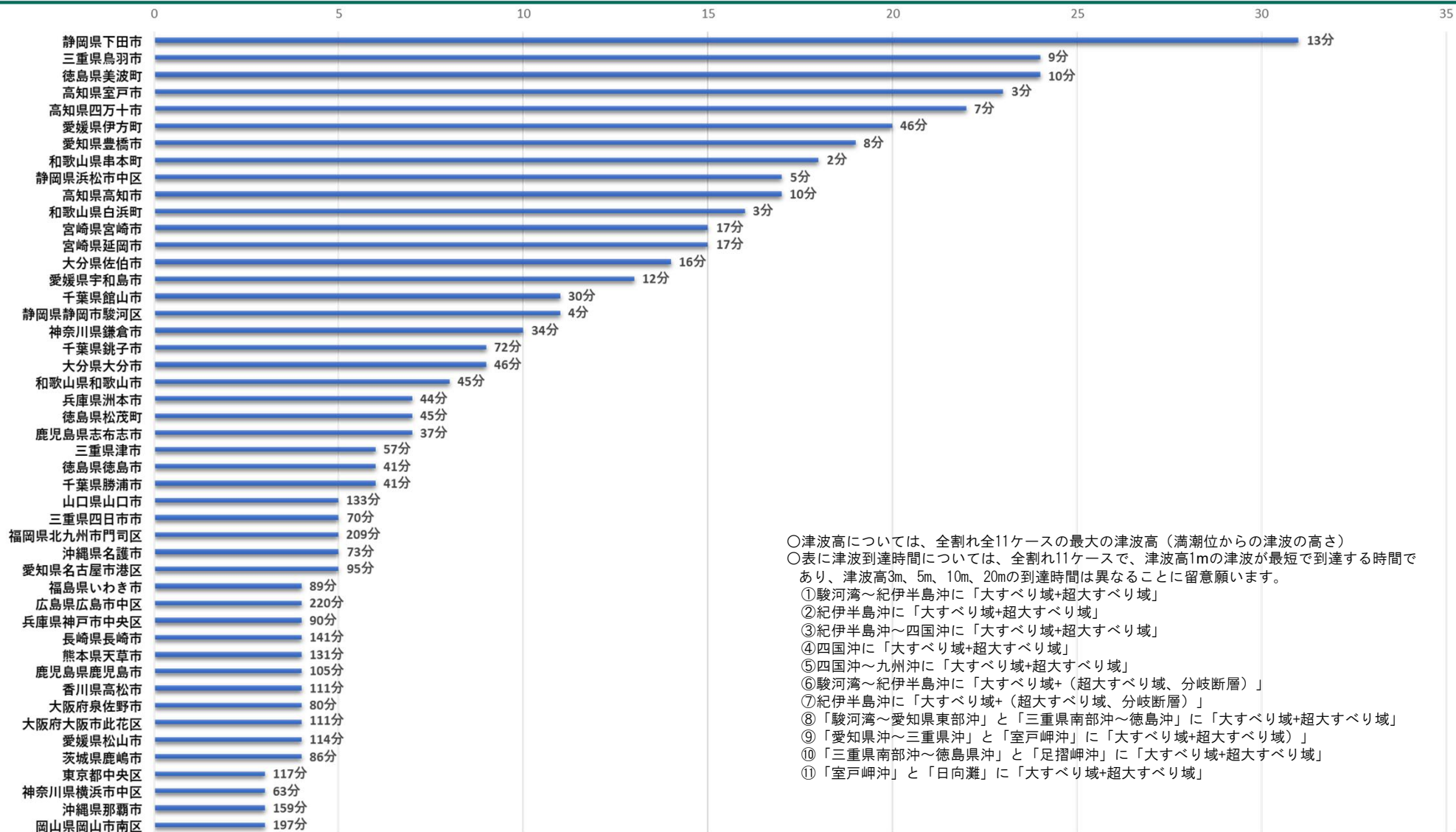
- 西日本豪雨:倉敷市真備町周辺における**実際の浸水エリア**と**予測浸水エリア(破線)**の比較



南海トラフ巨大地震による被害想定

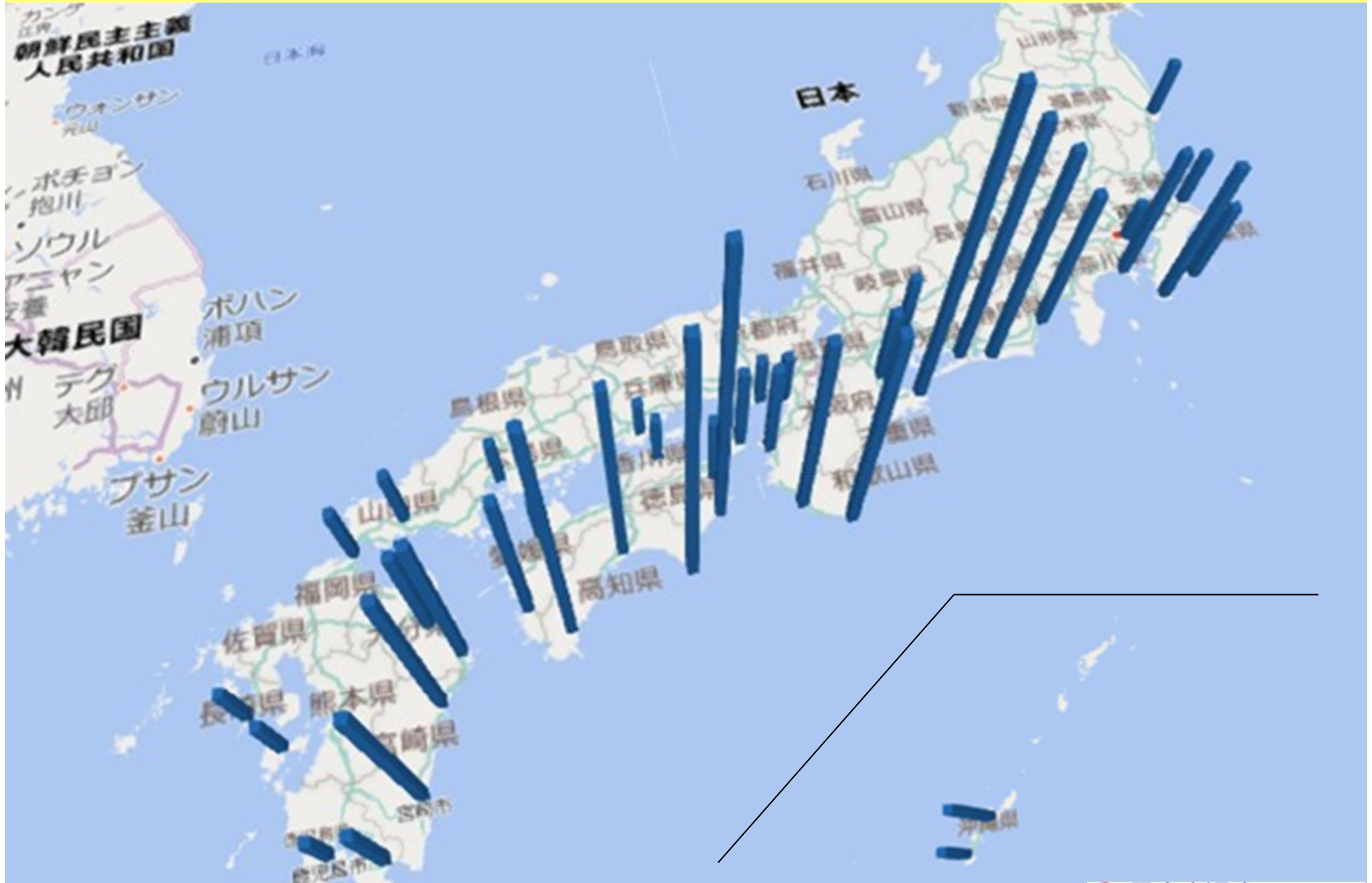
○南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に60～90%程度以上、50年以上は90%の確立で発生するとされており、交通インフラやライフライン等への被害が想定されている。

市町村別最大津波高・最短到達時間(満潮位・地殻変動考慮)



- 津波高については、全割れ全11ケースの最大の津波高(満潮位からの津波の高さ)
- 表に津波到達時間については、全割れ11ケースで、津波高1mの津波が最短で到達する時間であり、津波高3m、5m、10m、20mの到達時間は異なることに留意願います。
- ①駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域+超大すべり域」
- ②紀伊半島沖に「大すべり域+超大すべり域」
- ③紀伊半島沖～四国沖に「大すべり域+超大すべり域」
- ④四国沖に「大すべり域+超大すべり域」
- ⑤四国沖～九州沖に「大すべり域+超大すべり域」
- ⑥駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」
- ⑦紀伊半島沖に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」
- ⑧「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島沖」に「大すべり域+超大すべり域」
- ⑨「愛知県沖～三重県沖」と「室戸岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」
- ⑩「三重県南部沖～徳島沖」と「足摺岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」
- ⑪「室戸岬沖」と「日向灘」に「大すべり域+超大すべり域」

(参考) 南海トラフ巨大地震による津波高イメージ



津波の浸水深と施設・設備との関係イメージ

事務所

PC、サーバ
通信機
重要書類 等

倉庫

輸送機械
荷物
冷凍機
等

車両

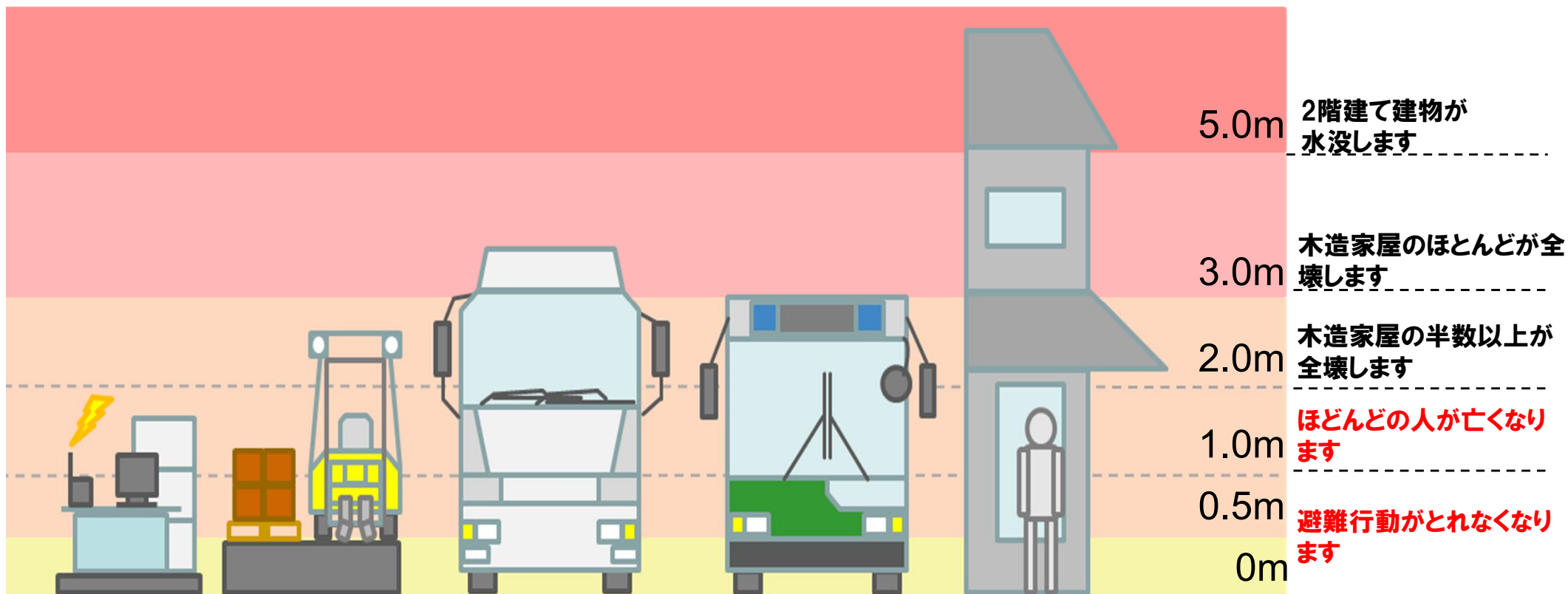
車庫
車両整備の施設・設備 等

住宅

※図は目安です。

※標準の配色

※10m~20mは薄紫、
20m~は紫。



出典：南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（第一次報告）資料「南海トラフの巨大地震建物被害・人的被害の被害想定項目及び手法の概要」等に基づき大臣官房運輸安全監理官室が作成

洪水・高潮の浸水深と施設・設備との関係イメージ

事務所

PC、サーバ
通信機
重要書類 等

倉庫

輸送機械
荷物
冷凍機
等

車両

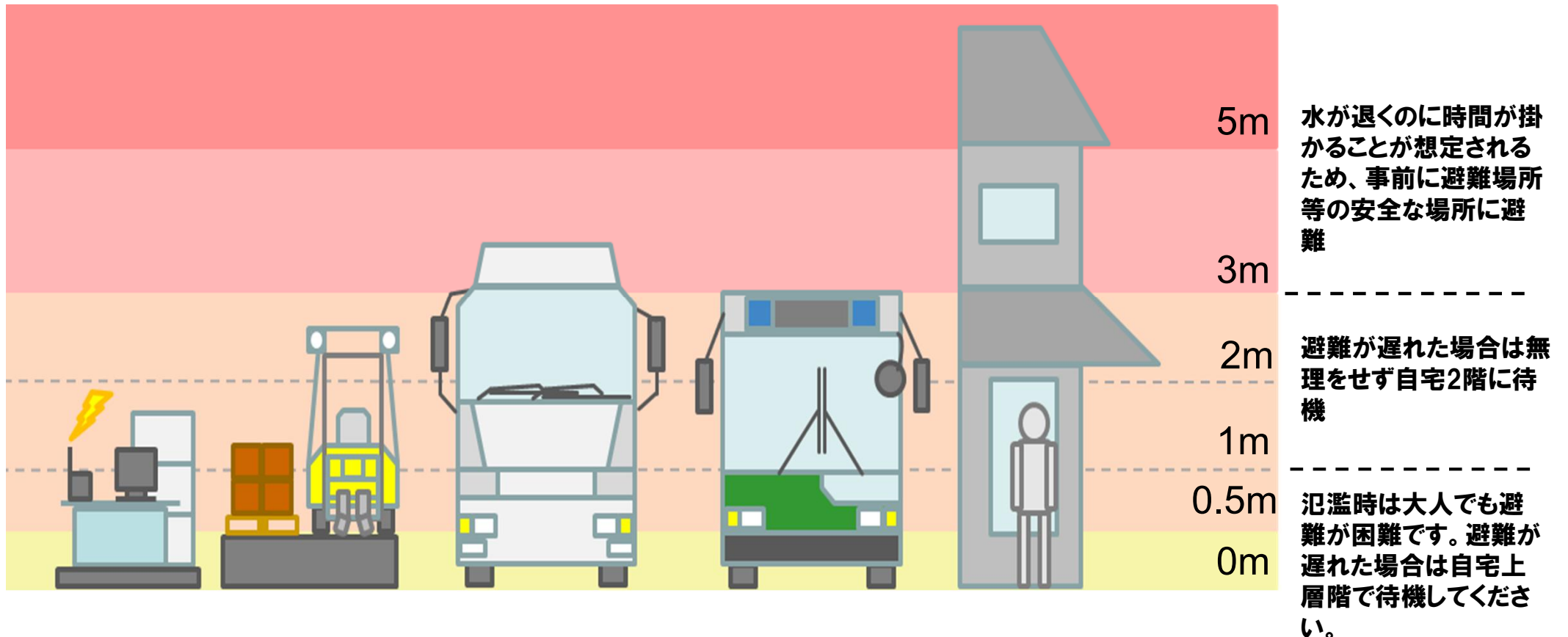
車庫
車両整備の施設・設備 等

住宅

※図は目安です。

※標準の配色

※10m~20mは薄紫、
20m~は紫。



(4) 事前の備え

事故防止と同じく、平素からの取組がポイントであり、平時からの「備え」が不可欠。

事前の「備え」の内容

①計画的装備

リスク評価による最大被害を基に事前準備のレベルと内容を検討。
防災品、燃料、食料の備蓄、避難施設の準備、宿泊場所の確保、非常電源の配備等を計画的に実施。

②緊急連絡網

緊急連絡網の携帯電話等の電話番号リストは常時最新のものを入力。
複数の通信・連絡手段の確保。

③防災マニュアル

マニュアル整備は、社員・職員の役割確認、防災意識向上の意味で有意義。「詳細化」ではなく、行動規範のような内容の方が実用的。

④事業継続計画

防災を経営に必要な事業活動として一体化して考える。事業者全体で自ら策定する過程を大切に。

⑤タイムライン

「平時の準備」「直前の準備」「直後の応急」「復旧(事業継続)」に分けて、自然災害対応のタイムラインを設定、局面毎のリスク評価実施。

自然災害リスク評価のデモンストレーション

会社全体(本社・各営業所、運行エリア)のすべての自然災害を対象とした**リスク評価と対応状況を総括表**に纏め、現状を把握。**今後の対応**については、例えば、**中長期計画**などに纏める。

※総括表は網羅的なものではない。

拠点毎のリスクと事前の備えの見える化

拠点	自然災害リスク					事前の備え							
	地震	津波	液状化	浸水	雪	耐震基準	非常電源	予備燃料	情報冗長	代替通信	止水対策	避難場所	雪対策
本社	大	小	小	大	小	○	○	○	○	○	○	○	○
営A	大	大	大	小	小	○	×	△	○	○	○	○	○
運行エリア	大	大	大	小	小	—	—	—	—	—	—	—	—
営B	大	中	中	大	大	○	○	○	○	×	×	○	○
運行エリア	大	中	中	中	大	—	—	—	—	—	—	—	—
営C	大	中	小	中	中	○	×	△	○	○	○	○	○
運行エリア	大	小	小	大	中	—	—	—	—	—	—	—	—
営D	中	小	大	中	大	○	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	中	小	大	大	大	—	—	—	—	—	—	—	—
営E	大	小	小	大	小	×	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	大	大	小	小	小	—	—	—	—	—	—	—	—
営F	大	大	小	小	小	×	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	大	大	小	小	小	—	—	—	—	—	—	—	—

計画的装備 燃料の確保について

事前の備えとして、**燃料の確保及び安定供給**が重要。あるバス会社の事例

被災前

◆社用車



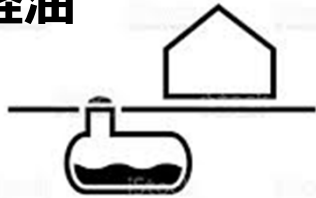
マイクロバス(軽油)



ワゴン車(ガソリン)

◆地下燃料タンク

→ 軽油



★社員の通勤手段

→ ガソリン



被災直後

ガソリンが入手困難な状況がしばらくの間続いた。



地下燃料タンクの軽油を使用してマイクロバスで**運転士を送迎**！



被災後

◆社用車 **ディーゼル車へ統一**



マイクロバス(軽油)



ワゴン車(**軽油**)

◆地下燃料タンク

① **供給頻度を高める**

(例 週1回 → 週4回)



② 燃料供給事業者の**複数化**

③ 地下燃料タンク**容量の拡張**

◆非常電源

軽油対応の非常用発電機を配備

常に使える状態に維持！



風水害対応のタイミングをはかる情報

5日先までの早期注意情報(警報級の可能性)

〇〇県南部の早期注意情報(警報級の可能性)

南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。
また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

翌日まで
・天気予報と合わせて発表
・時間帯を区切って表示

2日先～5日先まで
・週間天気予報と合わせて発表
・日単位で表示

種別	警報級の可能性						
	3日	4日		5日	6日	7日	8日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24					
大雨	[中]	-		-	-	[中]	-
暴風	-	[高]		-	[中]	[高]	-
波浪	-	[高]		-	[中]	[高]	-

[高]: 警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。

[中]: [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

※警戒レベルとの関係
早期注意情報(警報級の可能性)*...【警戒レベル1】
*大雨に関して、明日までの期間に[高]又は[中]が予想されている場合。

翌日まで

前日の夕方の段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

2日先～5日先まで

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

航空事業者における機材退避タイムライン 例示

中日本航空株式会社の機材退避タイムライン(防災行動計画)の例示



「いつ」

「どのように」「何をするか」

「誰が」

時期(時間経過)	行動	担当部署
台風接近予定の7~10日前	台風情報の収集(予想進路、大きさの把握)	運航管理部
	台風対策の必要性の判断	同上
台風接近予定の5~7日前	業務部長 を委員長とする「 台風対策委員会 」を開催し、今後の対策を決定	台風対策委員会
	台風が接近している運航所等からの情報収集	運航関係部門
	台風の接近情報を元に運航スケジュールの調整	業務部
	運航機材等の避難場所の確保及びその折衝を実施	同上
	台風対策を記載した「台風対策一覧表」を作成し、社内外に周知	同上
	機体を移送する運航乗務員を確保	運航部
台風接近予定の3~5日前	台風の影響を受ける運航所等から、避難先の運航所等へ機材の移送を開始	同上
台風接近予定の2~5日前	避難先の運航所等の格納庫等で機材を格納	
台風の通過後	台風の通過後に「 台風対策委員会 」により、平時の体制に戻す判断を決定	台風対策委員会
	「 台風対策委員会 」の決定後、避難先に格納していた機体を元の運航所へ移動	同上

鉄道における利用者等への情報提供タイムライン例示

気象状況 (気象庁における予報・気象情報の状況を含む。)	計画運休開始時刻から概ねの時間	掲載内容例	行動
台風の進路予報円(暴風域)が当該路線沿線を通る可能性があるとの予報を発表	(例)48時間前	計画運休の可能性を情報提供 例) 台風第〇号の接近に伴い、… 〇日(〇)の〇時頃から列車の運転を取り止める可能性があります。最新の気象情報と列車運行状況にご注意いただきますようお願い申し上げます	ウェブサイト、SNS、駅頭掲示等で多言語で情報提供(注)
台風の進路予報円(暴風域)が当該路線沿線を通る可能性が高いとの予報を発表	(例)24時間前	〇月〇日の運転計画(計画運休)の詳細な情報提供(随時更新) 例) 台風第〇号の接近に伴い、… 〇月〇日(〇)の〇時以降順次列車の運転を取り止める予定です。なお、台風の進路等によって計画が変わる場合がございます。次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	↓ 適切なタイミングで報道機関、都道府県等へ情報提供
当該路線沿線に大雨・強風等の注意報発令			↓ 市区町村へ情報提供
当該路線沿線に大雨・暴風等の警報発令			
当該路線沿線を台風が通過	計画運休実施	当日の運転計画(計画運休)の詳細な情報提供(随時更新) 例) 台風第〇号の接近に伴い、… 〇月〇日(〇)の〇時頃から順次列車の運転を取り止め、概ね〇時までには全ての列車の運転を取り止めます。なお、台風の進路等によって計画が変わる場合がございます。… 次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	(注) 適宜情報を抜粋し、多言語により情報提供を行う。
当該路線沿線を台風が通過した後	(例)24時間後	明日以降の運転再開見込みについての情報提供(随時更新) 例) … 台風通過後、風雨が落ち着いた段階で、線路等の安全点検を係員が実施します。その結果、… 倒木・土砂流出入等を確認した場合には、朝の通勤時間帯において、列車の運転が困難となる見込みです…。 次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	

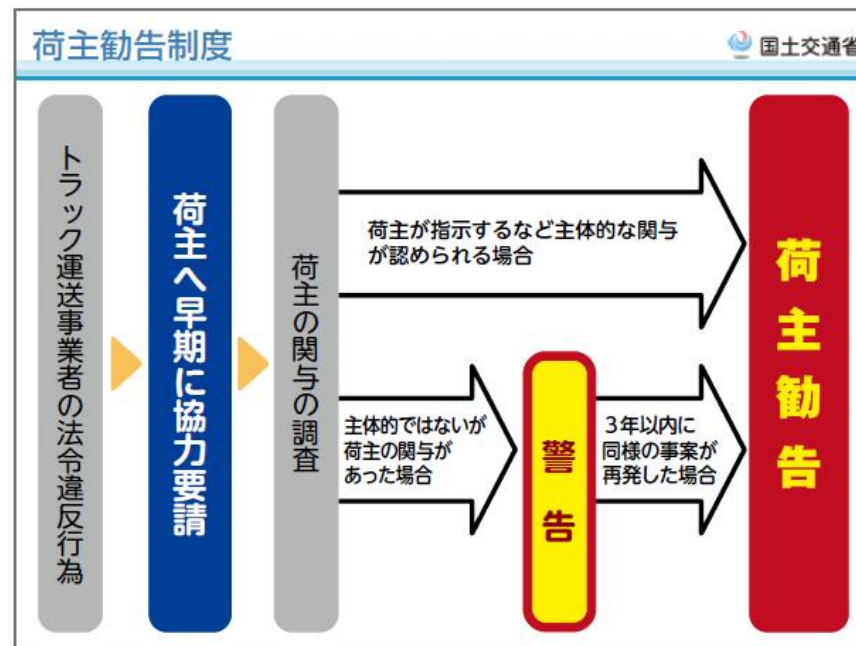
荷主等と連携したトラック事業者の防災について

気象予報等からある程度予測可能な台風・大雪等については、国から示された「異常気象時における措置の目安」を基に、**着荷主・発荷主等と連携**を図りつつ、安全が確保されるまでの間、**運行を一時中断(計画運休)する等、予め協議・協定締結**を行うことをご検討ください。

なお、安全な輸送を行うことができないと判断したにもかかわらず、荷主等に輸送を強要された場合、**国土交通省にその旨を通報する手段**が設けられています。

⚠️ 異常気象時における措置の目安 ⚠️

気象状況	雨の強さ等	気象庁が示す車両への影響	輸送の目安*
降雨時 	20~30mm/h	ワイパーを速くしても見づらい	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	30~50mm/h	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	輸送を中止することも検討するべき
	50mm/h以上	車の運転は危険	輸送することは適切ではない
暴風時 	10~15m/s	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	15~20m/s	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる	
	20~30m/s	通常で速度で運転するのが困難になる	輸送を中止することも検討するべき
	30m/s以上	走行中のトラックが横転する	輸送することは適切ではない
降雪時 	大雪注意報が発表されているときは必要な措置を講じるべき		
視界不良(濃霧・風雪等)時 	視界が概ね20m以下であるときは輸送を中止することも検討するべき		
警報発表時 	輸送の安全を確保するための措置を講じた上、輸送の可否を判断するべき		



無理な輸送を強要されたら、下記へ情報提供を!



※ 輸送を中止しないことを理由に直ちに行政処分を行うものではないが、国土交通省が実施する監査において、輸送の安全を確保するための措置を適切に講じずに輸送したことが確認された場合には、「貨物自動車運送事業者に対する行政処分等の基準について(平成21年9月29日付け国自安第73号、国自貨第77号、国自整第67号)」に基づき行政処分を行う。

(9) 関係者との連携

(9) 関係者との連携

運輸事業者は、関係者（以下の①、②、③）との

連携関係を構築することが防災力を高める上で重要



① 地方自治体との連携

大規模な自然災害が発生した場合、運輸事業者の経営資源（要員や機材等）だけでは救助活動等に対応できない場合も想定されるため、地方自治体や国と被災情報を共有し、被災者の避難、救助、救護に向けた活動が円滑かつ迅速にできるよう、**地方自治体との間で連携関係（災害協定の締結等）を構築**しておくことが重要

② 国の行政機関との連携

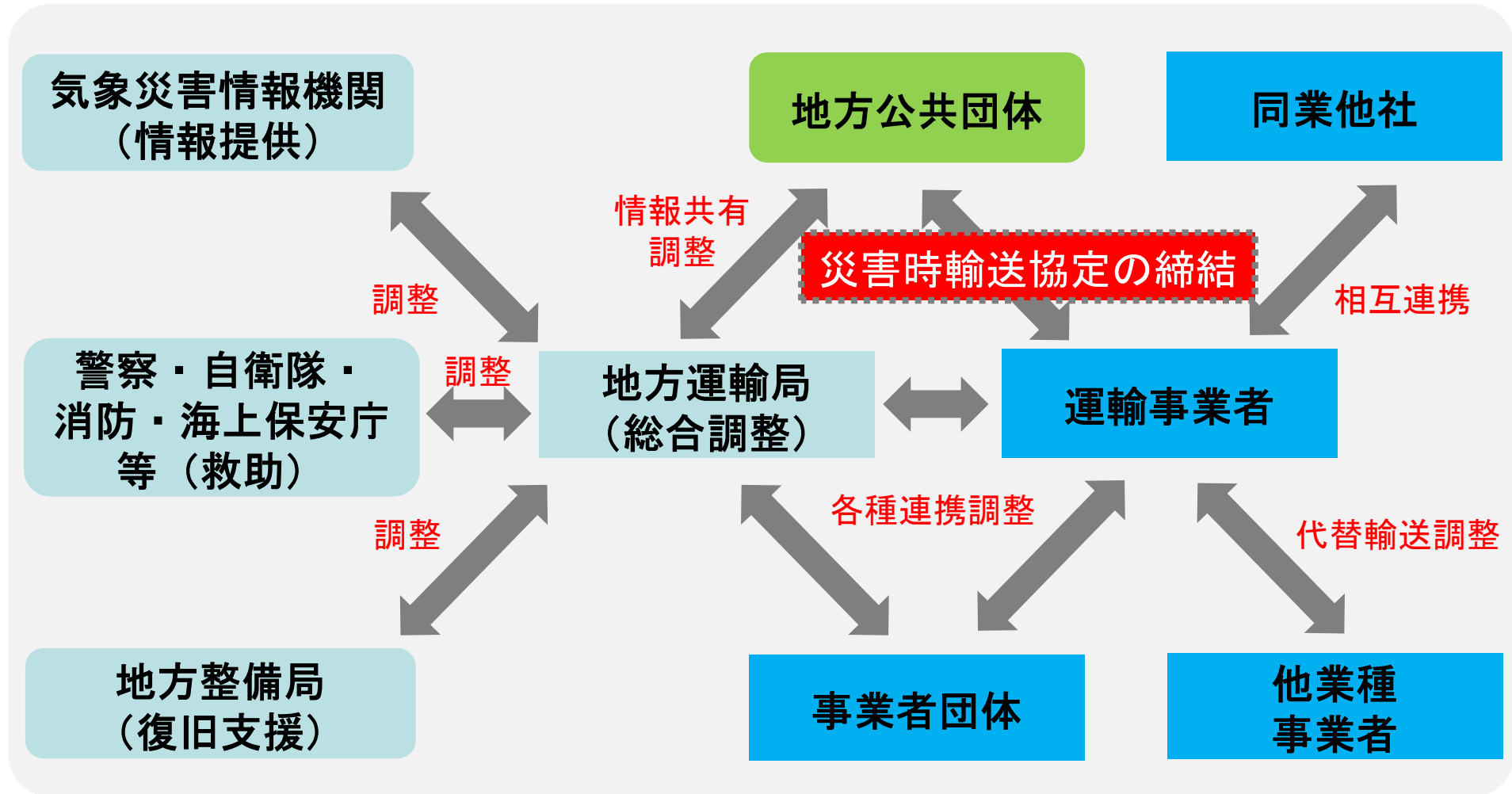
緊急時の警察、消防、海上保安庁への救助要請、国土交通省の地方行政機関である地方整備局、地方气象台、地方運輸局、地方航空局は、TEC-FORCEの派遣等による被災地支援することが可能。事業者からも、**防災訓練等の機会も活用**して、**国の関係機関に気軽にアプローチ**して頂き、**緊密な連携関係を醸成していくこと**が望まれる

③ 他の運輸事業者との連携

被災時の迅速な代替輸送を行うためには、**予め他の事業者との間で代替輸送に係る取り決め**を行っておくと、速やかに代替輸送を立ち上げることが可能。地域コミュニティにおける共助の観点からは、**同じ地域に所在する事業者間で防災の協力関係を構築しておくこと**も期待

「顔の見える関係」の構築

大規模な自然災害が発生した場合に備え、国、地方公共団体、運輸事業者との連携のトライアングルを構築し、日頃から「顔の見える関係作り」や「災害協定」を締結しておくことで、何処に連絡すれば、どのような対応を行ってくれるか判断できます。



解説 「顔の見える関係」の具体的なイメージとしては、異動等により担当者の交代があった場合でも、公用（社用）携帯番号を交換でき、困った時に相談が出来るレベルを想定

地方公共団体と連携した物流事業者の災害対応能力強化事業

事業目的

6億円（令和7年度補正予算）

- 能登半島地震の経験を踏まえ、**地方公共団体と連携した物流事業者の災害対応能力の強化**を促すため、**地方公共団体と災害協定を締結した物流事業者の物資輸送訓練**や**物流施設への非常用電源設備の導入**等を支援。

要求の背景・経緯

- 能登半島地震の際は、**物流専門家の不在等により、ラストマイルにおける支援物資の輸送や保管に混乱**が生じた。



手積み・手卸し



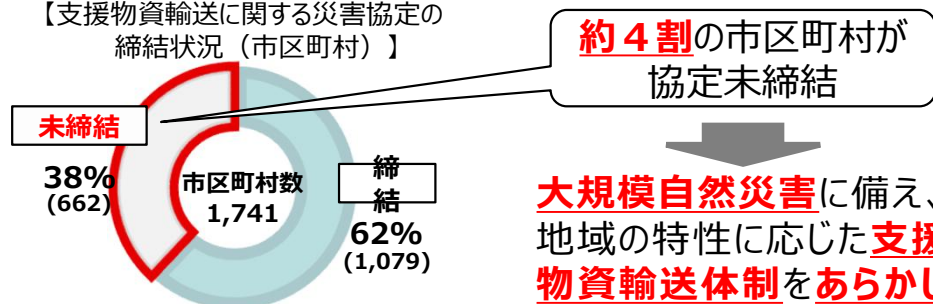
床が抜け落ちた体育館



雑然と平積みされた物資

- 一方で、**約4割の市区町村**では、輸送・保管・物流専門家の派遣に係る**物流事業者との災害協定を締結していない**。

【支援物資輸送に関する災害協定の締結状況（市区町村）】



大規模自然災害に備え、地域の特性に応じた**支援物資輸送体制**を**あらかじめ構築**しておくことが重要

- また、**営業倉庫等の物流施設**は、災害対策基本法に基づく**防災基本計画**で災害時の物資拠点としての役割が期待されており、**国民の安定的な生活の確保と社会の安定の維持に不可欠なサービス**として事業の継続が不可欠。

事業概要

① 地方公共団体と連携した物資輸送訓練の実施支援

- ・災害時のラストマイル輸送における人員不足等が懸念されている**地方公共団体と物流事業者等との連携訓練**を支援。



フォークリフト等を使って荷卸し、荷積み



パレットに載せられた物資

② 物流施設への非常用電源設備の導入支援

- ・災害時等においても物流拠点の電源機能を維持し、**迅速かつ円滑な物資輸送体制を維持・確保**するため、**サプライチェーン上で重要な物流施設への非常用電源設備の導入**を支援。

＜非常用電源設備＞



280kW



40kW

1. 自然災害の発生と被害状況
 - ✓ 自然災害の頻発化・激甚化
 - ✓ 被災経験事業者の課題認識と対応事例
2. 運輸防災マネジメントのポイント
 - ✓ 経営トップの責務
 - ✓ 安全方針と防災の基本方針
 - ✓ リスク評価
 - ✓ 事前の備え
 - ✓ 関係者との連携
3. その他のポイント
 - ✓ 他事例からの学び
 - ✓ 参考情報

運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン 令和5年6月

検索



他事例からの学び

■他事例学からの学び

自然災害対応の取組は、自然災害が実際に発生しない限り、その成果が見えにくいのも事実です。このため、実際の自然災害に対応した同業他社、他モードの事業者の取組とその成果と教訓、その後の改善の取組状況を学び、「他山の石」として、自社の取組に反映させることが効果的と考えられます。

【参考】大臣官房運輸安全監理官は、以下のWEB サイトで取組事例を公開しています。

【国交省 取組事例】 https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html

現在、自然災害への対応に関する取組事例を収集中、今後、追加予定です。



【取組事例】災害対応車両の導入

自動車モード（バス）〈しずてつジャストライン株式会社〉

概要

平成28年3月に乗務員の運転技能向上を目的に訓練用の車両（**安全運転訓練車**）を導入。この車両には、大規模災害が発生し、事務所が倒壊等により運行管理が出来なくなった際に、**バスの運行を継続するために必要な機能を装備**している。これにより、災害地域の運行状況を把握し、**早期の運行再開に向けた体制を構築**している。

【安全運転訓練車内災害対策機能エリアに搭載されている設備・機能】

〈情報発信・情報収集〉

無線機、広域用の無線アンテナ（車外）、情報収集用のTV、防災ラジオ、パソコン、

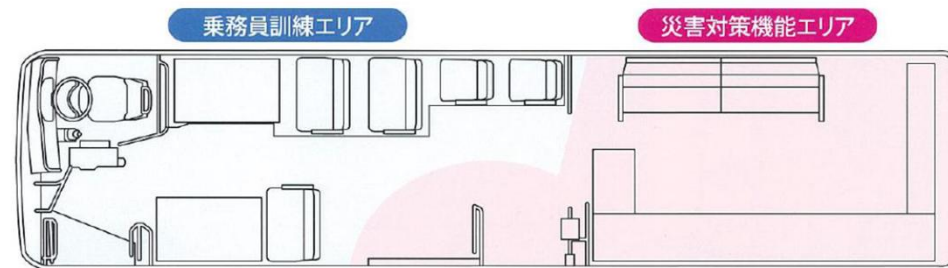
モバイルデータ通信装置

〈運行管理〉

アルコール検知器、デジタルタコグラフ解析器、簡易金庫解錠器

〈電源の確保〉

発電機



訓練車の見取り図



発電機



災害対策機能機器

取組の効果

- ① 災害発生後、**早期に運行が再開できる体制の確立**
- ② 乗務員の**防災意識の向上**

【取組事例】 貨物船の緊急出港訓練の実施

海事モード（内航貨物） <日鉄物流株式会社>

概要

甲板部職員による主機の緊急起動訓練。運航船舶が地震による津波に遭遇した際に、主機を緊急起動して港外に避難することにより安全を確保。

取組

着岸中の船舶は、一部の乗組員を残して上陸することが多く、甲板部の職員のみが乗船している時に地震が発生した場合、**機関部の職員が乗船していないため、主機関が起動できないことが懸念**される。これは、通常、甲板部の乗組員は、主機関の起動に関する訓練を受けていないためである。

甲板部乗組員への主機起動訓練の実施は、日鉄物流の **2018 年重点活動項目** であり、主な活動内容として、「**津波等により緊急出港の備えとして、甲板部乗組員に対する主機起動を実施**する。」としている。2018 年 6 月からの起動マニュアル作成船舶数は約 68 隻、訓練の実施船舶数は約 39 隻。

取組の効果

自社船の震災遭遇に端を発して必要性を感じた訓練であり、実際に災害に直面した場合、**訓練以上に行動することは困難との考え**に基づいており、**非常時の備えとして有効**であると認識。



【緊急起動の訓練状況】

【取組事例】 災害時の電源喪失リスクへの対策

航空モード（回転翼）＜オールニッポンヘリコプター株式会社（ANH）＞

概要

北海道胆振東部地震（2018年9月）の際に発生した北海道全域大停電「ブラックアウト」を契機に、大規模災害が発生した場合でもNHKからの報道取材要請に対応すべく運航を継続できる体制構築が重要との認識が高まった。

ANHは、NHKのニュース等のための取材フライトを専業とし、NHKは、災害対策基本法で報道機関として唯一、国の指定公共機関に指定され、自然災害発生時に迅速・正確に国民に情報を伝える役割を担っている。このため、回転翼機を使用したNHK 報道の国内の航空取材のほぼ全てを担っていることから、非常に高い運航継続性を維持することが求められる。

国内基地・拠点のうち7か所（札幌、仙台、東京、群馬、静岡、福岡、沖縄）に非常用予備電源を順次整備中。導入時、給電停止による仮想停電における自動起動での発電機稼働と給電回復時の自動停止の動作確認を兼ね訓練を実施後、週1回の自動試運転を実施。

【非常用予備電源の設備概要・機能】

- ・各基地の3日間の停電に備えた燃料確保
- ・維持管理が簡易な燃料：LPガス
- ・停電発生時の自動起動による発電開始機能
- ・復電時の自動停止機能
- ・セルフチェック機能（週1回の自動試運転を実施）



(ANH 本社屋上電源設備)



(ANH 福岡基地電源設備)

取組の効果

- ① 大規模停電時においても、報道取材ヘリの運航が継続できる体制の確立
- ② 大規模災害発生後、早期に運航が再開できる体制の確立

その他(参考となるWeb情報等)

■川の防災情報(国土交通省)

原則、国または都道府県等が管理している一級河川、二級河川の情報(国、都道府県等が管理している水位観測所、雨量観測所等の情報)を対象とし、目的に応じて必要な情報を探ることができます。

The screenshot displays the '川の防災情報' (River Disaster Information) website interface. At the top, there are tabs for '全国の状況' (National Status) and '気象・土砂災害' (Weather/Landslide Disasters). The main content area is divided into several panels:

- ダム放流通知** (Dam Discharge Notification): Lists dams like 岩尾内ダム, 大雪ダム, 札内川ダム, 定山溪ダム, 十勝ダム, and 美利河ダム with their respective discharge status.
- レーダ雨量 (XRAIN)** (Radar Rainfall): Shows a map of Japan with radar rainfall data.
- 気象警報・注意報、土砂災害警戒情報** (Weather Alerts, Warnings, and Landslide Disaster Precaution Information): Displays a map of Japan with weather alerts.
- 河川カメラ** (River Camera): Shows a live video feed of a river.
- 川の水位情報** (River Water Level Information): Shows a map of Japan with water level data.
- 洪水予報、水位到達情報** (Flood Forecast, Water Level Arrival Information): Shows a map of Japan with flood forecasts.
- 洪水キキクル (危険度分布)** (Flood Risk Distribution): Shows a map of Japan with flood risk distribution.
- 土砂キキクル (危険度分布)** (Landslide Risk Distribution): Shows a map of Japan with landslide risk distribution.
- 水害リスクライン** (Water Disaster Risk Line): Shows a map of Japan with water disaster risk lines.
- 避難情報** (Evacuation Information): Shows a map of Japan with evacuation information.

At the bottom, there are two search buttons: '川の防災情報' and '川防 English', both with '検索' (Search) buttons and QR codes. A hand cursor is shown clicking on the search buttons.

※「気象警報・注意報、土砂災害警戒情報」「洪水キキクル(危険度分布)」「土砂キキクル(危険度分布)」は気象庁ウェブサイトへリンクしています。
※「川の水位情報」は危機管理型水位計運用協議会が運用するホームページへリンクしています。
※「シアラート」は、市町村等が発令した避難指示などの災害関連情報を、一般財団法人マルチメディア振興センターが収集、メディア等に対し一斉に配信する災害情報共有システムです。
※掲載の情報には、無人観測所から送られてくるデータを観測後直ちに表示しているものが含まれており、機器故障等による異常値がそのまま表示されている可能性があります。
他の水位情報、気象情報も併せて確認してください。

参考となるWeb情報

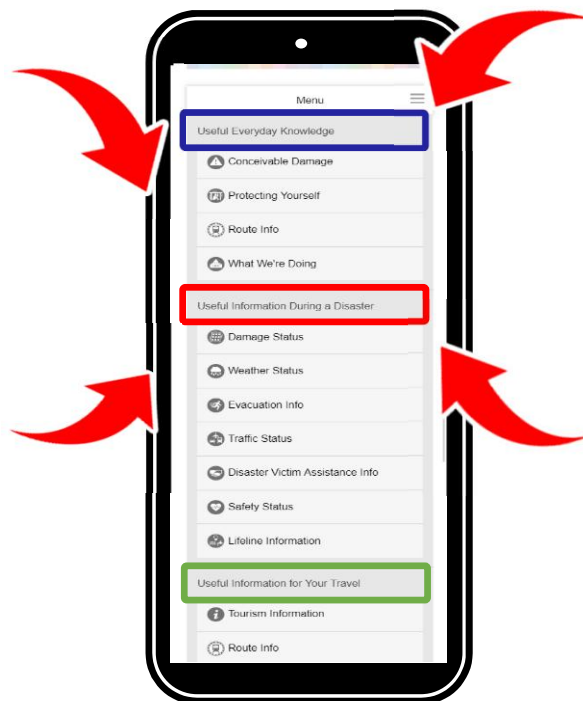
■防災ポータル/ Disaster Prevention Portal (国土交通省)

国土交通省や各関係機関等の情報提供ツールを一元化して、多言語化やスマートフォン対応等により、国内外の方々が平時から容易に防災情報等入手できるよう、防災ポータルを公開しています。

〈災害時、見てほしい情報〉

<p>被害状況</p>  <p>リアルタイム情報や速報等により、災害発生後、いち早く被害の状況を見ることができます。</p>	<p>気象状況</p>  <p>台風などの気象情報のほか、国土交通省等による雨量や河川の水位などを見ることができます。</p>
<p>逃げるための情報</p>  <p>避難所等の防災施設を検索できます。</p>	<p>交通・物流情報</p>  <p>交通規制等の道路交通情報や鉄道・航空各社の運行情報、物流会社の配送状況を見ることができます。</p>
<p>被災者支援情報</p>  <p>避難所や防災センターの基礎知識、行政の防災情報、防災施設を検索できる防災マップ、多言語生活情報などを見ることができます。</p>	<p>被災者支援情報</p>  <p>避難所や防災センターの基礎知識、行政の防災情報、防災施設を検索できる防災マップ、多言語生活情報などを見ることができます。</p>
<p>ライフライン情報</p>  <p>最新のライフライン状況（電気・水道・ガス・通信）を見ることができます。</p>	<p>安否情報</p>  <p>災害用伝言サービスや安否情報検索サービスから、知人の安否情報を見ることができます。</p>

関係機関の情報提供ツールが一元化



〈日頃から知ってほしい情報〉

<p>被害想定</p>  <p>起こりうる自然災害について、想定される被害状況やハザードマップ等を見ることができます。</p>	<p>身の守り方</p>  <p>災害の基礎知識や、災害時に身を守るための知識を見ることができます。</p>
<p>路線情報</p>  <p>バス・鉄道の路線図を見ることができます。</p>	<p>私たちの取り組み</p>  <p>国土交通省等が取り組む災害対策などの情報を見ることができます。</p>

〈旅のお役立ち情報〉

<p>路線情報</p>  <p>バス・鉄道の路線図を見ることができます。</p>	<p>観光情報</p>  <p>観光情報や無料Wi-Fi、宿泊施設等の情報を見ることができます。</p>
---	---

Point 対応言語は8言語



防災ポータル

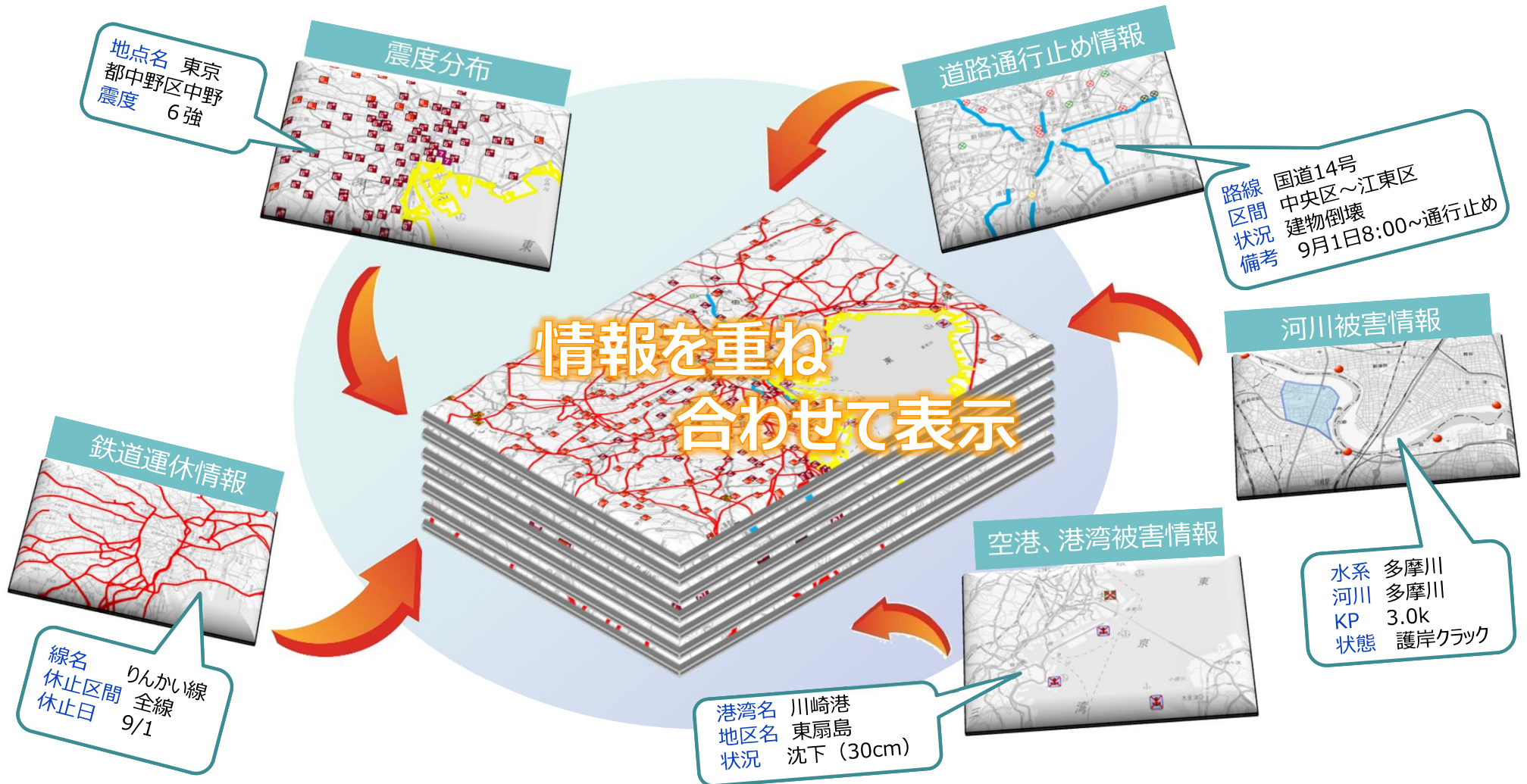
検索



参考となるWeb情報等

■統合災害情報システム (DiMAPS) (国土交通省)

地震や風水害等の災害時に、国土交通省の関係部局からの被害報告や他システムの情報等をWeb地図上に集約し、統合表示するシステムで、災害情報の迅速な共有が可能となります。被害の全体像を含め災害対応に必要な情報を迅速に把握し、オペレーション等に活用ができます。



統合災害情報システム

検索



参考となるWeb情報等

④訪日外客等への災害情報提供

日本政府観光局（JNTO）等にて、自然災害発生時等に役立つ各種情報提供が行われています。

〇多言語コールセンター「Japan Visitor Hotline」(050-3816-2787)

- ・病気、災害等、非常時のサポート及び一般観光案内を実施。
- ・365日、24時間、英語・中国語・韓国語で対応。

〇公式Twitter／微博（Weibo）「Japan Safe Travel」

自然災害に関する警報・注意報、各交通機関の交通障害、感染症や熱中症の注意喚起など訪日中の旅行者の安心・安全につながる情報を配信。

※URL(X) : <https://twitter.com/JapanSafeTravel>

※URL(微博) : <https://weibo.com/u/7385501623>



〇スマートフォン向けアプリ「Safty Tips」

日本国内における緊急地震速報、津波警報、気象特別警報、噴火速報、避難情報、熱中症情報、Jアラート等をプッシュ型で通知できる他、対応フローチャートやコミュニケーションカード等、災害時に必要な情報を収集できるリンク集等を掲載しているもので、観光庁が監修しています。対応言語は15言語（英語・中国語（簡体字/繁体字）・韓国語・日本語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語・インドネシア語・タガログ語・ネパール語・クメール語・ビルマ語・モンゴル語）です。



iPhone



Android

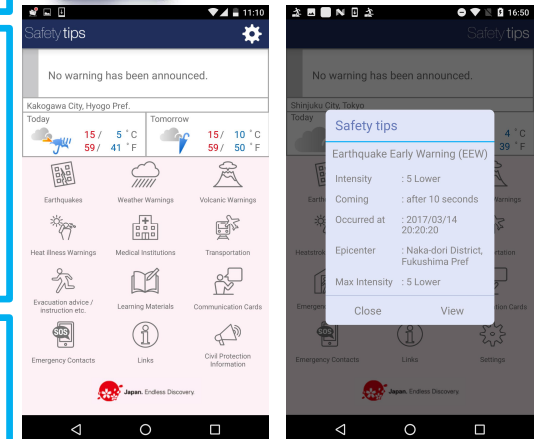
〇JNTOグローバルウェブサイト

このウェブ内のImportant Notice内の「Japan Safe Travel Information」で、災害情報、主な鉄道・空港・航空の情報、医療関係情報等を提供。

※URL : <https://www.jnto.travel/en/news/JapanSafeTravel/>

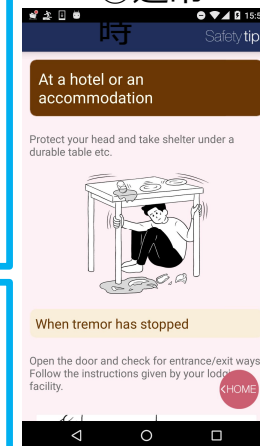


※Safety Tips Appにおける地震発生時のプッシュ通知

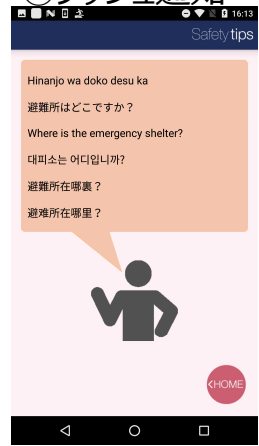


①通常

②プッシュ通知



③取るべき行動



コミュニケーションカード



※詳しくはコチラ➡ https://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/safetravelinfo.html

ご清聴ありがとうございました。

大規模自然災害に備えた机上訓練の実施

令和8年6月12日

沖縄総合事務局 運輸部総務部総務課

VERSION	DATE	REMARKS
Ver1.0	14/05/2024	
Ver1.1	01/05/2026	

大規模自然災害に備えた机上訓練について

◆ 机上訓練の目的

- ① 大規模災害が起きると冷静さを失い、正しい判断や行動がとれません。
このため、災害に応じた行動をマニュアルに定めて周知することは重要です。
- ② 一方、実際に大きな地震が起きたときは、マニュアル通りにならず、状況の変化に応じた判断と行動が要求されます。このため、「マニュアルがあれば大丈夫」でなく、被災状況が時々刻々と変化する机上訓練等を実施し、災害に対して柔軟に対応できるようにすることが重要です。

◆ 机上訓練の実施方法

- ① 発災直後の現場は、不確かな情報や曖昧な情報の中で、避難・救助・救護に向け、迅速な対応を行うことが求められています。
- ② そのため、日頃から、経営トップ・現場は、得られる情報が少ない前提で作成されたシナリオから、想像力を働かせ、どんな危険が差し迫っているか、どのような対応が考えられるかについて数人のグループで話し合い、想像力、危険感受性、判断力、行動力を向上させてください。
- ③ また、シナリオは、自社にとって起こりそうな災害を念頭に、状況が時々刻々と変化するような「本番さながら」とするのがポイントです。

大規模自然災害に備えた机上訓練について

◆ 本日の進め方について

以下の手順で進行します。

- ① 運行中の路線バスが**地震に遭い、津波が来ることを想定した状況設定**です。運転手（受講者の皆様）には、**限られた情報のみを提供して、考えて判断・行動するという模擬体験**になります。
- ② 今回の模擬体験では、状況設定に応じた**質問を4つ**行い、受講者の皆様には、**正しいと考える判断・行動をイメージして頂きたい**と考えています。
- ③ 回答ごとに、質問の設定理由、取組の方向性を解説します。
- ④ 4つの質問終了後に、**机上訓練を通じて経営管理部門が行うべき取組**を解説します。

質問 1

質問 1. (テーマ：防災の基本方針、手順書)

あなたは、太平洋沿岸部の路線を運行中のバスの運転手です。運行中、突然、ガタガタガタ・・・という大きな長い揺れが発生し、この先の道路が壊れているかどうか分からなくなりました。

あなたは、発災後、災害時対応マニュアルに記載されている「防災の基本方針」や「対応手順」を思い出せますか？

(3分程、考えてください。)

1. 思い出せる
2. 思い出せない
3. 防災の基本方針は未策定
4. その他

【参考】冷静な対応に向けた取組事例（トラック事業者）

自動車モード（トラック）＜西濃運輸株式会社＞

概要 取組事例 緊急時対応ボックスの作成

平成7年1月の阪神淡路大震災の経験から、**災害発生時には即座に被害軽減のための対応を行わないと間に合わない**こと、また**既存の文書に対応を記載しても忘れてしまう**ことを学んでいる。

このため、**災害発生時に行うべきことをわかりやすく記載したカード**を収納する緊急時対応ボックス（通称**マル緊BOX**、下記画像を参照）を作成し、すぐに取り出しを可能とするため、店所長席の後方（キャビネットの上など）に保管している。

【マル緊BOXの内容】

（1）災害時対応項目カード

発災時の時に対応すべきことを時系列に「最優先確認事項」、「ライフラインの関係」、「事業継続関係」の順番にカード化し、災害時に各担当者にこのカードを渡して容易且つ迅速に対応する仕組みを構築

（2）災害用ベンダー（自販機）の鍵

発災時の飲料水確保のため、マル緊BOXに災害用ベンダー機能がある飲料用自販機を開錠するための鍵を保管。

取組の効果

平成30年7月の西日本豪雨の際、店所長がマル緊BOXから風水害に係るカードを担当者に振り分け対応したが、**落ち着いて行動することができた。**



マル緊BOX

質問 2

質問 2 (テーマ : 状況判断)

大きな長い揺れを感じてから 5 分後、運行管理者に連絡しましたが、通信回線が不通となっており、連絡がつきません。

周りの住民も逃げていないし、以前に経験した地震でも津波被害はありませんでした。あなたは、どのような判断をしますか？ (3分程、考えてください。)

1. その場に停車して様子を見る
2. 直ぐに避難する
3. その他

質問 3

質問 3 (限られた情報や曖昧な情報等の提示)

大きな長い揺れを感じてから10分後、以下の限られた情報や曖昧な情報から、各グループで次の行動を決定し、その判断に至った理由も含め、相談して下さい。

(3分程、考えてください。)

(限られた情報)

- ①災害対応マニュアルには、旅客を安全に津波避難場所まで誘導するよう明記
- ②旅客は高齢者が5人、学生が2人の合計7人

(曖昧な情報)

- ③旅客からの情報により、津波の到達時間まで後15分程しかないと把握
- ④旅客Aから、現在地から徒歩で10分程離れた高台に津波避難場所があると
の情報を入手
- ⑤旅客Bから、今、停車している場所は津波避難場所より高台に位置しているから、今いる場所に留まった方がいいと提案

【参考】安全方針に盛り込む場合の例示

事例：JR東日本の安全綱領

(1) 安全綱領

安全に関わる社員の行動規範として安全綱領を、2012年3月に改正しました。これまでの多くの経験や東日本大震災での対応を踏まえ、「異常時は、まず冷静になってから選択肢を並べ、最善の行動を選択する」という趣旨と、JR東日本の安全推進の基本的な考えである「自ら考え行動する」という趣旨を反映することとし、第5項に「**あわてず、自ら考えて、**」という表現を加えました。

1. 安全は輸送業務の最大の使命である。
2. 安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
3. 確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
4. 安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
5. 疑わしいときは、**あわてず、自ら考えて、**最も安全と認められるみちを 採らなければならない。

【参考】津波避難行動心得

JR東日本は2012年1月、次の「津波避難行動心得」を策定しています。その(四)に避難したあとも、「ここなら大丈夫だろう」と油断せず、より高所へ逃げるという項目が明記されています。

- (一)大地震が発生した場合は津波を想起し、自ら情報を取り、他と連絡がとれなければ自ら避難の判断をする。(避難した結果、津波が来なかったということになっても構わない。)
- (二)避難を決めたら、お客さまの状況等を見極めたうえで、速やかな避難誘導を行う。
- (三)降車・避難・情報収集にあたっては、お客さま・地域の方々に協力を求める。
- (四)避難したあとも、「ここなら大丈夫だろう」と油断せず、より高所へ逃げる。
- (五)自らもお客さまと共に避難し、津波警報が解除されるまで現地・現車に戻らない。

出典：JR東日本安全報告書2014



避難場所



避難所



津波避難場所



津波避難ビル

質問 4

質問 4（さらなる状況変化の質問例）

あなたは、前の質問で「1. 災害対応マニュアルの規定通り、徒歩で、避難場所へ移動する」を選びました。

ところが、足の不自由な高齢者が徒歩の避難をためらっています。

各グループで次の行動を決定し、その判断に至った理由も含め、相談して下さい。（3分程、考えてください。）

【参考】二次元コードを活用した避難経路情報の提供

鉄道モード <近畿日本鉄道株式会社>

概要 取組事例 二次元コードを活用して避難経路情報を提供する取組

巨大地震の発生等により津波が襲来する可能性のある三重県、愛知県の路線について、駅（51 駅）に設置している避難場所の地図に二次元コードを付加することで、駅係員不在時であっても、お客様自らが二次元コードを読み取り、スマートフォンやタブレットPCなどにより、避難場所までの地図を確認しながら避難が可能となる取組

取組の効果

- ①災害時にお客様が避難場所までスムーズに避難していただくことが容易となった。
なお、スマートフォンやタブレットなどをお持ちでないお客様のために、従来どおり配布用の地図を備置している。
- ②お客様の乗降が多い駅は、これまで配布用の地図を沢山用意する必要があったが、地図に二次元コードを付加することで、用意する地図の枚数を減らすことができた。



駅の掲示状況(伊勢若松駅)



二次元コード付き避難場所の地図(伊勢若松駅)



他事例からの学び

■他事例学からの学び

自然災害対応の取組は、自然災害が実際に発生しない限り、その成果が見えにくいのも事実です。このため、実際の自然災害に対応した同業他社、他モードの事業者の取組とその成果と教訓、その後の改善の取組状況を学び、
「他山の石」として、自社の取組に反映させることが効果的と考えられます。

【参考】大臣官房運輸安全監理官は、以下のWEB サイトで取組事例を公開しています。

【国交省 取組事例】 https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html

現在、自然災害への対応に関する取組事例を収集中、
今後、追加予定です。



ご清聴ありがとうございました。